月刊もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

２０２０年５月１日　第９２号　第四版　www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ:
迷う事のない迷路を通って
あなただけの番地に届きます

女B　正気ぶっている方が、気違いで、気違いぶっている方が、正気ってこともあるわけよ。

『愛の眼鏡は色ガラス』（全集第２４巻、１９７ページ下段）

目次

０　目次…page ２
１　記録＆ニュース＆掲示板…page ３
２　テープレコーダーを持てー第１回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評：安部公房の講評と採点表：岩田英哉…page８
３　荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む（１０）：化石の書庫：岩田英哉…page ２１
４　『第四間氷期』論：山野浩一…page ２７

５　『周辺飛行』論（５）：３。『周辺飛行』について（２）：ところで君は—周辺飛行２：岩田英哉…page ３２
（１）「周辺飛行１」と「周辺飛行２」の比較によつて解ること
（２）何故「ぼく」は「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」のか
（３）安部公房の存在論の記号を使つて猫の暗号を解読する
（４）「周辺飛行２」の最後と『第四間氷期』の最後を比較する
（５）何故贋宝石屋と手品師は貝殻草の匂ひを嗅いでも贋魚になつた夢を見ないのか？

６　安部公房とチョムスキー（１１）：：岩田英哉…page ４２
１０．日本列島文明の視点から近世・近代ヨーロッパ文明を相対化する：大地母神崇拝と一神教の文明間戦争
１０．１　第二次世界大戦とは一体何であつたか
１０．２　第二次世界大戦を三つの戦域に分ける
１０．３　ヒットラーの頭の中を図解する
１０．４　座談会『近代の超克』（文芸誌『文学界』（１９４２年（昭和１７年）９月及び１０月号））を読む
１０.4.１　『近代の超克』といふ本の部立て
１０.4.２　小林秀雄の発言から此の座談の急所を読む

７　哲学の問題１０１（９）：性（sex）：休載御免：岩田英哉…page ８８
８　リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（３６）：第２部Ｘ：”すべての苦労して手に入れたものを、機械は脅（おびや）かす、”：岩田英哉…page ８９
９　編集後記…page ９８
１０　次号予告…page ９８

・連載物・単発物次回以降予定一覧…page ９５
・本誌の主な献呈送付先…page９５
・本誌の収蔵機関…page ９５
・編集方針…page ９５
・前号の訂正箇所…page９５

ニュース＆記録＆掲示板

The best tweets 10 of the month

該当tweetなし。

青条揚羽@se1z_yo_hre Oct 25
先日、電車内で安部公房の「無関係な死・時の崖」を読んでいる人を発見しました。
話したいと思いました。
無理でした……

今月の読書会
劇団暗黒郷の夢@6dystopiandream Oct 27
本日18時から、スタジオ犀にて
ディストピアの短編を読む読書会があります。

作品
・『論理的帰結』ミヒャエル・エンデ
・『人肉食用反対陳情団と三人の紳士達』安部公房
・『生活維持省』星新一

会場は17時半から入れます。
お菓子を用意して、待ってます！

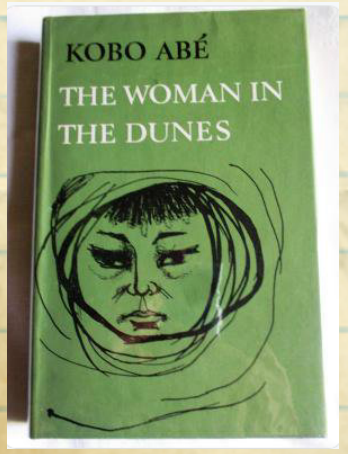
Woody Allen@w1allen Oct 26
【あと2日】10/28の『幽霊はここにいる』関西安部公房オフ会の読書会。 現在、参加表明者二名。
参加者の多寡に関わらず、楽しい読書会にしたいと思います。
http://w1allen.seesaa.net/article/459489077.html …

ホッタタカシ@t_hotta Oct 27
安部公房『水中都市・デンドロカカリヤ』読書会、二次会も無事終了しました。恒例の、参加者による安部公房ファンに薦めたい一作はこちら。 （その1）
#TAP_MTG

ナカタさん『悪魔に仕える牧師』（リチャード・ドーキンス）
シオザワさん『ビールストリートに口あらば』（ジェイムズ・ボールドウィン）

笑福亭智丸@chimaru_s Oct 18
図書室の落語会、お越しいただきありがとうございました！
落語会としては考えられないような構成で長引いてしまいましたが、この会はこんな感じでやります。
次回１１月２２日は安部公房の戯曲「友達」です。星の王子さまからテーマは友達繋がりですが、友達にも色々あるんだなと考えさせられます…

今月の砂の女
YASUTERU KOJIMA@Yasuteru_Kojima Jul 20
Japanese writer Kobo Abe's novel is very interesting. It’s my recommendation.



外界(외계)@blauwoo_off 21h
21 hours ago
安部公房の「砂の女」を #読了 。
砂のじゃらゃらした感じが口に残る。

今月のプレス・ビブリオマーヌ

脳髄ぱんち。@37564magic Oct 28

安部公房_プレス・ビブリオマーヌ刊行の4冊: 脳髄のーと。

ブログ更新しました。

今回は安部公房の古書4冊を紹介します。

安部公房_プレス・ビブリオマーヌ刊行の4冊

　ここ最近、知り合いに安部公房の本をたくさん貸して頂いたり、もらったりでかなり安部公房充してますw 作品に触れれば触れるほどハマっていってしまいま...

fanblogs.jp

今月の人間そっくり

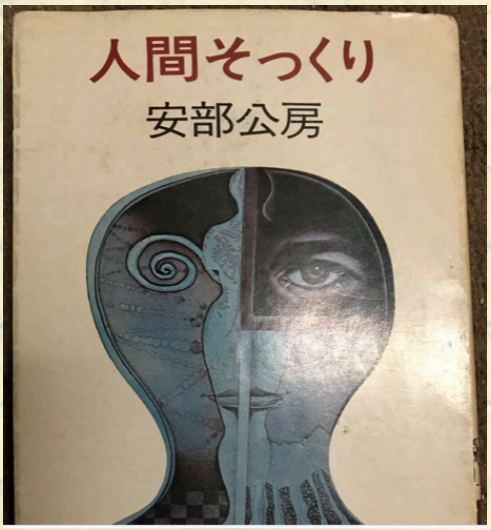
Nori@chiro7470 Oct 31

「人間そっくり/安部公房」 再読

安部公房さん自体は好きなんだけど、コレはあんまりでした。前に読んだ時は結構楽しめた気がするんだけど。

立場が二転三転するはずが、どうもスッキリしないんですよね。

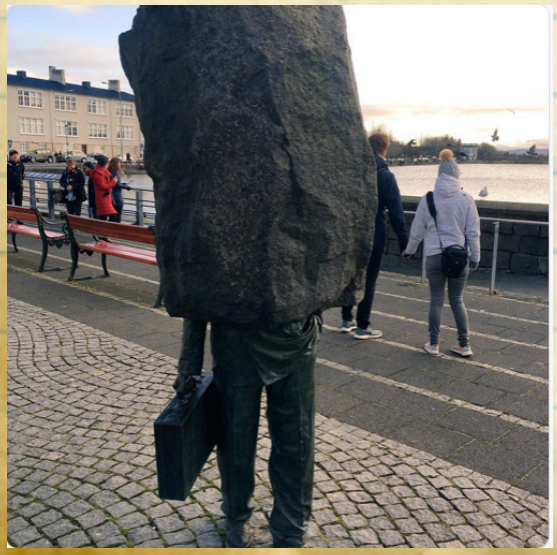
コレ落語に置き換えたら面白くなりそう。



今月の箱男

村田タケル@yuy822 Oct 24

安部公房の小説に出てきそうなオブジェに出くわした



今月の灰皿

しい@0mulanrouge0 Oct 26
安部公房の灰皿

今月の稀覯本発掘

@akutagawa_ranpo Oct 26
いつもひっそりと片隅にある本棚から
こんな本が出てきました。源氏物語から
近代文学、芥川、太宰、三島など有名人
から平成の安部公房まで掲載されていて
遺品のゲラになる参考メモなどがカラーで
掲載されています。詩人などもいて海外文学もあり最強の総覧です。宝物発掘しました

今月の仔象は死んだ

サトミ・エム@satomi3103emu Oct 28
瓜坊描いてたら、ゲシュタルト崩壊起こした。
あれ？これ何かに見えてきて、安部公房
「公然の秘密」の仔象。私の印象なのだけど。

今月の安部公房理解不能者

スリーブ@crazybenpitrain Oct 24
安部公房の密室のレビュー
ちなみにこの人の他のレビューは電マとか制服のコスプレとかだった。

★★☆☆☆ **凡作**
投稿者 Lamaking 2015年1月16日
Amazonで購入
形式：文庫

つまらない。妄想を難しい文字にしただけ。
馬だのペニスだの、性に対する稚拙な表現も痛々しい。
駄作の下の凡作。だから☆二つ。
ゴミ箱に捨てて口直しにピンサロでも行くとするか！

今月の山口果林と福岡伸一

houzou@amida28 Oct 28

二人の絆は安部公房、、

＞福岡さんと山口さんの接点は、作家・安部公房。山口さんは学生時代から安部に師事し、劇団「安部公房スタジオ」に参加。福岡さんが安部作品に出会ったのは学生時代。最初に読んだのは小説『第四間氷期』で、「理知的に構築されているのに流れている叙情は詩的でしびれちゃった

ヒトが芸術に感動するのは

作家LIVE

福岡伸一さん
山口果林さん

生物学者・福岡伸一さんと俳優の山口果林さんを迎えたトークイベントが19日、東京・築地の朝日新聞東京本社講堂ホールであった。安部公房からフェルメールまで芸術の魅力を語り合い、人間はなぜ芸術に感動するのかといった話題まで話は尽きなかった。

「ゆく河の流れは絶えずして……」。山口さんは登場するなり、マイクなしで朗読を始めた。鴨長明の『方丈記』の冒頭だ。約200人の観客は息をのみ、耳を傾ませた。『方丈記』は福岡さん愛読の書で、本紙コラム「動的平衡」でも紹介している。

続けて、山口さんは福岡さんの随筆「芸術と科学のあいだ」（木楽舎）も朗読し、方丈記の世界観に通じる動的平衡について述べた一節を紹介した。「たなず合成しつつ、常に分解し続ける。この危ういバランスの上にかろうじて成り立っている秩序が生命現象だ」

福岡さんと山口さんの接点は、作家・安部公房。安部は1966年から桐朋学園大短期大学部（当時）で演劇を教え、70年代に演出家としても活躍。山口さんは学生時代から安部に師事し、劇団「安部公房スタジオ」に参加、交際もした。2013年には日記『安部公房とわたし』（講談社）を発表したが、その時に朝日新聞で書評を書いたのが福岡さんで、文庫版でも解説を寄せている。

福岡さんが安部作品に出会ったのは学生時代。最初に読んだのは小説『第四間氷期』で、「理知的に構築されているのに流れている叙情は詩的でしびれちゃった」。

山口さんは安部スタジオでの稽古を「実証実験のようだった」と振り返った。たとえば、俳優2人が離れて立ち、次第に近づいていき、違和感や緊張感が生じたら手を上げる。身体の生理を重視した稽古で、文化人類学者エドワード・ホールの「かくれた次元」、動物行動学者コンラート・ローレンツの「ソロモンの指環」などを踏まえたものだったという。

そして、福岡さんの大好きな画家フェルメールの話へ。福岡さんは小学生の頃、顕微鏡を自作したオランダのレーウェンフックにあこがれ、彼と同じ1632年に、

ふくおか・しんいち　1959年生まれ。青山学院大教授。著書に『生物と無生物のあいだ』『フェルメール　光の王国』など。

やまぐち・かりん　1947年生まれ。71年、NHKの朝の連続テレビ小説「繭子ひとり」で主演。テレビ、舞台で現在も活躍。

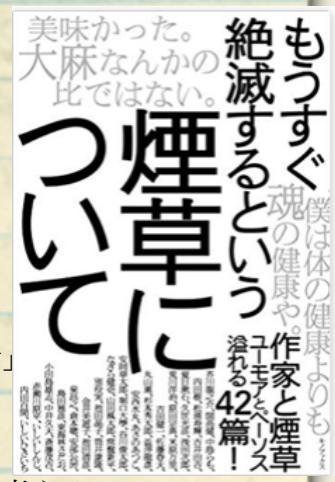
＝いずれも伊ケ崎忍撮影

機械ではできぬ営み■生命に必要なもの 美しい

今月の安部公房本

もうすぐ絶滅するという煙草について |

芥川龍之介, 開高健, 中島らも, 内田樹, 松浦寿輝, 古井由吉, 夏目漱石, 久世光彦, 浅田次郎, 荒川洋治, 原田宗典, 米原万里, 吉田健一, 佐藤春夫



もうすぐ絶滅するという煙草について

美味かった。大麻なんかの比ではない。

僕は体の健康よりも魂の健康や。

作家と煙草 ユーモアとペーソス 溢れる42篇！

【収録作品】

芥川龍之介「紙巻の煙の垂るる夜長かな」
開高健「人生は煙とともに」
中島らも「喫煙者の受難」
内田樹「喫煙の起源について。」
松浦寿輝「煙草」
古井由吉「さて、煙草はどこだ」
夏目漱石「文士と酒、煙草」
久世光彦「煙草の人たち」
浅田次郎「作家と煙草」
荒川洋治「ぼくのたばこ」
原田宗典「何故煙草を吸うのか?」
米原万里「喫煙者にとっても非喫煙者にとってもうれしいタバコ」
吉田健一「乞食時代」
佐藤春夫「たばことライター」
丸山薫「煙草あれこれ」
杉本秀太郎「パイプ」
澁澤龍彦「パイプ礼讃」
安西水丸「パイプの話」
あさのあつこ「憧れのパイプ、憧れの煙管」
安岡章太郎「葉タバコの記憶」
堀口大學「煙草ぎらひ」
堀口大學「煙草ぎらひ」
なぎら健壱「嫌煙」
山田風太郎「けむたい話」
常盤新平「たばこ」
別役実「喫煙」
池田晶子「たばこ規制に考える」
筒井康隆「喫煙者差別に一言申す」
金井美恵子「タバコ・ロード、マイ・ウェイ」
池田清彦「たばこ一箱を一〇〇万円にしてみたら?」
泉昌之「新さん 第四話 定食屋」
倉本聰「禁煙ファシズム」
安部公房「タバコをやめる方法」
島田雅彦「禁煙の快楽」
東海林さだお「非喫煙ビギナーの弁」
小田島雄志「禁煙免許皆伝」
中井久夫「煙草との別れ、酒との別れ(抄)」
斎藤茂吉「禁烟」
赤瀬川原平「タバコと未練」
いしいしんじ「元煙草部」
内田百閒「煙歴七十年」

『テープレコーダーを持てー
第１回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評』
安部公房の講評と採点表

岩田英哉

この日本版PLAYBOYの文章と写真を組み合はせた作品に対する選評は、１９８１年７月１日号に掲載されたものです。

１９８１年と云へば、安部公房スタジオの活動が終つた直後の年です。『 オート・フォーカス・カメラ時代 安部公房が新型４機種を診断』（もぐら通信第８７号）の記事は、１９８０年５月といふ、この選評の前年で、この時期、安部公房はPLAYBOY誌とは写真との関係で交流のあつたことが判ります。

ここで此の選評を取り上げた理由は、この号を見ますと、他の選者の選評も掲載されてをり、これらを通覧すると当時の日本人とこれら藝術とジャーナリズムの世界の人間たちに共通する意識が見られることがわかり、同時にこのことから当時の時代意識をも知ることができるからです。

１９８０年代と云へば、１９８４年の『方舟さくら丸』の発表一作品のみの執筆です。「詩人から小説家へ、しかし詩人のままに（藝術家集団を付記）」の年表を参照しますと、１９８０年からの箱根隠棲時代の作品数は、それまでと比べて極端に少なくなります。この年表のダウンロードは：https://ja.scribd.com/document/389811555/詩人から小説家へ-v9

このドキュメント・ファイル大賞は５年で終はつたやうです、あるいは５回目で安部公房が選考委員を降りたといふことでせうか、丁度１９８４年の『方舟さくら丸』が一種の里程標になつて、この作品までの時期に選考委員を務めたといふことになります。

安部公房が此の賞に関して書いてゐる文章には次のものがあります。

①１９８１年：第１回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞
（１）『まず現実に目を向けよう』（全集第２７巻、８７ページ）
（２）『テープ・レコーダーを持て――第１回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評』（全集第２７巻、８９ページ）

②１９８２年：第２回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞
（１）『自由な主題の選択、方法を――第２回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評』（全集第２７巻９９ページ）

③１９８３年：第３回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞
（１）『写真がいい』（全集第２７巻１３２ページ）
（２）『写真家としての成功を思えば――第３回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評』（全集第２７巻１３４ページ）

④１９８４年：第４回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞
（１）『奇妙に優しい体温を伝える――第４回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評』（全集第２７巻２３４ページ）

⑤１９８５年：第５回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞
（１）『未知なものはいつも、身近な闇のなかに――第５回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞』（全集第２８巻、１４６ページ）

この賞を知つてわかることは、まだ１９８０年代の半ばまでは、１９５０年代からのドキュメンタリー（記録藝術）に関する意識が旺盛であつたといふことです。さうして、この文脈で、安部公房が依然として「前衛（アヴァンギャルド）」として論ぜられてゐたことが、１９８５年の次のインタヴューの最後の箇所で判ります。

「斎藤　安部さんの最もお嫌いな「前衛」という言葉、絶えず前衛であり続ける、ということですが、ある評論家にいわせると、安部さんは「絶えず自分自身を超えてゆく前衛だ」と。
安部　まあ前衛というのは、ある意味ではカッコいいから、言われても構わないけど、そんな意識よりも、いかに現実を生きるか。その現実の規定の仕方でしょうね。だれでも現実を生きる。ぼくにとっての関心というのは、今を見る……ということ。それはぼくにとってのメビウスの輪ですよ。それを「箱」とか「壁」とか「砂」とかに投影する。その、いい投影体を探すということです。今、ぼくが、この見ていることの感覚、言葉ではまだいえない感覚を、何に映すと一番よくこの感覚が映るか、というその映すものを探すのが作業で、それが小説を書く時に一番の楽しみですよ。あと、書くことってのは、まことに、よくこんなバカなことをやるのかってくらいにシンドイけれど、投影体をみつけるとこだけはね、自分の喜びといえるかもしれないなあ。［1985.1.14-1.17］」」
（インタヴュー『方舟は発進せず』全集第２８巻、５８ページ）

少し寄り道をするやうですが、PHASE３の安部公房の詳細な年譜を作成してから、本題に入りたいと思ひます。

２。１９８０年代から１９９３年（没年）までの安部公房

PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞の選考委員を務めたことを契機にして、この視点で安部公房の活動を整理しますと、この最後の箱根隠棲期間は終始一貫、各種の賞の選考

委員を務めてゐます。それらの賞を全集から抜き出して並べると次のやうになります。

１９８０年代から１９９３年：終始一貫各種賞選考委員を務めた時代
（１）PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞
（２）木村伊兵衛賞
（３）新潮学芸賞
（４）読売文学賞
（５）日本文学大賞学芸部門
（６）大佛次郎賞

この選考委員を務めたことを主軸にして、安部公房の創作活動を年代の区切りを付けて並べ、その区切りの年代に特徴的な作品を置いてみると次のやうになります。

①１９８０年から１９８４年：PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選考委員の時代。そして同時に１９８０年から１９８４年は『方舟さくら丸』執筆の時代でもある。
②１９８４年：『方舟さくら丸』刊行。
③１９８５年から１９８９年：『もぐら日記』の時代
（１）『もぐら日記』（全集第２８巻、１７０ページ）
（２）『もぐら日記 II』（全集第２８巻、２４９ページ）
（３）『もぐら日記 III』（全集第２８巻、４１９ページ）
④１９９０年から１９９３年：最晩年３部作の時代
（１）１９９０年：『飛ぶ男』（全集第２９巻、１３ページ）
（２）１９９１年：『カンガルー・ノート』（全集第２９巻、８１ページ）
（３）１９９３年：『さまざまな父』（全集第２９巻、２５１ページ）

このやうな主だつた年代区分の中で、次のやうな仕事を安部公房は行つてゐます。『安部公房はいつまでSF小説の世界と交流があつたか』（もぐら通信第６３号）より引用します：

「１９８０年以降を全集によつて、特に「もぐら日記」に注意を払いながら、まとめると、次のやうな生活をしてゐる事になります。

（１）『方舟さくら丸』『カンガルー・ノート』を執筆する。
（２）言語に関する考察を集中的に深める。チョムスキーの生成文法、クレオール語について。人間の精神と意識・無意識について。パブロフの条件反射について。ローレンツについて。分子生物学と遺伝子について。国家と言語の関係について。
（３）読売文学賞などの選考委員を務める。
（４）インタビューを受ける。インタヴューの数多し。

（５）講演をする。
（６）対談をする。座談は『安部公房氏と語る』のみ（全集第２８巻、４７３ページ）。
（７）北欧旅行をする。１９８５年６月。（全集第２８巻、１７３ページ）
（８）外部の情報はTV放送と新聞（「朝日新聞」）から得てゐる。（全集第２８巻、２０６ページ上段）
（９）新しいカメラを買ふ事。（全集第２８巻、１７９ページ上段）
（１０）お昼などを行きつけのレストラン「ブライト」で食べる事（全集第２８巻、１８２ページ上段）：『安部公房の箱根の仕事場とご贔屓のレストラン「ブライト」を尋ねる～存在の部屋と『もぐら日記』の中のレストラン～』（もぐら通信第４９号）をお読みください。安部公房の仕事場である山荘のことも含め、詳しい探訪記を書きました。
（１１）新しい小説の構想（全集第２８巻、１８４ページ下段）
（１２）国際会議への出席（全集第２８巻、１９０ページ下段；全集第２８巻、２０４ページ）
（１３）新田敞（新潮社編集者）とドナルド・キーンさんと交流はあつたこと。
（１４）数少ないエッセイを書く。

箱根隠棲の１０年が以上のことがらから成つてゐたといふことは、これはこれとして、その間（かん）同時にあつた安部公房の生活はといふと、「ときには電話のコードさえ公房は断っていた。その山荘からさえ姿を隠し、行方知れずの時さえあった」といふものです。（『安部公房・荒野の人』１９２ページ）」

「この期間の安部公房を一人娘ねりさんの目から見ると、安部公房の生活はまた次のやうになります。

「独りになった公房は、山荘でお気に入りのシンセサイザーやワープロに囲まれ、しゃぶったマンゴーをほして、外に向かってひげが生えた種を額装して飾り付け、トイレットペーパーの芯など日常的な、不要になった物をつかい、整然としたオブジェをつくって男の子らしい生活を満喫した。父の書斎には、大きなワープロが置かれ、『科学の事典』などの本が並べられ、発想をメモした紙が差し込まれた紙入れに、芥川賞の金時計が架けられていた。簡易の現像セットも持っていて、書斎の椅子の横の壁には自分で撮影した写真を現像して貼り付けた。それを見ながら小説の発想を待った。ベッドサイドには、夢を忘れないうちに記録する小型のテープレコーダーや、四角い付箋紙をおいて、会話やモノローグなどの発想を書き付けてピンで留めたコルクのボードを立てかけた。」（安部ねり著『安部公房伝』２１８ページ）

さて、以上の一覧に、安部公房スタジオの１９７０年の準備期間からの時代区分を併せると、１９７０年から１９９３年までの安部公房のPHASE３といふ存在への回帰、即ち自分とリルケの詩の世界への回帰の位相（PHASE）の全体を眺めることができます。PHASE

３の全体を、重複を厭はずまとめてみませう。

３。１９７０年代から１９９３年（没年）までの安部公房：PHASE３
（０）準備の時代
①『周辺思考』（１９６７.１１.１）
②『リルケ』（１９６７.１２.２５）
③『試験飛行』（１９６８.４.３）

（１）１９７０年～１９７５年：「周辺飛行」時代（以後「周辺飛行時代」と一語で呼びます）：５年
①『周辺飛行』開始（１９７１.３.１）
②『周辺飛行』終了（１９７５.６.１）

（２）１９７６年～１９８０年：「安部公房スタジオ会員通信」時代（以後「安部公房スタジオ会員通信時代」と一語で呼びます）：５年
①『安部公房スタジオ会員通信』開始（１９７６.５）
②『氷の壺から水を飲む』（１９８０.４.３０）
③『安部公房スタジオ会員通信』終了（１９８０.１１.１）

（３）１９８１～１９９３：箱根隠棲時代：１２年
（３.１）１９８０年代から１９９３年：終始一貫各種賞選考委員を務めた時代
(a) PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞（全集第２７巻、８９、９９、１３４、２３４ページ；全集第２８巻、１４６ページ）
(b) 木村伊兵衛賞（全集第２７巻、９８、１３０、１８３ページ）
(c) 新潮学芸賞（全集第２８巻、４２１；全集第２９巻、１９２ページ）
(d) 読売文学賞（全集第２７巻、２３５ページ）
(e) 日本文学大賞学芸部門（全集第２８巻、３０３ページ）
(f) 大佛次郎賞（全集第２９巻、２０２、２５０ページ）

この選考委員を務めたことを主軸にして、安部公房の創作活動を年代の区切りを付けて並べ、その区切りの年代に特徴的な作品を置いてみると次のやうになります。

（３.１.１）１９８０年代から１９９３年
①１９８０年から１９８４年：PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選考委員の時代。そして同時に１９８０年から１９８４年は『方舟さくら丸』執筆の時代でもある。
②１９８４年：『方舟さくら丸』刊行。
③１９８５年から１９８９年：『もぐら日記』の時代
（１）『もぐら日記』（全集第２８巻、１７０ページ）

③１９８５年から１９８９年：『もぐら日記』の時代
（１）『もぐら日記』（全集第２８巻、１７０ページ）
（２）『もぐら日記 II』（全集第２８巻、２４９ページ）
（３）『もぐら日記 III』（全集第２８巻、４１９ページ）
④１９９０年から１９９３年：最晩年３部作の時代
（１）１９９０年：『飛ぶ男』（全集第２９巻、１３ページ）
（２）１９９１年：『カンガルー・ノート』（全集第２９巻、８１ページ）
（３）１９９３年：『さまざまな父』（全集第２９巻、２５１ページ

４。『テープレコーダーを持てー第１回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評』
この号の表紙です：

目次です：

受賞発表紙面です：

PLAYBOY DOCUMENT FILE

発表

「世界はたっぷりとドラマにみちみちている！」――PLAYBOY日本版は、この信念のもとに数々の貴重な、また衝撃的なドキュメントを掲載してまいりました。1年前、PLAYBOY創刊5周年を期して創設されたPLAYBOYドキュメント・ファイル大賞はその信念をさらに拡大し、プロ、アマを問わず、この混迷の時代を撃つ作品、ライターの出現に向って門を開いたものです。入選作は、どれも力作ぞろい。さあ、第1回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞の発表です！

第1回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞

最優秀作品賞

正賞・ブロンズ像
副賞・200万円

佐伯泰英
「闘牛士エル・コルドベス 1969年の叛乱」

優秀作品賞4篇賞金・各50万円

小山田 正
「鹿島丸鎮魂歌 ある中国人虐殺の真相」

伊藤智恵子
「ある帰国」

恵谷 治
「秘境の戦士たち」

文・米山義男 写真・森山 徹
「蝶のダンス」

（選考経過）
81年1月31日に締切られた第1回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞には、国内のみならず海外からの応募も含めて、106篇の作品（内、女性は9名）が寄せられました。PLAYBOY日本版ドキュメント・ファイル大賞委員会はそれらすべてを厳正選考した結果、次の15篇を候補作としました。
「鹿島丸鎮魂歌 ある中国人虐殺の真相」（小山田 正）
「海賊狩り」（軍司貞則）
「危険な聖域」（高尾栄司）
「闘牛士エル・コルドベス 1969年の叛乱」（佐伯泰英）
「秘境の戦士たち」（恵谷 治）
「プロゴルフに何が起ったのか」（山口俊明）
「ある帰国」（伊藤智恵子）
「蝶のダンス」（文・米山義男 写真・森山 徹）
「ヘミングウェイの海」（文・戸井十月 写真・住友一俊）
「カンボジア国境から」（文と写真・森枝卓士）
「カンボジア年代紀」（写真・押原 譲）
「鬼哭啾々」（写真・萩野雄二）
「アンダルシーアのジプシーたち」（写真・岡崎 敏）
「父の中国 私の中国」（写真・横山孝雄）
「冬の大敷網漁」（写真・関本寿男）
これらの作品は、8名の選考委員による、持ち点各15点、最高評価点7点のアンケート方式による段階評価選考を受け、その結果、上記5篇が入選作と決定いたしました。
応募者年齢は10代から60代まで、テーマもまた紀行、社会、歴史、風俗、人物、世界情勢など多岐にわたり、日本人の活力と好奇心をしのばせました。次回にも、多くの力作が寄せられることを期待します。
（次回応募規定は205ページをごらん下さい）

選考委員：次の８名です。

（１）安部公房（作家）
（２）大島渚（映画監督）
（３）小田実（ドキュメンタリーな作家）
（４）開高健（作家）
（５）立木義浩（写真家）
（６）立花隆（ドキュメンタリー作家）
（７）筑紫哲也（ジャーナリスト）
（８）藤原新也（写真家）

採点表：

『写真がいい』（全集第２７巻１３２ページ）を読みますと、選考会が開催されることは

なく、各選考委員が採点表を編集部に提出して、総合点で受賞者が決まるといふ仕組みの選考でありました。採点表を示します。安部公房の点数は、ほかの選考委員に比べて最高点が低く、誠に辛い批評家である。そして、非常に特徴的なことは、他の７人の選考委員の評価と全く正反対の評価を下してゐることです。７人が良いといふものを安部公房は票を入れず、安部公房が最高点の５点を入れてゐるものに、他の７人は最低点の１、２点を入れる人二人、残りの委員５人は評価に値せずといふことでせう。５人に点数の付与はない。この採点表は、安部公房といふ人間を知る縁（よすが）となります。

入選作品の獲得点数（各15点持ちの最高点７点による段階評価）

作品名	安部	大島	小田	開高	立花	立木	筑紫	藤原	計
「闘牛士エル・コルドベス 1969年の叛乱」（佐伯　泰英）		7	1	5	7	1	5	5	31
「鹿島丸鎮魂歌 ある中国人虐殺の真相」（小山田　正）	1		5	1	3	6	5	4	25
「ある帰国」（伊藤智恵子）	1	4	4		2	3	2	2	18
「秘境の戦士たち」（恵谷　治）		1		4			1	3	9
「蝶のダンス」（文・米山義男 写真・森山　徹）	5				2		1		8

安部公房の選評：
安部公房の意見はかうです。

「ドキュメントはもともと強い制約によって成り立つ形式である。報告者の好みや願望で事実を左右することは許されない。」「しかしその事実の枠をたんなる枷（かせ）におわらせず、新しい発見のバネとして逆手にとれば、制約がむしろ想像の引き金になってくれる。この枠の自覚がいまやジャンルを超えた表現の方法として、文学、映画、美術などすべての領域にわたって定着しはじめているのもけっして偶然ではない。」
「記録作業にさいしては、すくなくともテープ・レコーダーの用意くらいは忘れないようにしてほしい。現実にかわされる会話は、おおむねぎこちなく非文学的なものだが、記憶でつじつまを合わせながら再構成したものとは質的に違う存在感をもっている。けっして

誰もフィリップ・マーロウのように喋ったりはしない。それが事実の枠の枠たるゆえんなのだ。」

安部公房の批評文の題名になつてゐるテープレコーダーを持て、テープレコーダーを忘れるなといふことと同じことを、同じ作家の立場から文章について開高健は次のやうに言つてゐる：

カポーティを水煮にして

開高健

受賞作となつた作品はスペインの一人の闘牛師とその背景を描いたものである。背景についての解説はなかなか肉が厚くて、その厚さが他の作品群を抜いたといってよろしかった。それが受賞のためのキメ手の引金となったのではあるまいかと憶察する。

受賞作の「背景についての解説はなかなか肉が厚くて、その厚さが他の作品群を抜いたといってよろしかった。（略）しかし、欠陥も、いくつかある。もっとも痛い欠陥は作者が主人公の闘牛師となんどもあって会話を交わしていながら、その部分がたいへん希薄であること。ことに背景の肉の厚さにくらべて対照的に希薄である。それは”会話”であるかもしれないが、”対話”にまで高まっていない。前景でこんなに主人公と希薄にまじわっているのに背景が肉厚になるのはどうしたわけかと、疑いがにじんできそうである。」

折に触れて読む開高健の文章は、いい。ここでも一寸逸脱しますが、引用して此処に残して置きたい。

「昔、トルーマン・カポーティが”ヴンダー・キント（神童）”だった頃、ぼくにひとつかみのアルファベットを下さい、ぼくはそれを空中に投げ、落ちてくるまでに一行の詩を書いてみせませしょうと、揚言したことがある。しかし、人前でそんなことをいってのけながらも、書斎では一語を決定するのに二日、三日、ときには一週間も苦しんでいるという、友人の観察を読んだことがある。

　カポーティがブクブク太りだしてから書いた『冷血』はノン・フィクションの傑作だが、文体には神童時代の面影がいきいきと風や光のなかに明滅している。これを一冊買ってきて水煮する。味の素もコンブもマギーも入れず、水だけでグツグツ煮る。その煮汁を一匙、夜ふけに畏怖をこめてすすりなさい。それが洩れないよう、あらかじめお尻の穴に栓をしっかりカチこんでおきなさい。」

やはり開高健の文章は、いい。

立木義浩の選評は、写真家としての、もつと云へば『箱男』を書いて自ら撮影した写真を挿入して、写真と其れに添へた自分の詩との関係を説明する安部公房のいふところと表現の違ひはありますが、とても通ふところがあります。共通する考へは、それぞれの藝術範疇はそれぞれの範疇として独立してゐるといふ考へです。安部公房は同じ考へをほかの藝術範疇、例へば音楽、それも安部公房スタジオで使用する音楽についても同様の考へを語つてゐます［註１］。

［註１］
バロック音楽については、『効く音楽』と題したエッセイが（全集第２４巻、３２８ページ）、『わが作品を語る―安部公房』がある（全集第３０巻、１７４ページ）。バロック音楽の自律性を文字で書いて明確に述べてゐるのは『演劇と音楽と―バロック風にバロックを』です（全集第２５巻、３５０ページ）。

写真を選ぶ時の詰の甘さ
立木義浩
つかりカチこんでおきなさい。
最終選考に残った“文章と写真”および“写真のみ”の作品に、大いなる期待をもつて臨んだ。本来、文章を超える写真というものなどあり得ないし、また写真を超える文章もないというのが私の

立木義浩：
「本来、文章を超える写真というものなどあり得ないし、また写真を超える文章もないというのが私の考えかたである。」

安部公房：
『箱男』論～奉天の窓からの８枚の写真を読み解く』（もぐら通信第３４号）より引用します：

「さて、この論考の冒頭に引いたナンシー・S・ハーディンとの対談で、安部公房は、作品中に挿入された８枚の写真について、更に、次のように言っています。

「――『箱男』の話題が終わる前に、作品中に挿入された八枚の写真についてなにか話していただけませんか。
安部　あの一連の写真は一種のモンタージュです。説明するのは難しいですね。
　　(略)
安部　写真を褒められるのは小説を褒められるのよりうれしいです。
　　(略)

安部　説明文は必ずしも写真を説明しているのではありません。それらの詩が主張していることがあるとすれば、ぼくは写真は全体として詩であるべきだと思っていることです。
――写真の並べ方には特別な意味がありますか。最後に廃車になったトラックの写真が来ているには理由があるのでしょうか。
安部　意味があったかどうかは忘れてしまいました。ただ、それぞれがひとつの詩のようなものなのです。（略）」（『安部公房との対話』全集第２４巻、４７２～４７３ページ）

安部公房が「写真を褒められるのは小説を褒められるのよりうれしいです。」と率直に語っているのは、写真は小説ではなく、詩であるからです。安部公房は後期２０年の最初に当たって、即ち存在の革命を起こそうと一番集中して十代の詩の世界への再帰と再起を図っていたときに、写真を褒められることは詩を褒められることと同然ですから、嬉しかったのです。」
（『箱男』論～奉天の窓からの８枚の写真を読み解く』（もぐら通信第３４号））

冒頭に申し上げた「ここで此の選評を取り上げた理由は、この号を見ますと、他の選者の選評も掲載されてをり、これらを通覧すると当時の日本人とこれら藝術とジャーナリズムの世界の人間たちに共通する意識が見られることがわかり、同時にこのことから当時の時代意識をも知ることができるからです」といふ本題の目的に此処で戻れば、この１９８０年代初頭に依然として在るドキュメンタリー（記録藝術）の意識とは、安部公房は勿論ですが、開高健の言葉も立木義浩の言葉も、ドキュメンタリーとは何かといふ問ひに正面から、各藝術範疇の独立性といふ回答を示してゐます。各藝術範疇の独立性とは、各藝術範疇の使用する媒体（メディア）の独立性といつても良いし、また其の使用の仕方や方法の独立性といつてもよい。

以下、映画監督大島渚の言葉を引用します：

「そして私の率直な感想は、現在、映像であると文章であるとを問わず、ドキュメンタリーの世界は堕落しているということに尽きる。」「情報はドキュメントではない。ドキュメントとは、対象とドキュメントする者の間の緊張が生み出す、小なりといえども全世界に拮抗しうる確実なひとつの世界でなければならない。/その意味では、今回のドキュメント・ファイル大賞において、私は絶対というほどの作品を見出すことはできなかった。そんな中では、対象そのものに存在としての力がある「闘牛士エル・コルドベス」に堂々と迫った作品が一位となったことは自然である。」

大島渚の評言のいふところは、次の立花隆の評言を読むと、文章といふ散文による藝術範疇の自律性または独立性といふこと、これを存在といふ言葉で表現してドキュメンタリー足り得てゐると言つてゐることになります。

立花隆の選評：

「「闘牛士エル・コルドベス１９６９年の反乱」（佐伯泰英）が群を抜いていた。構成と文章に若干の難はあるが（それでも他の作品と比べたらはるかに上等だ）、見事な出来である。厚みにおいて、他を圧倒している。写真のプロでありながら、写真抜きで応募したのは、筆者が文章で勝負してみたかったが故であるよしだが、選者としては写真を見られなかったことが残念、発表の際にはぜひとも写真を豊富につけてもらいたい。」

この一等（「最優秀作品賞」）に当選した佐伯泰英は、今時代小説の有名な小説家となつてゐます。

この小説家の公式ウエブサイト：http://www.saeki-bunko.jp
この小説家のWikipedia：https://ja.wikipedia.org/wiki/佐伯泰英

次は藤原新也です。この人は写真家でありますから、勿論写真もいいのですが、しかし文章も素晴らしい。私はこの写真家の散文の読者です。写真家の選評です：

「しかし逆を言うと、本当の写真というのは一週間もの を見つめていてたったの百分の一秒しか創造の機会を与えられない不遇な時間帯の中に成立するということが多い。良心的な写真家はほぼ毎日が失業状態なのである。

僕は人の写真を見る時、その失業者がそののっぴきならない百分の一秒の魂の瞬間を持った人かどうか見たいと思う。

残念ながら、今回見せていただいた写真の中にはそれが見当らなかった。

逆に僕は佐伯泰英さんの書かれた闘牛の後半の文章の中にその瞬間を垣間見た。多分この人は自分の弱年期を闘牛に賭けたのではないかと思う。写真や文に限らず、作者の肉体に孕まれているものは人の心をゆするようである。」（傍線は原文傍点）

さて、このやうなドキュメンタリーの精神は今や既に地に堕ちやうとも、しかし此の１９８１年７月発行の日本版PLAYBOY誌から今の世をつらつら眺めれば、女性の裸身（ヌード）だけは変はらぬやうである。とあれば、女性のヌードだけがいつの世もドキュメンタリーなもの（記録藝術）ではないのだらうか？とすれば、日本版PLAYBOY誌の証明したこと：

女性の裸身（ヌード）だけが記録芸術（ドキュメンタリー）である。

荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む
（９）
化石の書庫

岩田英哉

化石の書庫

黄金（こがね）色の荒野に咲く花は、どす黒くも艶やかな深紅の食中花
肉厚の悪の華は、退廃の花粉を眩しく撒き散らし
光の蜜を慕い集まる長閑（のどか）な蝶たちは平和主義者
妖精よ
いま、いずこ
われは紐解く、ふたたびマルクスを
堆（うずたか）く埃（ほこり）の積もった化石の書庫から……

輝けるは虚無
光の虚無
廃墟の浴槽に、
終日（ひねもす）――
釣り糸を垂れる男の影のように、光は……

はや、われらの生は意味を失い、
死へ至る手段が生の目的になるのだ。

人々はただ、末期（まつご）のために生きる
それが生きる意味となる――光世紀

今日もまた
一人のゲリラが自爆し
公衆バスが吹っ飛び
受像器の世界を流れる安穏

嗚呼、すべては
血の匂いもなく
世界時間は寸分の狂いもなく

チクタクチクタク……

チクタクチクタク……
チクタクチクタク……
チクタクチクタク……

チクタクチクタク……
チクタクチクタク……
チクタクチクタク……
チクタクチクタク……

＊＊＊

化石の書庫とは次の書庫ではなからうか。書庫とある以上、次の四つの書庫のいづれかであると考へることができる。化石のある庫（くら）を書庫とはいはないので、

（1）書庫が化石になつてゐる書庫
（2）書庫に化石に関する書物のある書庫
（3）書庫に化石になつた書物のある書庫
（4）書物が化石になるほどに古い書物を蔵した庫（くら）であるといふ隠喩（メタファ）の場合の書庫

といふこれらのいづれかであるといふことになります。

続く本文を読みますと、（4）の場合であることが解ります。そして、この詩では文字で書かれてゐませんが、もし「化石の書物」とさう書かれ得る本があるのであれば、それはマルクスといふ著者の本であると最初の連で歌はれてゐます。さうして、第一連の最後の四行は次のやうになつてゐます。

「妖精よ
　いま、いずこ
　われは紐解く、ふたたびマルクスを
　堆（うずたか）く埃（ほこり）の積もった化石の書庫から……」

これを読みますと、妖精に呼びかけて、「いま、いずこ」と思ふ妖精を呼び出すために、話者はマルクスの書物を「化石の書庫」から探し出して読むといふのです。かうして読み始めると、書庫はやはり化石になつた書庫であるのですが、しかし其処に収蔵されてゐる書物は化石にはなつてゐないとも読むことができます。とすると、上記の詩の題名の解釈のうちの（1）と（4）を併せた意味の詩であるといふことになります。

さて、何故、さうすると、化石の書庫から未だに生きてゐる、さう、書物が生き物だとしたら、むしろ息づいてゐる書物を取り出して話者は読むのだらうかと自問自答してみると、上記の引用の四行までの行が其の理由を述べてゐるのだといふことが判ります。

「黄金（こがね）色の荒野に咲く花は、どす黒くも艶やかな深紅の食中花
　肉厚の悪の華は、退廃の花粉を眩しく撒き散らし
　光の蜜を慕い集まる長閑（のどか）な蝶たちは平和主義者」

これが、この詩を歌ふ話者の見る（時間の中で見る）現実の姿であるのです。現実は「黄金色の荒野」であつて、その荒野には次の花々が咲いてゐる。

（１）「どす黒くも艶やかな深紅の食虫花」
（２）「退廃の花粉を眩しく撒き散らし」てゐる「肉厚の悪の華」

（１）と（２）は同じ花の言ひ換へで、同じ一つの花と理解します。

そして、この食虫花であり悪の華である花にやつて来るのが蝶々であつて、この複数の蝶は、次のやうに言はれてゐる。

（１）光の蜜を慕い集まる長閑（のどか）な蝶たち
（２）これらの蝶たちは平和主義者である

これが、詩人が隠喩（メタファ）を使つて表した、時間の中で見る現実の姿です。

この隠喩を解凍して、あるひは解析して中身を取り出すと、話者のいはむとしてゐることは、

現実は黄金色の荒野であるにも拘らず、其処に光などある筈もないのに此れを錯誤して光ある黄金色の荒野ならぬ沃野だと思ひ、そこに咲くこの虚しい悪の華といふ食虫花に此の虚しい光の蜜を吸いに集まる人間は、どの人間も「長閑な」といへば雅であるが、しかし呑気な平和主義者たちである。

と、さう言つてゐるのです。

これが、話者を通じて、話者に隠喩を使はせて歌はせた、詩人の現実認識といふことです。しかし、本当の現実のあり方はさうではない、だからまた妖精を呼び出すために、即ち現実を錯誤する世の中の人間どもに対して、妖精の棲んでゐたマルクスの言葉の生々しく息づいてゐる書物を取り出して、此の現実が虚無ならば、真の虚無を即ち真の現実を、思ひ

出さうといふのです。さうして、第二連が次のやうに続くのです。

「輝けるは虚無
　光の虚無
　廃墟の浴槽に、
　終日（ひねもす）――
　釣り糸を垂れる男の影のように、光は……」

この「輝けるは虚無/光の虚無」こそが若き詩人の現実であつたことは、自筆のあとがきに相当する「覚え書き」に当時の文学的世界と哲学の世界の作家や哲学者の名前を挙げてゐることからもよく判ります。

さうして、生きてゐる人間といふ名前の蝶々の棲む世界などといふ大きなものの中に詩人が当時求めて真の現実と錯覚した虚無の偽の現実ではなく、今度は正反対に「廃墟の浴槽に」といふ小さな、それも廃墟の中にあるものの中に「終日（ひねもす）――/釣り糸を垂れる」のだといふ。マルクスの書物が現実の中で恰も生きてゐて有効だと錯誤したものを、今度は廃墟の中の、それも小さな浴槽に水を張つて、否、自然に湧いて出てきたのか、水が天から降りてきて自然に溜まつたのか、即ち自我の意志の力で世界といふあのやうな虚無の現実を無理矢理に変革するのではなく、自然に其処にある水を湛へる浴槽に、ただ終日待つて、自然にまかせて魚の釣れるのを待つのだといふ。何故ならば、

「はや、われらの生は意味を失い、
　死へ至る手段が生の目的になるのだ。」

といふことだからです。

この二つ目の現実の光は「釣り糸を垂れる男の影のよう」である。とあれば、このやうに実際には生きてゐる筈の、勿論さうは気づいてゐない人間たちも含めてですが、その人生の意味は「はや、われらの生は意味を失い、」生の意味が失はれた以上、引き算して残るのは死あるのみ。即ち、「死へ至る手段が生の目的になるのだ。」

さて、左様である人間たちの生きる意味、即ち「死へ至る手段が生の目的になる」といふ此のやうな人生の姿とは一体どのやうな姿なのであらうか。それを詩人は第四連で次のやうな二行を書く：

「人々はただ、末期（まつご）のために生きる
　それが生きる意味となる――光世紀」

この世紀は『バタフライ・ソング』の第四連に歌はれた「人類の光世紀（こうせいき）！」と同じ世紀でありませう。この連に歌はれてゐるのは、現実が「トロンプ・ルイユ」と呼ばれる、訳すれば騙し絵、即ち偽の現実のことです。詩人の好きなマニエリスムの世界の用語です。

安部公房の世界と同じく、この詩でもS・カルマ氏は世界の果てに到達して、長いトンネルを発見した。トンネルの向かふに遠く見える光ある世界は、こちらから見ても既に知る通りに騙し絵の世界であり、騙し絵の現実であることを話者は知つてゐる。それ故に、詩人は「われら、明るみの世界の輝ける影。/影に幸いあれ！」と祝言を唱へるのです。

「化石の書庫」から取り出したマルクスの化石の書物もまた既に遠い記憶の中にあり、この詩人の論理にしたがつて、最果てに来ると、安部公房の主人公が記憶を喪失し自己を喪失するのとは正反対に、記憶を恢復し自己を恢復するわけですから、光の影のやうな男の浴槽に垂れる釣り糸にどんな魚が掛かるものか。記憶の恢復と自己の恢復を待つて、最後の連の、しかしこの沈黙は安部公房と正反対の側から共有してゐる沈黙と余白の記号の中で、現実の音は次のやうに頻りに鳴つてゐるものを、

「チクタクチクタク……
　チクタクチクタク……
　チクタクチクタク……
　チクタクチクタク……

　チクタクチクタク……
　チクタクチクタク……
　チクタクチクタク……
　チクタクチクタク……」

とあつて「世界時間は寸分の狂いもなく」時を刻む其の音の「チクタクチクタク」といふ音の中にではなく、「……」といふ沈黙と余白の中に、詩人と化石の書物は生きてゐるのです。

これが、第一連の最後の行の「堆（うずたか）く埃（ほこり）の積もった化石の書庫から……」の「……」の中で読むマルクスの書物であり、第二連の最後の行の「釣り糸を垂れる男の影のように、光は……」の「……」の中で釣り糸を浴槽に垂れながら釣る、いつ来るともわからぬ魚を待つといふ、初めも終はりも意識と無意識の中で放擲した魚釣り、即ちこの詩人の超越論の魚釣りなのです。安部公房の好きなサミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』の世界です。

超越論の世界では、時間の初めと終はりに関する問ひ其のものが無意味なのです。この世界は詩人の言葉を用ふれば「光世紀」であるからです。

存在の魚はいつまで待つてもやつて来ない。何故なら、時間に初めも終はりもないから。待つこと其のものが始まらず、さうであれば、終はること其のものもない。古事記の冒頭に文字で書かれた天地初発・国生み神話の世界です。

最後の連の「チクタクチクタク……」の反復は、安部公房文学の世界から眺めると、私には、安部公房がいつもさであるやうに、存在を呼び出す呪文のやうに聞こえます。さうであれば、存在の魚はいつ釣れるのかといふ問ひに対する答へは次のやうになるでせう。

存在の魚は「既にして」（超越論的時間）「どこからともなく」（超越論的空間）、やつて来る、来てゐる、来終はつてゐる。即ち時間と時間に関する規則即ち時制を超えて、そのやうに「既にして」（超越論的時間）なつてゐる。

私は此の詩を読んで、芭蕉の高弟の一人、越智越人といふ俳人の、同じ門下の友が出版する俳句集のために草した一文を憶ひ出しました。それは、今不覚にも引用する典拠の文章が出て参りませんので、記憶の中から言へば、この友人の心境を表現するのに、瓢箪を二つに割つて、それに水を入れて舟を浮かべて遊んでゐるのだといふ文章でした。味はい深い、それこそ俳文と呼ぶべき飄々とした、浮世濁世を離れた優れた漢文調の簡潔な序文です。

やはり此の江戸時代の、瓢箪の湖に浮かべて舟から垂れた釣り糸があらば、その釣果はいつあるとも知れず、しかし間違ひなく、存在の魚であることでせう。さうであれば、これはfake fish（フェイク・フィッシュ）、即ち江戸時代の贋魚であるといふことになります。

問：詩人の廃墟の浴槽に垂れた釣り糸に掛かる存在の魚は一体いつの時代の釣果であるか？
答：光世紀！

142

特集－安部公房

「第四間氷期」

山野浩一

これは幻想かもしれないのだが、人間は常に現実に於いて未来にかかわり得るものだと考えており、未来というものはある程度計画されるものだと思っている。少くとも、いま手に持っているコップを床へ落とせば、僅かののちに床と衝突して割れるだろうという予想をすることは可能であり、この予想のもとに、未来に於いてコップが割れているという状態を生み出すために、現在に於いて計画的にコップを落とすということが可能だろうと考えるのは極めて常識的であるといえるだろう。同様に人間は生活に適した状態を生み出すために家を建てたり、道路を作ったりすることになる。こうして人間は現実に於いて未来とかかわりながら、少しでも未来を望ましい状態とするために次々と計画をたてていくわけである。

この考え方を推し進めていくと、現在に於いてより多くの計画がたてられ、時間とともにそれが重ねられ、実行されていくと、更に望ましい未来が実現することになり、一般に政治というものはこの考え方によって成立しているこ

『第四間氷期』論

山野浩一

これは幻想かもしれないのだが、人間は常に現実に於いて未来にかかわり得るものだと考えており、未来というものはある程度計画されるものだと思っている。少くとも、いま手に持っているコップを床へ落とせば、僅かののちに床と衝突して割れるだろうという予想をすることは可能であり、この予想のもとに、未来に於いてコップが割れているとう状態を生み出すために、現在に於いて計画的にコップを落とすということが可能だろうと考えるのは極めて常識的であるといえるだろう。同様に人間は生活に適した状態を生み出すために家を建てたり、道路を作ったりすることになる。こうして人間は現実に於いて未来とかかわりながら、少しでも未来を望ましい状態とするために次々と計画をたてていくわけである。

この考え方を推し進めていくと、現在に於いてより多くの計画がたてられ、時間とともにそれが重ねられ、実行されていくと、更に望ましい未来が実現することになり、一般に政治というものはこの考え方によって成立していることになる。それはまた先進国とか後進国というような進歩概念としても一般化しており、小説に於いても主人公の希望→実現とか、社会矛盾→解決というような因果関係に似たような考え方が反映してきた。

サイエンス・フィクションにはこうした未来観を否定するものが多く書かれていて、１、現実の未来へのかかわりは認めるが、そこに進歩概念を認めることができないというもの（H.G.ウェルズなど）２、未来とのかかわりは極めてあいまいで、大局的には運命論的な存在の支配を受けており、計画というものが認められないというもの（P.K.ディックなど）３、未来というものの存在が認められず、時間が人間の記憶感覚を超越して考えられているもの（フレッド・ホイルやブライアン・ホールディスの一部の作品）などが先に述べたような進歩概念と対立して理論化されている。

もちろんサイエンス・フィクションには、更に多くの進歩概念への依存もみられ、それはSFがアメリカとソヴィエト連邦というテクノロジイへの執着の強い国で発展しきた理由ともなっているのだが、あえてここで例を出して論じることもないだろう。ただ、安部公

房が「第四間氷期」を書いた５０年代はそうした進歩概念そのものが最も正当性をもっていた時期であったことは述べておく必要がありそうだ。つまり、その頃はテクノロジイ文明が一般家庭にまで普及し始め、様々な電化製品による便利な生活が人々を楽しませ、夢の超特急とか高速道路の計画が更に望ましい未来への期待を与えていた時代であり、アフリカには次々と独立国が生まれ、国内でも安保闘争の前であり、いわばどちらを向いても未来に向かって何かを語れるような、そういう時代であった。

「人間が未来的な存在であり、殺人が悪であるのは、その未来を奪いとるためだというのは確かだとしても、未来はあくまでも現在の時間的投影なのである。その現在さえ持っていないものの未来に、誰が責任などもちえよう。」

安部公房はこの作品の中で主人公にそう語られている。人間が未来的な存在であるというのは、多分に状況的なもので、「第四間氷期」が書かれた頃の日本人はその通りであっただろうが、同じ時期のエスキモーや、平安時代の日本人までもやはり未来的存在といえるかどうか疑わしい。だが、そんなことはあたりまえのことで、私自身もこの文のはじめに同様な意味で「人間は」といっており、これは当然現代人の、それも近代文明の中の人間ということになる。そして、未来的存在であるといえるほど、現代人の意識はひたすら未来に向けられているといえるだろう。「第四間氷期」がとらえた人間の問題は、その存在性に根づいてしまった未来意識そのものである。

「第四間氷期」には進歩概念がないわけではない。それは予想機械の映す未来に向けて整然とした流れを生み出しており、第四間氷期から新しい時代に移行しようとする地球の自然に対応して、ちょうど魚から人間へと歩んだ進化のように、陸棲人から水棲人へと変っていくものの姿をある必然性としてとらえている。主人公は家畜の場合と、人間の場合の水中生物の生育を丹念に眺め続け、読者もまた人間の胎児に備わった鰓の退化をさまたげるだけで生まれる水棲人の存在を自然なものとして受け入れざるを得ない。「……言ってみれば、進化を人為的、かつ飛躍的に、しかも傾向的に行わせようという大それた計画ですな」と山本博士は語る。これは人為的計画であるとともに、生物の自然な進化でもあるわけで、アメリカやソヴィエト連邦のサイエンス・フィクション作家が最も好む未来像である。いわばアーサー・C・クラークやイワン・エフレーモフ的なテーマとしての進歩概念そのままであり、安部公房にとっては、５０年代から６０年代にかけての人々の未来意識の典型としてとらえられたものであろう。

安部公房はこうした進歩概念を１のH・Gウェルズ的に否定するわけではなく、むしろ水棲人として進化した人々の生活を淡々と描写し、そんな中に地上病につかれた少年を登場させて進歩概念の肯定をも拒否している。この少年と主人公の死がオーヴァーラップしながら、この作品は終るわけだが、主人公の側には先に述べたような「その現在さえもっていないものの未来」しか存在していない。

主人公はノンポリのこれといった未来観も持たない技術者で、しかも予言機械の製作者というテクノロジイ社会の前衛でもある。主人公は予言機械というものの意味を深く考えることなく、いわば現在さえもっていないのに現在に平然と生きていられると同じように未来にも平然ととりくめるのである。ここには未来志向にとりつかれた５０年代の人々へ

の深刻な皮肉がこめられており、安部公房は自分自身をも含めたこの時代の未来意識にある問いかけを示している。

安部公房の「安部公房集」（筑摩書房）による年譜を眺めていると、単にこうした問題が、この時代の状況に向けられたものであるだけでなく、安部公房自身の内的なシチュエイションとして芽えて（原文のママ）きたものであることがよくわかる。終戦とともに阿部は現在を奪われたまま「思想表白のつもりで」小説を書き始める。そして「思想的には、次第にコンミュニズムに接近、アヴァンギャルドの自覚を強め」ていく。更に「壁」による芥川賞受賞ののち「工場街の文学サークルの組織をする」のである。ここには未来に向けられた安部の前衛としての足跡が示されており、そんな中での自分への問いかけが「第四間氷期」の主人公に向けられていると考えられるのである。

予言機械は未来意識そのものでありながら、現実の人々に満足すべき未来を示してくれるわけではない。人々は勝手勝手に都合のよい未来を考えることで、未来志向という合意を得ているだけであって、そこには大きな欺瞞ある。従って、未来志向が生み出した予言機械は、逆に現実からの妨害にあたって作動させることができない。主人公は、上層部からの妨害の他に、もう一つ得体のしれない未来には整然とした真実があると思っているのだが、実はそれが未来からの妨害であったことがわかる。

「予言機械をもつことで、世界はますます連続的に、ちょうど鉱物の結晶のように静かで透明なものになると思いこんでいたのに、それはどうやら私の愚かさであったらしい。知るという言葉の正しい意味は、秩序や法則を見ることなどではなしに、むしろ混沌を見ることだったのだろうか……？」

主人公はゴシック体でこう叫ぶ。これは先に示した否定的未来観の２にあたるもので、現実の未来へのかかわりを認めながらも、大局的には現実からの未来へのアプローチが無意味なものだという考え方である。それが安部公房にとって文学サークル活動や党の日常活動にあたるものかどうかという問題にはここでは深入りしない。この作品の主たるテーマは、むしろ先に示した進歩概念的な整然たる未来への流れと、この主人公の連続性を否定された未来の間に生まれたパラドクックスにある。

そして主人公の問題は更に発展していく。単に未来の問題が未来という不確実な存在性に満足せずに現実にまで侵略を始めたのだ。主人公は現実の自分に対する敵として侵略者を考え、敵と対決することで予言機械の未来が守られると考える。しかし、その敵こそ予言機械の未来そのものだった。現実の側には守るべき現実と未来があり、未来の側にはそれと対立する未来と現実がある。現実の側の未来と未来そのものは完全に対立して、３として示した未来への連続性の否定に至る。これは矛盾しているようだが、矛盾は一元的に時間を考えるから生まれ得るもので、進歩概念に一貫された未来と、現実の未来志向と、未来からとらえられた現実という三つの原点からとらえられた未来観と現実観には、それだけの相異があって当然でもある。もし、それを矛盾として考えるならば、状況的な現実の人々にある未来意識のかかえた矛盾なのである。つまり、パラドックスはそれぞれの原点を飛び歩きながらとらえている限り、極めて論理的なものであり、パラドックスの存在

そのものに否定される理由は何もない。しかしパラドックスを含む論理を一つの原点に居座って考える時、それは矛盾と呼ばれることになるだろう。

未来からとらえられた現実には、もう一人の主人公自身が存在する。それは予言機械が生み出した未来の自分であるが、単純に時間的未来に存在するだろうと思われる自分ではなく、未来に存在する自分が現実の未来志向上での矛盾を解決して整合した存在である。

本来は未来の自分と現在の自分がどこかで連続するはずなのだが、遂に両者は接続することなく現実の主人公は殺される。ここにも状況的には人々の未来意識への決定的なアイロニイがあるといえるだろう。つまり、現在の自分自身の存在性を、志向性として未来的にとらえた時、その志向性を持った意識の自我と、現実存在としての自我をその志向上の未来意識からとらえたものとの間には何の連続性も持ち得ないことになるからである。人間は未来的存在であり、未来に対して、例えばコップを落とせば割れるという現実的な信頼感を抱きながら、実際にコップが割れているという状態からはコップを落とすという行為が否定されているのだ。

確かに進化論の論理性を認めることも、テクノロジイの進歩を認めることも難しくない。むしろ、それに依存して人間はここまで生きてきた。安部公房が「第四間氷期」ののちに未来意識への執着をほとんどすててしまった。それは状況的に前衛としての位置に立つことも、未来意識に現在の存在性を考えることもである。安部公房のその後の作品に現われるものは「砂の女」から「箱男」に至る、あのスタテイックな世界である。「砂の女」や「箱男」の主人公は、全く未来的な存在でないことで状況から見捨てられ、匿名の存在となっているのである。

［編集後記］

＊安部公房氏の文学の魅力は、多くの人が指摘する卓抜で斬新な着想やストーリーの構成力よりも、むしろその特異な抒情性（兇暴さに充ちた乾いた抒情とでも言うべき）にあると思われてならない。

＊この国の文学風土においては、抒情とは近代主義者の『伝統的美意識』への回帰（転向）という屈折過程を経て表白されるのを常とした。しかし、今や回帰すべき伝統も土地も骨董的世界（ディスカバーなんとかを含めて）を除けば、現実にはどこにもありはしない。既に歌うべき抒情の基盤は消滅しているのだ。そしてこの無味乾燥な「都会」の時代においては、人間は個性としてではなく、交換可能な一個の役割機能としてのみ存在価値を認められる。つまり”仮面の関係”に基づいた擬似共同体があるだけなのだ。このような危機的な時代において、文学が観光パンフレットを拒絶するならば、まやかしに充ちた花鳥風月的抒情は当然殺戮されなければならない。この問題に対して、強靭な知性で真っ向から切り結んで、新しい抒情（といようりは抒情の果ての抒情）を明確に対応せしめたのは、方法論は一八〇度異なるが、三島由紀夫氏と安部公房氏ではあるまいか。この二人は言葉と世界との関係において、根底的に醒めている。冴え冴えと醒めて凍りついた狂気を『金閣寺』や『第四間氷期』に見てしまうのは誤りであろうか。

＊「終った所から始めた旅に、終りはない。墓の中の誕生を語らねばならぬ。何故に人間

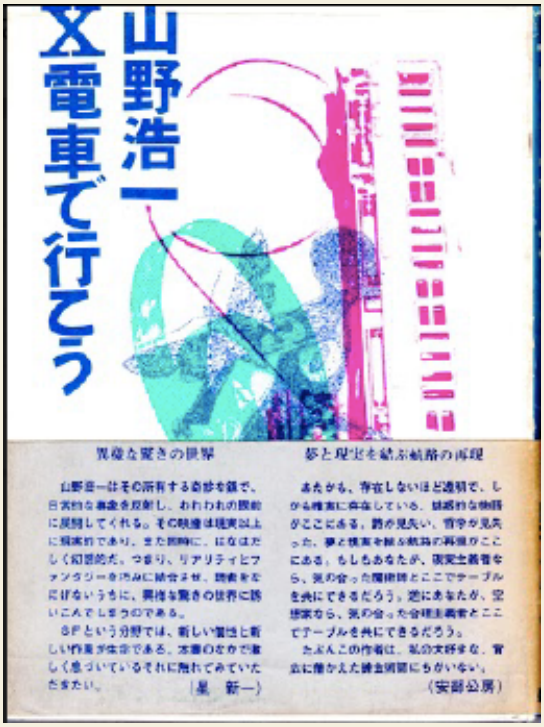
はかく在らねばなら布か？……」この旋律的な一行に始まる『終りし道の標べに』に出会ったのは、今から十年も前の冬の日であった。（O）

＊＊＊

【編集部註】
この『第四間氷期』論は、１９７６年３月号の『ユリイカ』に発表されたものです。

安部公房は論者の刊行した『X電車で行こう』の帯文を書いてゐます。『安部公房はいつまでSFの世界と交流があったか 』（もぐら通信６３号）です。以下引用します：

「1965年に、山野浩一の最初の小説作品集の本の帯文を星新一と並んで、安部公房は書いてゐます。「夢と現実を結ぶ航路の再現」と題した此の帯文は、全集第29巻、546ページに其の 全文が収録されてゐる。当時刊行の装幀と帯文の写真を掲げます。



山野浩一いふ方は、SFの世界の草創期からの優れた批評家です。今巽孝之編著『日本SF論争史』 より山野浩一に関する記述を一部引用します。(同著、140ページ)

「山野浩一(一九三九―)は、日本におけるニューウェーヴ運動の推進役として絶大な影響力をふるった作家・批評家である。当初、映画青年だった彼は、関西学院大学法学部を中退して上京後、寺山修司の勧めで小説執筆を決意。かくして一九六四年、〈宇宙塵〉に発表された最初の作品「X電車で行こう」が評判を呼び、〈SFマガジン〉に転載されて衝撃のデビューを飾り、三島由紀夫や安部公房からも絶賛される。翌一九六五年にはそれを標題作にして早川書房から第一短 編集が刊行され、以後七〇年における自己のSF雑誌〈季刊NW・SF〉創刊をはさみ、独自の第二 短編集『鳥は今どこを飛ぶか』(一九七一)、第一長編『花と機械とゲシュタルト』(一九八 一)、連作集『レヴォリューション』(一九八三)など多数の著作を出版、高い評価を受けてい る。」(傍線筆者) 」

『周辺飛行』論
（５）
３。『周辺飛行』について（２）
『ところで君は―周辺飛行２』

岩田英哉

目次

１。「周辺飛行１」と「周辺飛行２」の比較によつて解ること
２。何故「ぼく」は「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」のか
３。安部公房の存在論の記号を使つて猫の暗号を解読する
４。「周辺飛行２」の最後と『第四間氷期』の最後を比較する
５。何故贋宝石屋と手品師は貝殻草の匂ひを嗅いでも贋魚になつた夢を見ないのか？

＊＊＊

１。「周辺飛行１」と「周辺飛行２」の比較によつて解ること

このエッセイは１９７１年５月１日付のエッセイです。前回の「周辺飛行１」は１９７１年３月１日付のエッセイ。小説『箱男』の刊行は１９７３年３月３０日。

このやうに時系列で見て見ますと、『箱男』の部分を成す章が１９７１年の早い時期から用意されてゐたといふことになります。

『箱男』と「周辺飛行２」を比較しますと、前回の「周辺飛行１」のショパンの章がさうであつたやうに、今回も小説の最後の段落とエッセイの最後の段落が異なつてゐます。

「周辺飛行１」の結末は、「ショパンの項が載っていない百科事典はないし、世界で最初の切手の発明家ならびに製作者として、たいていの郵便局に、ぼくの肖像がかざられている」といふことになつて終はつてゐて、それが小説の結末ではショパンは無名になつて世の中の人々から忘れられるといふ結末であるのですから、同様に「周辺飛行２」も同じ終はり方をしてゐるのではないかと考へて比較をしてみませう。

ショパンの場合：
エッセイでは有名になるが、システムの発達とともに贋造者になつて無名になる。

（１）有名→無名
（２）郵便システム（体系）の発達→切手の贋造者としてシステムから消されてしまふ

贋魚の場合：
（１）貝殻草で贋魚になる→連続的な夢の中で目が覚めるので人間に戻らない
（２）贋造者（＝贋物に免疫になつてしまった人間）は貝殻草の夢を見ない。例：贋宝石屋、手品師。「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」

エッセイの此の最後の段落の全部を引用します。そして其の後に、その内容を一覧表にして整理をすることにします。まづ段落です：

「しかし、どうしたわけか、ぼくはまだ魚になっていない。ここでもう何度か夜をすごしたが、いぜんとして、昨日のままのぼくである。ぼくだけでなく、昨夜、相宿だった男も、もとどおりの人間の姿で目覚め、何事もなく旅立って行った。贋宝石の行商人で、昔は手品師をしていたこともあると言う。贋物に免疫になってしまった人間には、もう貝殻草の夢を見たりする心配はないのかもしれない。でも、気は許せない。贋宝石屋も、手品師も、近頃はあまり流行（はや）らなくなった商売だ。それにぼくは、猫に見すえられるのが、なぜか不気味でしかたがない。」（全集第２３巻、１１６ページ下段）

この文章を一覧表にすると次のやうになります。ダウンロードは次のURLで：https://www.scribd.com/document/392181265/貝殻草の匂ひを嗅く-と-何故人間は贋魚になるのか

20181101　岩田英哉　もぐら通信

貝殻草の匂ひを嗅ぐと何故人間は贋魚になるのか？

	A	B	C	D	E	F
		貝殻草		免疫のある人間の例	備考１	備考２
1	免疫がない	贋魚	貝殻草の夢を見る	―	「ぼく」は「猫に見据えられ」ても「なぜか不気味でしかたがな」くなることはない	貝殻草の夢を見るとは贋魚になり、夢から覚めても贋魚であり続けること
2	免疫がある	贋造者	貝殻草の夢を見ない	贋宝石屋、手品師、「ぼく」	「ぼく」は「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」	安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」。「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」はどちらの「ぼく」か。

上図で判ることは、贋物になる/であることと贋造者であることの違ひは、貝殻草の匂ひを嗅ひで免疫があるかどうか、即ち夢を見て贋魚になるかどうかの違ひである。贋造者はこの夢を見ない。とすると、安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」にあつて、前者の僕は免疫のある贋造者であり、後者の「僕」は免疫のない一人称であるといふことになる。とすると「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」とは、この話法にあつて、前者の僕である僕が、後者の「僕」になる事を恐れる「僕」であるといふことになる。この話法については「『デンドロカカリヤ』論（後篇）」（もぐら通信第５４号）を参照のこと。詳述しました。

上図から読み取ることのできることは次のことです。

（１）贋物になる/であることと贋造者であることの違ひは、貝殻草の匂ひを嗅ひで免疫があるかどうか、即ち、夢を見て贋魚になるかどうかの違ひである。
（２）贋造者はこの夢を見ない。とすると、

（３）安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」にあつて［註１］、前者の僕は免疫のある贋造者であり、後者の「僕」は免疫のない一人称であるといふことになる。とすると、
（４）「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」とは、この話法にあつて、前者の僕である僕が、後者の「僕」になる事を恐れる「僕」であるといふことになる。

［註１］
この話法については「『デンドロカカリヤ』論（後篇）」（もぐら通信第５４号）を参照のこと。詳述しました。

前者の僕は現存在、後者の「僕」は存在といふ関係にあるのでした。そして/しかし、勿論この関係は等価で交換可能な関係ですから、どちらが本物でどちらが贋物なのかは場合場合により、即ち文脈（conext：コンテクスト）によりますので、常に同じかどうかといふことではなく、その真贋を其の時々に問われれれば常に不明です。

２。何故「ぼく」は「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」のか

さて、次に問はれるのは、「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」と其のやうな猫と関係は一体何なのでせうか？『何故安部公房の猫はいつも殺されるのか？』（もぐら通信第５８号および第６０号）より引用してお伝へします。この「ぼく」はどちらの僕なのでせうか。即ち、「ぼく」にとつて猫とは何か？

安部公房は次の５匹の猫を殺してゐます。列挙の順序は上記の『何故安部公房の猫はいつも殺されるのか？』の論述の順序に従ひます。

（１）第一の猫殺人事件：処女作『（霊媒の話より）題未定』の猫
（２）第二の猫殺人事件：『他人の顔』（講談社版）の猫
（３）第三の猫殺人事件：『燃えつきた地図』の猫
（４）第四の猫殺人事件：『方舟さくら丸』の猫
（５）第五の猫殺人事件：『キンドル氏とねこ』の猫

最も重要な猫は（５）の『キンドル氏とねこ』の猫です。上記の論考の「II　１９５７年（昭和３２年）３２歳の時に東欧旅行中の安部公房が真知夫人に当てた葉書の文面から解ること」から猫とは何かといふ問ひに答へる文章を引用します。以下の文章を読めば、安部公房の猫が、そして「周辺飛行２」の最後の猫が一体何であるかがお解りになる筈です：

「さて、１９５７年（昭和３２年）３２歳の時に東欧旅行の途次、安部公房が真知夫人に当てた葉書の文面中に、帰国したら一人娘ねりさんのために猫を買ひたいと書いた文は、次のやうになつてゐます。

「真知子へ
その後、変わりありませんか。
今日、スロヴァキヤ旅行を終えて、プラーハに帰ってきました。チェコスロヴァキヤを見るだけでも、なかなか大変です。（略）
（略）
すこぶる家がなつかしくなりました。帰って、いろいろ話すのがたのしみです。ネリに会いたいと思います。ネコを買おうと思っています。むろん、おもちゃの。
プラーハという町は、やはり一番リルケのことを思い出すような町です。日本のことを考えると、胸苦しいような気持ちになります。（略）
（略）」
（『安部公房展［没後10年］Kobo ABe Exhibition』９１ページ、世田谷美術館編集・発行）

さて、この「むろん、おもちゃの」「ネコ」とはなんでせうか。「むろん」といふからには、既に真知子夫人に話も度々し、猫がなぜ玩具でなければならないのかについても二人の間には共通の理解がある。ねり氏は１９５４年（昭和２９年）生まれ、此の時満年齢で３歳、数え年で４歳。４歳の子供の玩具に猫のオモチャはふさはしい。しかし、何故猫なのでありませうか。このオモチャは安部公房の「空白の論理」に従つて、中が空の、空洞の猫なのかも知れません。当時のことですから、ブリキでできてゐるのかも知れません。生きた猫ではないのですから、生きた猫から見れば、死んだ猫といふことになります。死んだ猫から見れば、それは死んだ猫ですらないといふことになりませう。何しろオモチャなのですから。そして、後述するやうに此の猫は確かに剥製の猫に相当する動かない猫なのです。それは何故でせうか。
（略）
１９５１年の『玩具と思想』といふエッセイによれば、玩具とは、もし玩具に対する関心を人が持てば、それは「人間の存在形式の原型であると言っても過言ではない。現実を理解する方法を、人間は最初玩具から学ぶのだ。その方法に従って、人間は道具の意味を了解する。それから、ついに、言語という球を、現実という複雑な傾斜の上をころがしてみるようになる。その運動が思想と名づけられるのだ。」（『玩具と思想』第３巻、１４０ページ下段）

玩具（おもちや）の猫は「人間の存在形式の原型である」といふ事ができる。この玩具の猫はこの「現実という複雑な傾斜の上をころが」る「言語という球」である。といふのです。この「運動は思想と名づけられる」以上、玩具の猫の運動は体系的であつて、従ひ一つの原理に基づいて動くものでありませう。

結局、かうしてみると、玩具の猫は言語である、といふことになります。この猫は現実の時間の断層であり断面である斜面を転がつて、言語的に多次元的な諸相を写し映すものである、そのやうな写像の対象となる投影体である。と、このやうにいふ事ができるでせう。ここまで此のエッセイの論旨を問題上昇させてみると、確かに其のやうである。

また、１９６６年の『玩具箱』といふ、安部公房が『終りし道の標べに』で世に出た後に『近代文学』を舞台に親交のあつた埴谷雄高や、花田清輝、それから存在の中の師石川淳、また千田是也についての印象を書いたエッセイがある。それにはかうあります。

「戦後はすでに、遠く霧のなかに沈んでしまった。べつに、思想や方法のことを言っているのではない。ごく単純な、記憶の問題である。霧の中に目をこらしていると、浮かんでくるのは、ただ、雑然とした玩具箱のようなものだ。（略）霧の向うから強くさしこむ、これらの光をのぞいたあとは、めったに思い出したこともない玩具箱の中で、なにか仔鼠のようなものがこそこそ音をたてているばかりである。しかし、すべてにわたって掃除の大嫌いなぼくは、べつだんネコイラズを仕掛けようとも思わない。」（『玩具箱』第２０巻、３６３ページ）

ここには鼠の側から、鼠退治のための猫が、ネコイラズ（猫要らず）、即ち鼠を退治する毒薬として、また同時に『不思議の国のアリス』のチェシー猫、即ち謂はば「不在の猫」として在る猫として言及されてゐます。

それから重要なことは、安部公房は、子鼠ではなく、「仔鼠」と書いてゐることです。既に「『方舟さくら丸』の中の三島由紀夫」で上述しましたやうに、安部公房が子供の子ではなく、『仔象は死んだ』の仔の字を用ゐる際には、これは存在の子供であること、生から見たら、この世にゐない死者に等しい、存在に生きてゐる子供であることを意味してゐます。とすれば、仔鼠もまた存在の子鼠であり、それ故に仔鼠なのです。

これが、鼠と猫、それも存在の仔鼠と不在の猫との関係なのです。これが、安部公房の世界の鼠と猫の関係、安部公房流のTom & Jerryの関係といふ訳です。

そして、上述のところによれば、玩具の猫は言語であるといふ事でありましたから、玩具の猫は不在の猫であるといふことになり、確かに言語は関数であり関係概念ですので、猫は不在であれば言葉同様に尚意味はなく、何かと何かの関係を接続する機能を、その不在性と空虚によつて、有してゐるといふことになります。ドーナツの穴のやうに。

これだけでも確かに、安部公房の猫は殺されねばならないといふ理屈にはなります。」（『何故安部公房の猫はいつも殺されるのか？』（もぐら通信第５８号）

さて、初期安部公房論［註２］で明らかになつたやうに、安部公房は、詩人から詩人のままに小説家に「転身」するためにtopologyといふ数学を使つてテキスト（文章）と安部公房の哲学と詩の世界の用語の持つ概念の内部と外部を、自分自身も含めて（何しろ自分自身が詩人から小説家に「転身」（変身）しなければならない）、等価交換をすることによつて、初期安部公房の作品で存在論の記号［註３］を使つて書いてゐた哲学と詩の用語の概念を取り払ひ、普通の地の文の文字に変換することに成功しました。

［註２］
初期安部公房論は『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』の題名の元にもぐら通信第５６号より第５９号までに論じ尽くしましたので、これをお読みください。そのうち『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について（１）』の中の「I　安部公房の自筆年譜と『形象詩集』の関係について」（もぐら通信第５６号）より初期安部公房の定義を引用します：

初期安部公房の定義

『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』といふ題でお話を致しますが、ここでいふ安部公房文学の「初期」といふ言葉の定義について最初に簡単に説明をして読者のご理解を得てから本題に入ります。

この場合の「初期」とは、既に「『デンドロカカリヤ』論（前篇）」（もぐら通信第５３号）にて明らかに致しました「詩人から小説家へ、しかし詩人のままに」のチャート図に基づいて定義をすると、次のやうになります。

１。狭義には、３つの問題下降の時期、即ち詩人から小説家への変身に３回の問題下降によつて美事に成功する時期、即ち全集によれば詩集『没我の地平』を著した西暦１９４６年（昭和２１年）安部公房２２歳から『デンドロカカリヤB』［註１］を著した西暦１９５２年（昭和２７年）安部公房２８歳までの期間を言ひ、

２。広義には、３つの問題下降以前の時期、即ち西暦１９４２年（昭和１７年）安部公房１８歳から西暦１９４４年（昭和１９年）安部公房２０歳までの問題下降論確立の時期及び、西暦１９４５年（昭和２０年）安部公房２１歳までの１年間を含んだ時期を併せた全体の時間を言ひます。

［註１］
「『デンドロカカリヤ』には二種類あります。一つは、全集によれば「雑誌「表現」版」と呼ばれてゐるもの、もう一つは、「書肆ユリイカ版」と呼ばれてゐるもの、この二つです。便宜上、前者を『デンドロカカリヤA』と呼び、後者を『デンドロカカリヤB』と呼ぶことにします。前者の発行は１９４８年８月１日、安部公房２５歳の時、後者の発行は１９５２年１２月３１日、安部公房２８歳の時です。この二つの作品の間に、『S・カルマ氏の犯罪』で芥川賞を受賞してゐます。」（「『デンドロカカリヤ』論（前篇）」もぐら通信第５３号）

［註３］
『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について（３）』（もぐら通信第５８号）より「IV　「転身」といふ語のある小説を読む（「②詩と散文統合の為の問題下降」期の小説）」以下の章で安部公房の存在論の記号の意味については詳述しましたので、これらの章をお読みください。

３。安部公房の存在論の記号を使つて猫の暗号を解読する

ですから、この「周辺飛行２」の猫も、《猫》と安部公房の新象徴主義哲学の汎神論的存在論に基づく記号を用ひて記号化すれば、読者にはこれが存在の猫であることがよくお解りでありませう。しかし、この《　》は同時に現存在の記号でもありますから、また存在の猫は現存在の猫としても《　》の記号を使つて《猫》と書かれ得るわけです。さうすると次のやうになる：。

《存在》：《現存在》
《現存在》：《存在》

といふやうに二つの概念はtopologicalに等価交換可能でありますから、

僕の猫：「僕」の猫（僕の中の「僕」の猫といふ意味です）

この二つがゐることになり、この二つは、

僕の《猫》：「僕」の《猫》

となつて、この二つの《猫》がそれぞれに《存在》：《現存在》であるのか、《現存在》：《存在》であるのかによつて、猫の所有者である筈の一人称の僕がそれぞれ《現存在》なのか《存在》なのかといふ組み合わせの場合の数だけあることになり、これが其のまま『箱男』といふ小説の一見複雑な入籠構造の箱になつてゐることがお解りでせう。即ち、読者には、

猫［（僕、「僕」）、（存在、現存在）、（《存在》、《現存在》）］

といふ猫と［　］の中の用語と概念の組み合わせの数だけの猫がゐるのです。まあ、これは一寸ここではやつてられませんので、わたくしは猫を被つてダンマリを決め込み、安部公房の熱心なる読者であるあなたにあとはお任せ致します。

これでは、確かに「猫に見据えられる」と「なぜか不気味でしかたがない」「ぼく」だといふことになるでありませう。何故不気味かと云へば、この地の文で猫と書かれてゐる此の猫は、（僕、「僕」）、（存在、現存在）、（《存在》、《現存在》）といふ等価交換の隙間（非連続量）または歪み（連続量）の中に棲息してゐる存在の猫、即ち時間と空間の交差してゐる存在の十字路にすまひする猫であるからです。

とすれば、このエッセイの最後に名前の挙げられる此の猫は、「周辺飛行２」の最初に語られる貝殻草と全く同様の、後者は海の中の、前者は陸の上の、存在に名付けられた、リルケの純粋空間と同様の時間の存在しない、永遠に植物や鳥や噴水が循環する永劫再帰的なまたは永劫回帰的な（と、安部公房がリルケ同様に没頭して読んだニーチェならばいふでありませう其のやうな）空間だといふことになります。やはり此処でも、安部公房は「周辺飛行」といふ連載の名前の通りに、始めと終はりを一捻りしてメビウスの環を
作つてゐるのです。さて、「周辺飛行２」の冒頭です：

「どころで君は、貝殻草の話を聞いたことがあるだろうか。いまぼくが腰を下している、この海辺の石垣の斜面の、隙間と言う隙間を、線香花火のような棘だらけの葉で埋めているのが、どうやらその草であるらしい。」（全集第２３巻、１１４上段）

貝殻草といふ《貝殻草》は「この海辺の石垣の斜面の、隙間と言う隙間」に文字通りに存在してゐる。斜面であるのは、このエッセイの最後の段落の猫が生きた生身の猫ではなく、安部公房が東欧旅行の折に一人娘ねりさんにお土産にしようとした玩具の猫であつて、そして「玩具の猫は言語である、といふことになります。この猫は現実の時間の断層であり断面である斜面を転がつて、言語的に多次元的な諸相を写し映すものである、そのやうな写像の対象となる投影体である」からです。

この時間の斜面にある断層は『デンドロカカリヤ』のコモン君が植物に変形するに際して地球の大振動と共に露はになる斜面の断層と同じです。即ち「この海辺の石垣の斜面の、隙間と言う隙間」の「隙間と言う隙間」は、コモン君にとつての断層に等しいのです。コモン君ついでに言ひますと、「線香花火のような棘だらけの葉」といはれてゐる此の葉つぱの様子は同じ『デンドロカカリヤ』の中に引用されてゐる次のリルケの詩句を思はせるものがあります。かうして「周辺飛行」に、従つて『箱男』に依然としてリルケは生きてゐるのです。

「ただ、この世のはかなさをすごすためなら
　何故？とりわけほの暗い緑の中で［註４］
　葉の緑々に小さな波形を刻む
　月桂の樹であってはならないのか？」
（リルケの『ドゥイーノの悲歌』の９番の詩より）

［註４］
緑色については『もぐら感覚２１：緑色』（もぐら通信第２５号）および『もぐら感覚２１：緑色（２）』（もぐら通信第２６号）を参照ください。詳細に論じました。

「ところで君は」、かうしてみると、貝殻草の匂ひを嗅ぐとなる貝殻草であるならば、『デンドロカカリヤ』のコモン君になるのだ。といふ事であれば、箱男はコモン君である、と言つても同然である、といふことになります。如何か。

さて、空間の隙間はありましたが、それでは時間の隙間はどこにあるのでせうか。時間的な隙間、即ち時間的な差異とは遅延に他ならないのでありましたから、二つめの段落としてある一行の文、

「貝殻草のにおいを嗅ぐと、魚になった夢を見るという。」

この一行にある、貝殻草の匂ひを嗅い「と」、魚になつた夢を見るといふ此の文の隙間であり沈黙であり余白である「、」に時間の遅延が言はれてゐるといふことになります。その証拠に、三つ目の段落に、貝殻草と夢に関する詳細な次の記述があります。

「本物の魚のことは、よく知らないが、夢の中の魚が経験する時間は、覚めていた時とは、まるで違った流れ方をするらしい。速度が目立って遅くなり、地上の数秒が、数日間にも、数週間にも、引き延ばされて感じられはじめるらしいのだ。」
（同巻、１１４ページ上段）

これで、いつものシャーマン安部公房の秘儀の式次第が最初の交差点、あるひは曲がり角、即ち「カーブの向う」が整ひました。

４。「周辺飛行２」の最後と『第四間氷期』の最後を比較する

此処から最後の段落の前までは、実に安部公房らしい生理的感覚に満ちた文章が続きます。夢の中の魚の様子が直に皮膚感覚に訴へて読者の生理の中に入つて来る。これは実際に同巻１１４ページから１１６ページまでをお読み下さい。私のくだくだしい説明は、安部公房の文体への理解を損なひます。但し、最後から二つめの段落の最後の三行について『第四間氷期』の最後との比較をして、「周辺飛行２」は終はりとします。

最初に「周辺飛行２」：

「嵐の後、海辺に打ち上げられている魚たちのなかには、だから、貝殻草の花にむせながら睡りについた、運の悪い連中が、すくなからず混っているはずだという。」

『第四間氷期』の最後の段落、水棲人の少年が海の中から小島に這ひ上がつたところ：

「最後の力をふりしぼって、はい上がった。（略）
　しかし、待望の風は吹いていた。とりわけ、風が眼を洗い、それにこたえるように、何かが内側からにじみだしてくる。彼は満足した。どうやら、それが涙であり、地上病だったらしいと気づいたが、……もう動く気がしなかった。
　そして間もなく、生き絶えた。
　さらに何十昼夜かが繰り返され、海はその小島をも飲み込んだ。死んだ少年は、波に浮んで、どこまでも流されつづけた。」
（全集第９巻、１７３ページ下段）

『第四間氷期』の最後には涙といふリルケに学んだ透明感覚が『方舟さくら丸』その他の作品と同じく書かれてゐる。しかし、「周辺飛行２」の最後には透明感覚［註５］が書かれてゐない。といふことは、これがエッセイと小説の、安部公房が意識して設けてゐる違ひであるといふことになります。と思つて小説『箱男』の最後の段落をみると、そこにはいつもの透明感覚が登場してゐない。何故「贋のぼく」は涙を一滴も、『魔法のチョーク』のアルゴン君や『S・カルマ氏の犯罪』のS・カルマ氏のやうに、流さないのでらうか。

［註５］
透明感覚については『もぐら感覚７：透明感覚』（もぐら通信第５号）に詳述しましたので、ご覧ください。

それは次の理由によるのです。

５。何故贋宝石屋と手品師は貝殻草の匂ひを嗅いでも贋魚になつた夢を見ないのか？
何故「周辺飛行２」の最後の段落に猫の他に贋宝石屋と手品師の名前を挙げて、これを貝殻草の匂ひを嗅いでも夢を見ないか、たとへ夢をみても夢から覚めたら人間に戻つてしまふ免疫のある職業人としたのだらうかと考へて見ると、前者の宝石は宝石箱といふ箱に入つてゐるから、後者は箱の中から鳩やらハンカチーフやら万国旗やらを取り出してみせる箱を使つた手品を観客に見せるからといふ事になりませう。

最初から、そもそも箱といふものに関して超越論的な職業についてゐる人間であるから、といふのが其の回答になるでせう。だから、贋魚になる必要がない。最初から、そもそも、従ひ超越論的に現実といふ夢を見てゐるから。

どこまでも箱男である《安部公房》である。

安部公房とチョムスキー
（１１）

目次

１。ヨーロッパ文明の近代とは何であつた/あるのか
２。西洋近世哲学史の中の安部公房の位置
３。バロックとはどういふ時代か
３.１　バロックとは何か
３.２　バロック建築：差異の建築
３.３　バロック文学：差異の文学
３.４　バロック哲学：差異の哲学
４。チョムスキーの統辞理論とバロックの言語学：生成文法とポール・ロワイヤル文法
（１）チョムスキーの統辞理論とは何か
（２）ポール・ロワイヤル文法とは何か
４.１　チョムスキーの疑問に回答する：日本語の持つ冗長性とは何か
５。ポール・ロワイヤル文法とラシーヌ
６。「２。西洋近世哲学史の中の安部公房の位置」に関する補遺的説明
（１）再度バロックとは何か：バロックの概念ー歪な真珠とは何かー：真珠の分類と存在の凹の形象の一致
７。 一神教と大地母神崇拝をtoplogyで読み解く
７。１　一神教のtopology
７。２　大地母神崇拝のtopology
７。３　一神教のtopologyを大地母神崇拝のtopologyに変形する
８。スコラ哲学は２１世紀にも生きてゐる
９。ネットワーク・トポロジーの変遷で近代ヨーロッパ文明の３００年間を読む
１０.日本列島文明の視点から近世・近代ヨーロッパ文明を相対化する：大地母神崇拝と一神教の文明間戦争
１０.１　第二次世界大戦とは一体何であつたか
１０.２　第二次世界大戦を三つの戦域に分ける
１０.３　ヒットラーの頭の中を図解する
１０.４　座談会『近代の超克』（文芸誌『文学界』（１９４２年（昭和１７年）９月及び１０月号））を読む
１０.４.１　『近代の超克』といふ本の部立て
１０.４.２　小林秀雄の発言から此の座談の急所を読む
１１．言語の観点から第二次世界大戦後の日本を総括する
１１.１　誤訳国家日本の戦後７０年を総括する
１１.２　平成時代の３０年を総括する
１２。Topological（位相幾何学的）な「近代の超克」
１２.１　日本は「近代を超克」する必要がなかつたといふことについて
１２.２　日本の世界史的立場：逆王政復古：公武合体政策の解消とバロック的楕円形国體への復帰を
１２.３　世界の日本史的立場：逆バロック時代復古：汎神論的存在論（超越論）に拠つてヨーロッパ地域での古代の神々の復活を
１３。結語：安部公房とチョムスキー再度

青字は前回までに論じ終つたもの、
赤字は今回論ずるもの、
黒字はこれからのもの

１０. 日本列島文明の視点から近世・近代ヨーロッパ文明を相対化する：大地母神崇拝と一神教の文明間戦争

『安部公房とチョムスキー（１）』（もぐら通信第７３号）の「1。ヨーロッパ文明の近代とは何であつた/あるのか」および「2。西洋近世哲学史の中の安部公房の位置」と云ふ二つの章でお話しした通りにおさらひを此処ですれば、近代ヨーロッパ文明の思想史の上での分岐は、１８世紀の哲学者カントにあり、カントから二つの系譜が分岐したのでした。一つはカントーヘーゲルの共産主義の系譜、もう一つはカントーショーペンハウアーの超越論の系譜です。

言ひ換へれば、カント以後の近代２００年の歴史は共産主義と超越論の戦ひの歴史であつたのです。これは、明確な論理上の違ひがあつて、それは前者、即ち共産主義は一神教のtopologyに基づく論理であるのに対して、ヨーロッパの超越論者たちの、さうして私たち日本人の思考論理は後者、即ち大地母神崇拝のtopology、即ち汎神論的存在論、即ち日本民族ならば天地初発・国生み神話、更に即ち天（あめ）の御柱で接続された高天原topologyと大八島topologyによる（二つを併せて以下「Deep Japan」または「ディープ・ジャパン」と呼びます）による無文字文明以来の、即ち先の氷河期の終はつた１万５０００年前以来「いつの間にか」（超越論的時間）日本列島にある、そのやうな哲学であり数学であり言語機能論であり、これがそのまま日本の国柄（二次元）であり国体（三次元）であるからです。従ひ、Deep Japanはtopologicalな超越論的な空間であることは、『安部公房とチョムスキー（７）』（もぐら通信第８１号）にてお話しした通りです。

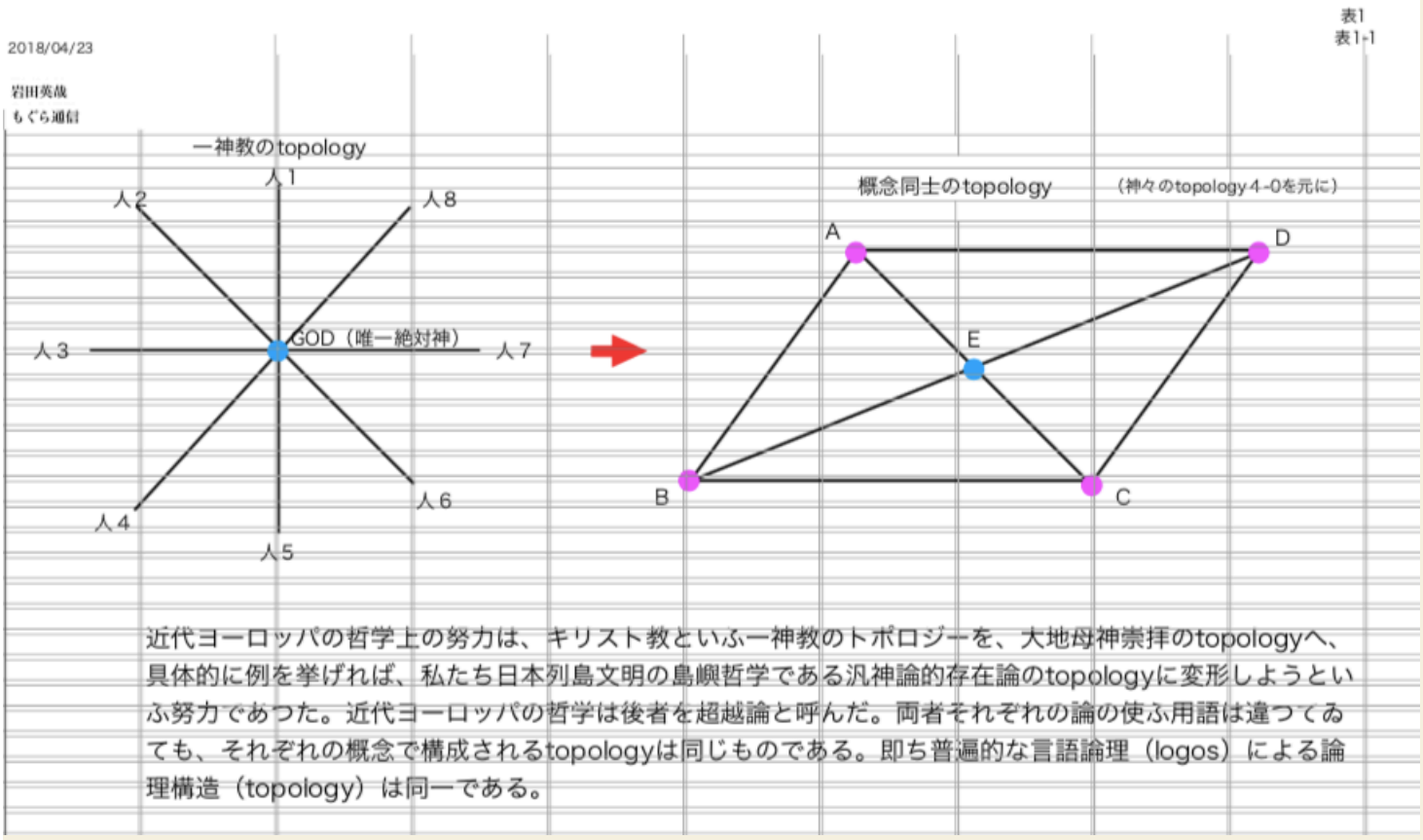
これは、本章の題の示す通り、一神教と云ふ共産主義の根底にある歴史的・伝統的・宗教的な論理と大地母神崇拝といふ此れは、一神教よりも遥かに古い紀元の古代から人類が奉じて来た（哲学用語で言へば）汎神論的存在論の文明間戦争に他ならなかつたのです。

ヨーロッパと云ふことから、前者はキリスト教の、そして後者が大地母神崇拝と云ふことから、これは此のままお判りの通り白色人種と有色人種間の戦争であつた。この間、コロンブスのアメリカ大陸発見を近世の始まりとして（しかし、一体誰がコロンブスを発見したのだ？）、前者は後者の国々を、圧倒的な武力によつて全世界に亘つて有色人種の諸国を好き勝手に分割をし、植民地となし、一神教と同じtopologyである資本主義と云ふ経済制度によつて有色人種の諸国の富を収奪した。そして、この資本主義と云ふ経済制度と表裏一体となつてあるのが此れも同じ一神教のtopologyである（何しろさうでなければ表裏一体の関係にはならない）民主主義と云ふ政治制度です。

Network topologyと云ふ観点から近代ヨーロッパを眺めれば、そして共産主義と云ふ政治学用語を用ひれば、これら二つの、近代国家を構成する制度は、共産主義であつた。即ち、マルクス主義と云ふ狭義の共産主義も、民主主義も資本主義も広義の共産主義であり、皆いづれも共産主義の中の対立であつた。

しかし、同じヨーロッパの中にも共産主義の論理に対抗して此れを否定してキリスト教のtopologyを克服し、唯一絶対神Godによらぬ天地の始まりを、または其の始まりも終はりもないことを、論理的に思考して森羅万象のあり方を説明する哲学の系譜が生まれた。これが、カントーショーペンハウアーに分岐する超越論の系譜の哲学者、言語学者、論理学者、数学者たちです。哲学ならば其の後ニーチェーハイデッガーーハラルド・ヴァインリッヒ/ジャック・デリダ/ジル・ドゥルーズ/レヴィ・ストロース等々。文明論の視点で見ると、日本では安部公房も、また同じ時代を１９７０年まで共に親しく生きた三島由紀夫も、この超越論の系譜に属する。言語学ならばソシュールとヴィトゲンシュタインにチョムスキー、論理学ならばフレーゲ、数学ならばtopologyであり、「ケーニヒスベルクの橋」の問題を解いたオイラー（１８世紀）に始まり、フレーゲを含んで今日に至る一連のtopologyの数学者たちです。

これを図示すれば、次のやうな図になります。超越論者たちは左の一神教のtopologyから右の汎神論的存在論、即ちカントが最初に使ツア（ヨーロッパ哲学用語で云ふ）超越論へと思考論理と生活論理を切り替へることを目したのでした。世界地図で理解しやすい様に云へば、ユーラシア大陸の極西（ヨーロッパ地域）から極東（日本列島）に至るために此の一番大きな大陸を横断しようとした、デカルトライプニッツ以来の３００年が、ヨーロッパの近代の超越論の歴史です。ダウンロードのURLは：「概念同士のtopology（一神教topology→概念同士のtopology）」：https://www.scribd.com/document/391966113/概念同士のtopology-一神教topology-概念同士のtopology



日本人が明治以来それぞれの専門家が交はして来た演題「近代の超克」に関する私の結論は、日本は近代ヨーロッパ文明を超克する必要など初めから全くなかつたといふことです。

何故なら、日本の国は既に縄文時代からそもそも超越論、即ち汎神論的存在論の国であるからです。日本の国が欧米に門戸を開かざるを得なかつたのは、彼の国々の持つ圧倒的な物質科学の知識と此れに拠る武力に対抗して植民地主義から我が身を護らねばならなかつたからです。文明と文化の水準は、江戸時代の日本の方が近代ヨーロッパよりも遥かに高度であり、近代は既に遅くとも大阪に米相場が生まれ、本間宗久がローソク足といふ高度に知的な相場読解のための発明をなした１８世紀後半には日本の資本主義は成熟してゐた。むしろ此の明治維新以来の１５０年は（今年は２０１８年）、国内にあつては私たちの文明と文化の劣化を防ぐ努力の歴史であり（国内の問題）、対外にあつては、明治政府が富国強兵・殖産興業と唱導したやうに日本のGDPを欧米列強に対抗できるまで増やすことによつて日本と云ふ国の安全保障の問題と国民の生命と財産を守る問題を解決し続ける歴史であつた（対外の問題）。

この明治政府のスローガン（標語）、富国強兵と殖産興業の意味する所が、当時の日本の国が強ひられて対処せざるを得なかつた姿を物語つてゐる。この標語の意味を解くと次の通り：

（１）西欧列強と同じ圧倒的な武力を必要とした（強兵）
（２）西欧と同じ資本の蓄積（富国）を必要とした。即ちこれが資本主義と民主主義による産業の育成（殖産興業）です。富国は強兵に通ず。と云ふことです。富国（GDPの増大）と強兵（軍備の増強）は、日本が「政治と経済の内部から外部の自然まで」の円盤図の上で日本の文化の上にある民主主義国家（政治）であり且つ資本主義国家（経済）である以上避けられない、文化と文学の世界からいへば、小林秀雄ならば宿命といふべきものです。

この内にあつては私たちの文明と文化の劣化の最も激しい時代が、先の戦争後の７０有余年であり、そのうち特に私たちが今生きてゐる平成時代の３０年間です。

さて、上掲の図をみながらtopologyに話を戻すと、これは表立つたtopologyの歴史の始まりですが、しかし、既に１７世紀のバロックの（共に）哲学者であり数学者であるデカルトとライプニッツも、前者は『方法叙説』を、後者は『モナド論』を読むと既にtopologyで思考してゐる事がわかります。従ひ、この数学の明瞭な歴史の徴（しるし）は１７世紀と云ふバロックの世紀にあります。この世紀の前半は３０年戦争と云ふドイツ諸国の領土を舞台にした戦争ばかりの世紀です。平俗な言ひ方をしますと、この無残な戦争に懲りてヨーロッパ域内諸国で締結したのがウエストファリア条約です。この間此の条約の精神が生かされたかと云ふと、喉元過ぎれば熱さ忘るる３００年が近代ヨーロッパの歴史で、チョムスキーは折角のデカルトの超越論によるフランスのポール・ロワイヤル文法を此の間２０世紀まですつかり忘却して顧みなかつたと言つて文字通りに激怒し、『グローバリズムは世界を破壊する　プロパガンダと民意』（原題『The Propaganda and the Public Mind』。藤田真利子訳。明石書店）と題した本まで書いて、激越な近代ヨーロッパとアメリカ文明批判を、ヨーロッパの鬼子であるアメリ

カに住むユダヤ人として誠に激しい言論を発して来たことは『安部公房とチョムスキー（３）』（もぐら通信第７５号）の「3.3 バロック文学：差異の文学」にてお話しした通りです。

同じカトリック内の、カソリック・キリスト教の戒律がだらしなくなつたので此れを遵守しようといふことを主張した少数派のポール・ロワイヤル修道院を異端であるとして弾圧して閉鎖せしめたのは、勿論今も昔もローマ法王庁です。今のローマ法王が中国共産党と手を結んで、共産党の任命した司教を追認したなどと云ふことはキリスト教徒にとつては言語同断で、間違ひなく彼の地のキリスト教徒はもつと弾圧されてチベット人やウイグル人と同様に虐殺され続けるでせう。自分の信徒たちを見捨てて、虐殺されることを承知で放置するとは、これが果たしてローマ法王の地位にある人間のすることでせうか？何故キリスト教と中国共産党が手を結んだか。それは同じ一神教のtopologyを共有してゐるからです。道徳が頽廃すれば、二つは手を組む。即ち、２１世紀は一神教について云へば、宗教と擬似宗教が手を結んだ、則ち安部公房の世界の言葉でいへば、本物と贋物の区別がお互ひにできなくなり、等価交換不可能な時代、即ち絶対命令者の時代が相変はらず、それもキリスト教とマルクス主義による共産党といふ互ひに否定しあふものが手を握つたと云ふ恐ろしい時代が始まつたと云ふことです。

マルクス主義を産んだヘーゲルは、当初神学を学びながら、唯一絶対神を信仰するキリスト教を非常に嫌ひ軽蔑しましたが、これをしも正反合の合（Synthese：ジンテーゼ）だと強弁するのでせうか。ヘーゲルが生きてゐたらインタヴューしたいものだ。それとも、この結末を「絶対精神の自然」だなどと嘯（うそぶ）くつもりではあるまいな、ヘーゲル君。ショーペンハウアーはヘーゲルを詐欺師ヘーゲルと罵倒し、ショーペンハウアーから出た超越論者ニーチェはヘーゲルについて、ヘーゲルの哲学が腐つてゐるのはヘーゲルが神学者だからだと痛烈に批判してゐますが、２１世紀になつてかうして見れば、ニーチェが狂気に堕ちたことを代償にして、ニーチェの徹底したヘーゲル批判は正しかつた。

これらの哲学・言語学・論理学・数学の関係については『哲学の問題１０１（６）：唯一絶対神（Gott：God）』（もぐら通信第８９号）の「５。存在と、唯一絶対神の二つの名前の関係：LordとGodの上位接続者を存在（das Sein：ダス・ザイン）と呼びますか？呼びませんか？」の章で論じましたのでご覧ください。

さて、これまでの成果をおさらひして、この上に立つて、次の問ひに答へます。

１０.１　第二次世界大戦とは一体何であつたか

この問ひに正面から答へるために、人間の行為の一次分類と第二次世界大戦を三つの戦域に分けることをしてから、三つの戦域のうちのヨーロッパ戦域で第二次世界大戦を起こしたヒットラーの頭の中のNAZIS即ち全体主義・ファシズムの論理の本質に話を及ぼしたい。

先に結論を述べれば、反ユダヤ教と云ふことを除いて、敗戦とともにNazismはマルクス主義に吸収されて広義の共産主義の一部となつて其のまま現在のglobalismに至つて生きてゐます。

反ユダヤ教を除き、Nazismはマルクス主義であり、マルクス主義は、反ユダヤ教を除き、Nazismです。この二つを広義の共産主義と呼んで一向に差し支へない。もし後述するマルクス主義・Nazism共通の論理を使つて論をなすものがゐたら、これも共産主義者であり、これらの者たちを一括して全体主義者またはファシストと呼んで一向に差し支へない。

日本に於いては勿論、今世界的に起きてゐるのは、インターネット上での全体主義またはファシズムです。この権力（「ネットワーク・ヘゲモニー」といひます）を握つてゐるのが、FAGAと、これも記号化して呼ばれるFacebook、Amazon、Google、Appleの四社にTwitterを加へた五社です。これ以外にも大なり小なり、ネットワーク・ヘゲモニーを握つた組織はあることでせう。

１０.１.１　人間の行為の一次分類

政治、経済、文化の三つの領域を、世界大戦の地域分類、即ち三つの戦域の上に置いて論ずる。さうすると、これを一般化しても、地球上の全地域に共通する此れが尺度となつて、私たちは歴史を、それが平時であれ戦時であれ、理解する事ができます。

A 一次分類

（１）政治
（２）経済
（３）文化

上記３つの用語の定義は次の通り：

（１）政治の定義
政治とは、一次分類を敵か味方かで識別し、区別する人間の行為である。［註１］

［註１］
カール・シュミット著『政治的なるものの概念』の開巻第一行より（傍線は原文傍点）：
「政治に固有なる区別は、敵、味方という区別である。」（『マックス・ヴェーバー/カール・シュミット　政治の本質』清水幾太郎訳。中公文庫）

（２）経済の定義
経済とは、一次分類を損か得かで識別し、区別する人間の行為である。

（３）文化の定義
文化とは、「A_政治と経済の内部から外部の自然まで」（後掲）の入籠構造をなす円環の中で又は円環図の上で、人間が言語又は言葉を正しく使ふ事である。

問題は世界と云ふ概念（言葉の意味の範囲）をどのやうに定義するかによります。世界は、定

義する人の視点次第で、広くもなり狭くもなり、それぞれ広義と狭義の定義となります。

１０.２　第二次世界大戦を三つの戦域に分ける

ここでは、第二次世界大戦を次のやうに三つの戦域に分けました。これはこれで、地政学と、もし此のやうな学問（科学）があれば、大陸に対して海政学と云ふべき学問の対比を基礎にして、次のやうな戦争の起きた地域を戦域と呼ぶことにします。戦線といふ線で捉へるのではなく、面で捉へて戦域と呼ばうといふのです。

B 二次分類

（１）ヨーロッパ戦域
（２）太平洋戦域
（３）アジア戦域

この三つの戦域の違ひを考察すると、私は国家意志と云ふ言葉を考へずにはいられませんでした。これら三つの戦域で戦つた戦争当事者たる国家は、それぞれに国家意志を持つてゐたと考へて論を進めます。国家意志は勿論、「A_政治と経済の内部から外部の自然まで」の入籠構造をなす円環の中で又は円環図の上にあつて国家毎に異質です。即ち、三つの戦域で、それぞれの戦争の動機も原因も異なるといふことです。次の定義をご覧下さい。

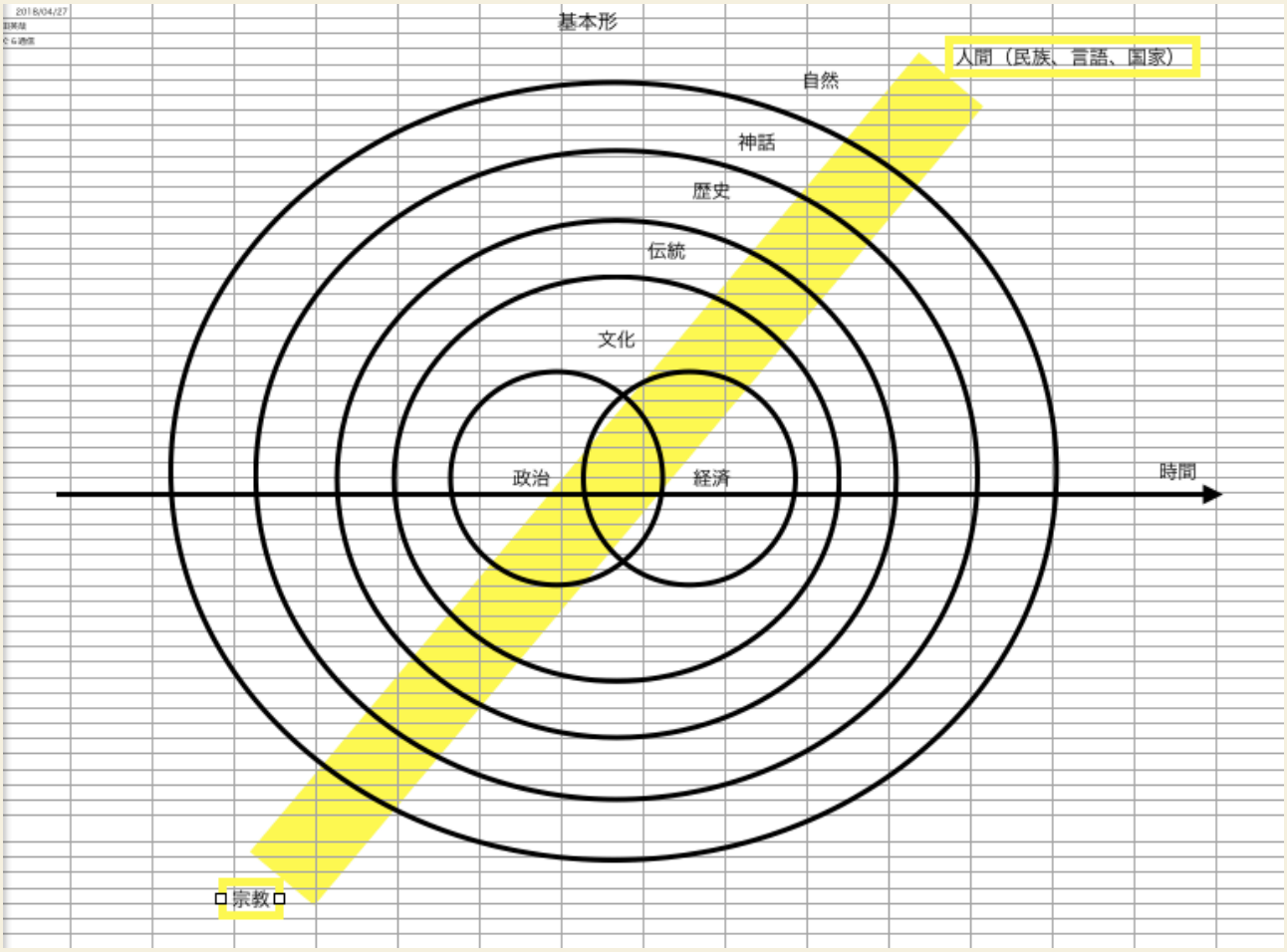
（１）国家の定義：
国家とは、自然＞神話＞歴史＞伝統＞文化＞（政治、経済）の入籠構造をなす円環の中で、時間の中で生きる人間のつくる最大の組織である。

［補足説明］
この順序は時間の中で一見成立が反対に見えるてゐて、国家が現実には組織上の最上位組織であるとしても、成り立ちに着眼すれば、順序は逆であり、人間が国家を生み出すと云ふ順序になる。即ち、

その人間の民族（民族の遺伝子と言ひ換へても良い）と個別言語の生み出すものが国家である。安部公房が言語と遺伝子の関係に着目して、普遍的な人間のモデル（模型）とクレオール語と云ふ（民族と個別言語を異にする子供達が出会つて生まれる）母国語に対するに二次的な普遍言語を論じたことには、このやうに深い意義があるのです。

その人間とは、例へば、あなたである。上記定義の全体を視覚的に理解するために「政治と経済の内部から外部の自然まで」の円盤図を参照のこと。上の定義と此の円盤図を見て、人間が民族・言語・国家の上にあり、また逆にこれら三つで人間ができてゐることを、言葉の意味（正確には概念）の内部と外部を等価交換して（安部公房のやうに）topologicalに此の真理を認識されたい。この円盤の上で、あなたは安部公房である。このやうな人間が、自然＞神話＞歴史＞伝統＞文化＞（政治、経済）の入籠構造をなす円環の中で/円盤の上で、時間の

中で生きてゐる。これが私たちの毎日の生活です。これを単純とみるか複雑とみるかは、あなたの人生観による。



この図のダウンロードは：https://www.scribd.com/document/392167695/政治と経済の内部から外部の自然まで

（2）国家意志の定義：
国家意志とは、国家が有する意志である。

（3）意志の定義：
意志とは、その人間の生まれついた民族（民族の遺伝子と言ひ換へても良い）と個別言語の生み出す人間の、政治・経済・文化に関する、かうしたいと云ふ思ひ、またはかうしてはならないと云ふ思ひである。

さて、上記B 二次分類のうち「（1）ヨーロッパ戦域」について論じ、この戦域の様相が如何に複雑なものか、そして私たち日本人には如何にヨーロッパの政治の論理と感情を理解する事が難しいかを私たち自身が（日本人として）知るために、ヒットラーの『Mein Kampf（マイン・カンプ』（邦題『我が闘争』）を読んで知つたヒットラーの頭の中の論理を図解しましたので、これを以つて説明をします。

これによつて同時に、私たちは世上曖昧に使はれてゐるNAZIS、マルクス主義、全体主義、ファシズム、共産主義、political correctness、国家社会主義（National-Socialism）、ナショナリズム（nationalism：国家主義）、愛国主義（patriotism）の用語を整理する事ができます。これから先の議論を円滑に理解するために、以下にそれぞれの図を「１０.３　ヒットラーの頭の中を図解する」の節で示しますが、必要であればこれらの資料を此処でダウンロードしてください。

（1）「A_政治と経済の内部から外部の自然まで」：https://www.scribd.com/document/392167695/政治と経済の内部から外部の自然まで
（2）「B_ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係」：https://www.scribd.com/document/391967267/b-ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係
（3）「C_ヒットラーから学ぶべき教訓」：同上
（4）「D_マルクス主義、共産主義、全体主義、ファシズムといふ用語の関係」：同上

これらの図表の説明は後述するとして、今ここでこのうち焦点を当てるのは（1）のヨーロッパ戦域で第二次世界大戦を惹き起こしたヒットラーのドイツのあるヨーロッパ戦域です。

これは、後掲する「１０.３　ヒットラーの頭の中を図解する」の図で説明することを先取りして文字で説明すれば、次の三つの勢力の戦ひでした。

（1）Nazismといふ名前のファシズム。ファシズムにはイタリアも含まれる。
（2）ソヴィエト連邦の共産党といふ名前のマルクス主義
（3）その他の国の民主主義

といふことは、ヨーロッパ戦域での戦争は、ファシズム、共産主義、民主主義の戦争であつたといふことになります。

これは政治体制の視点からの分類です。しかし、これを宗教といふ視点で眺めると、（ドイツがキリスト教国でありながら）ナチスは反ユダヤ教であり、民主主義国はキリスト教国であり、ソヴィエト連邦はマルクス主義（共産主義）であるといふことに鑑みて、更にマルクスがユダヤ人でありロシア革命がユダヤ人による革命であることを考慮に入れれば、ヨーロッパ戦域での戦争は、

①キリスト教とユダヤ教の戦争
②キリスト教と反キリスト教（ナチス）の戦争
③ユダヤ教と反ユダヤ教（ナチス）の戦争

このやうな宗教戦争の起きた戦域であつたといふことになります。キリスト教は反ユダヤ教ですから、キリスト教が、ナチスは反ユダヤ教であるといふことから、ナチスについたことは歴史の当然といふことです。キリスト教が何故こんなにユダヤ教を憎まなければならないか、歴

史的にユダヤ人の虐殺を何故繰り返すのかは関係する本を読んで頭では理解するのですが、またゲーテの自伝『詩と真実』を読むとフランクフルトの市長の息子少年ゲーテが此の町にあるゲットーの門前から中を眺めた様子を書いてゐてさうは思ふわけですし、また安部公房が後年知つて称揚したユダヤ人の作家エリアス・カネッティ（１９８１年度のノーベル文学受賞者）の先祖も１５世紀のスペインでのユダヤ人迫害によつて難を逃れてブルガリアに住み着いたといふことも知つてゐるわけですが、私もカネッティの愛読者ですからドイツ語を通じての言葉の上での作家本人に関する実感はあるものの、しかし、日本の歴史にはこんなユダヤ人の虐殺などはありませんので、従ひ自分自身のことではありませんから直ぐに忘れてしまつて、この宗教戦争の側面についての実感は全くありません。これは日本人は皆さうでありませう。第二次世界大戦と総称しても、文明圏・文化圏によつて事情は異質であり、この大戦は世界大戦であるからと言つて、その理由で、戦域を十把一絡げにしては説明がつかないといふことです。

ヨーロッパ戦域を、更に経済制度の視点でみると、次の三つの経済制度の戦争といふことになります。

（１）資本主義経済
（２）共産主義経済（計画統制経済）
（３）ナチスの経済（これは後述する理由で共産主義経済に等しい）

それでは（２）の太平洋戦域はどうかといへば、これは日米戦争であり、太平洋戦争と呼ぶことのできる戦争です。アメリカはアメリカでペリーの来航以来、建国の性格からアメリカ大陸の東から西へと達した後太平洋に進出してハワイを侵略し、日本へ至り、さて、戦後はヴェトナムやイランその他の国に至るまで西漸して武力を行使して止まない。アメリカもまた、その建国の性格からして共産主義であることは『安部公房のアメリカ論 ～贋物の国アメリカ～ 』（もぐら通信第２２号）で論じた通りです。

（３）のアジア戦域はどうかといへば、これは日本が大東亜戦争と呼んで戦つた主要な戦域であり、アジアの国々の、欧米植民地と人種差別からの解放と独立を目指し、また同時にABCD包囲網による経済封鎖（これは宣戦布告に等しい行為）に対抗して石油資源の確保を企図し、朝鮮半島にあつては共産党のソヴィエト共産党の南下を防ぎ、同時に支那大陸では国民党と戦つた。と、かう書いて見ても、日本にとつては東西南北の方面で同時に戦ふといふ大変難しい戦争であり、経済的な四面楚歌と政治的な危機を打開して道を拓くための戦域であることが判ります。これに、この戦域では、太平洋戦争と重複しますが、フィリピンでマッカーサー率ゐるアメリカ軍と戦つた。何故ならフィリピンはアメリカの植民地であつたからです。

さてかうして、世界地図の上で日本列島を中心に第二次世界大戦を眺めると、アメリカとの関係では東と南には太平洋戦争を、（呼び方を同じにすれば）西にはアジア戦争を、北には大陸戦争を、日本は戦つたといふことになります。

さて、第二次世界大戦を上記のやうに概観した上で、NAZIS以下の政治的な用語の分類の話です。これがこのまま現在の世界的な言葉の混乱の話になります。この混乱は、図表を見ればお判りの通りに政治用語と文化用語に及んでゐますが、しかし此の二つがさうであれば、間違ひなく経済用語に於いてもさうでありませう。民主主義・資本主義、共産主義（マルクス主義）、ファシズムの見えない戦争は今も、これは隠喩（メタファ）ではなく、現実に続いてゐるといふことです。さうであれば、これは依然として、思想戦争であり、共産主義と超越論の戦争であり、一神教と大地母神崇拝の戦争であり、また歴史戦争であり（何故ならば共産主義国家は其の国の成り立ちからいつて歴史を捏造するから［註２］）、文明間戦争です。

［註２］
『メタSF作家A氏への五つの手紙 』（もぐら通信第７１号）の「1.1 共産主義は何を実現したか? 」より引用します：

「私の共産党一党独裁政治による恐怖政治の行はれた東ドイツ(ドイツ民主主義共和国)での見 聞によれば(私は安部公房と同様に、国家の消滅を経験したことになります)、それは時間の 停止です。近代の文明、即ち資本主義と民主主義を憎み否定して、中世に戻らうといふことに 結果としてなつたのがマルクス主義の実現した社会でした。マルクス主義はルネサンス前の中 世に帰らうといふ運動だつたのです。私にはさう見える。
ブルジョワと呼んだ中産階級が(資本主義の勃興期に)自らの歴史の過去を振り返つて否定し て、それ以前の中世を暗黒の中世と呼んだ、さうして古代ギリシャに範型を求めた此のブルジョ ワの資本主義と民主主義の発想が既に歴史の連続性を否定する共産主義のドグマを含んでゐま す。つまり歴史の嘘の捏造の上に欧州近代史は成り立つてゐる。委細後述。 」

また、同号「2.1 キリスト教とイスラム教の関係 」より：

「また、キリスト教の一神教が、さうであるといふご指摘は、私も同感で、同意見です。イスラ ム教の高度な文明、ユダヤ人の信奉する旧約聖書、いづれも素晴らしいものがあります。しか し、戦争を起こすのはいつも一神教のうちのキリスト教。やむを得ず、他の二つが反撃する。

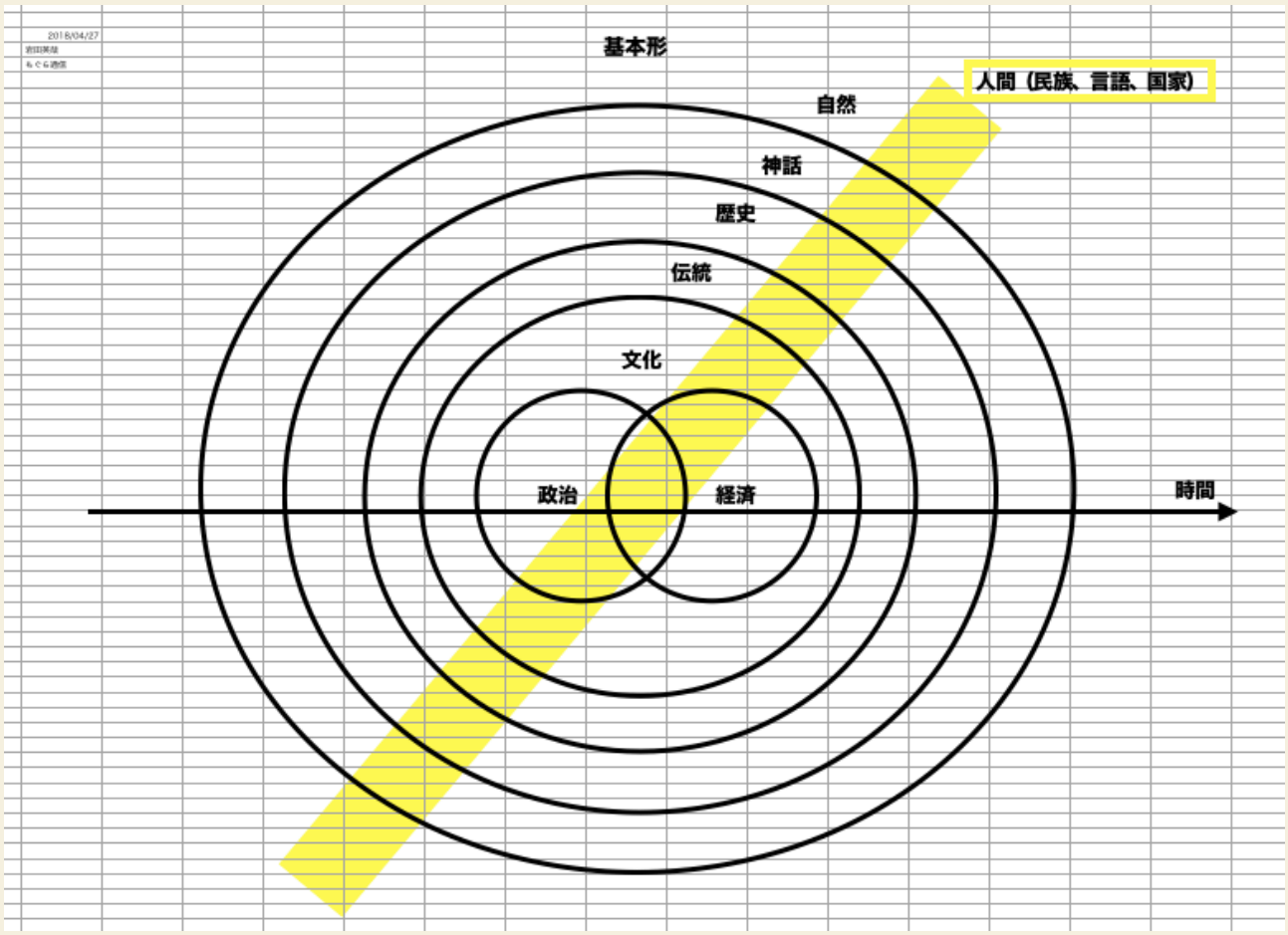
これをキリスト教のローマ法皇がみづからいふやうになつてやつと、世界は平和になるのではな いかと思ひます。(大体イエス・キリストがあんな華美豪奢な衣装を身にまとひ、冠を頭に置き、 錫杖を手にして説教をしただらうか?)ローマ法王と欧米の政治家が口にすべきは次の言葉です。
イスラムの皆さん、皆さんのおかげで近代ヨーロッパの文明が成立したのです、ありがたう、あ なたたちが古代ギリシャやローマ帝国から継承した文物と知識をアラブの言葉に学んで、ラテン 語に翻訳して、それまで貧しかつた私たちヨーロッパ人は近代といふ時代を作ることができたの ですと、正直に歴史的事実を口にして感謝の言葉を言へば良いものを、いはないし、いへないか ら、遂にNYに飛行機で突撃されたのが、欧州資本主義と民主主義の鬼子、アメリカの経験した 2001年9月11日です。

近代ヨーロッパの歴史が、このやうに、自らの歴史を、それ以前は暗黒の中世だといひ(私はド イツ文学の世界で中世の優れた叙事詩を読んで、実はさうではないことを知つてをります)、イ スラム文明を通さずに直接古代ギリシャ・ローマに接続して、これらの文明文化を(イスラムを 排して直接)継承してゐるかのごとき嘘の歴史の上に成り立たせたことを自分に事実だと思ひこ ませてゐること、この嘘、この歴史の捏造が、欧州白人種キリスト教徒の生み出した(広義の) 近代共産主義と、対有色人種に強要する偽善的要求の始まりであることは、手紙のどこかに書い た通りです。これを隠すために奴らの曰く、人種差別の禁止、人権の尊重、男女の平等、動物の 愛護、捕鯨の禁止、political correctness等々、これらは先づ、他の有色人種の文明に向けて要 求する前に、自

らに向けて要求すべき事項です。

いや、書き始めるとキリがありません。 」

（１）「A_政治と経済の内部から外部の自然まで」



ダウンロードは：https://www.scribd.com/document/392167695/政治と経済の内部から外部の自然まで

（２）「B_ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係」
この表は、ヒットラーがミュンヘン一揆（１９２３年１１月８日から９日）を起こした後に逮捕、投獄され、刑務所の中で筆を起こした自叙伝『Mein Kampf』（邦題『我が闘争』）のうちの最初の部分の記述から読み解ひて図解したものです。以下大事な点を箇条書きで説明します。ダウンロードのURLは：https://www.scribd.com/document/391967267/b-ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

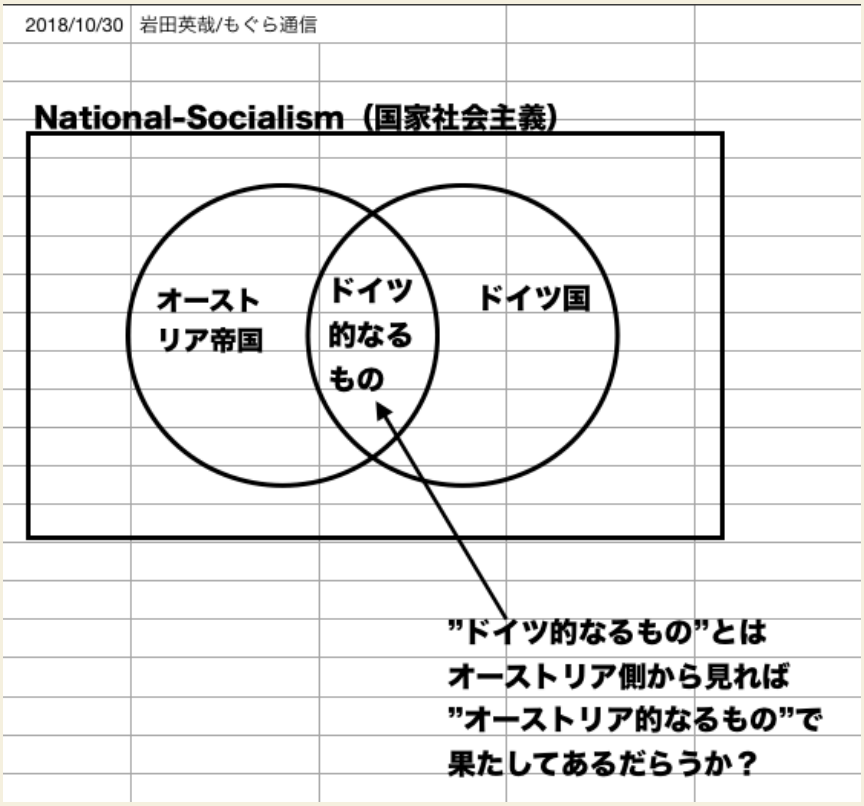
ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

2018/10/22
岩田英哉

ヒットラーの『Mein Kampf』（邦訳題『我が闘争』を読んで掲題のことを以下のマトリクスにまとめた。

	A	B	C	備考
0	国家1 State	国家2 State	国家3 State	
1	民主制	帝政	一党独裁制	一党独裁といふことに於いてNAZISと共産党（マルクス主義）は同じである。
2	ドイツ共和国	オーストリア帝国	ドイツ国	オーストリア＝ハンガリー帝国
3	民主主義による政治制度	ハプスブルク家による支配	ヒットラーのNationalism	ヒットラーは、反ハプスブルク家である。
4	ドイツ国民	オーストリア国民	ドイツ・オーストリア国民	: a people having a common origin, tradition, and language and capable of forming or actually constituting a nation-state
5	"ドイツ的なるもの"		Nationalism / National-Socialism	The diverse *nationalities* of the Austro-Hungarian Empire desired independence.（Webster Online）
6	Patriotism1 Nation	Patriotism2 Nation	NAZIS Nation	Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei（"NSDAP"）
7	(Nationalism)	(Nationalism)	NAZIS	

①ヒットラーはオーストリア人である。ドイツ人ではない。
②それにも拘らず、"ドイツ的なるもの"といふ言葉でドイツとオーストリアは此れを共有してゐる一つのまとまりだと考へてゐる。
③"ドイツ的なるもの"とは、ドイツ文化に他ならず、ドイツ文化とはドイツ語に他ならない。確かにオーストリアとドイツはドイツ語を共有するが、しかし其の上にたつた文化はそれぞれに異なる部分を持つてゐると思はれる。いつものベン図の集合論の図で示すと次のやうになる。



④ヒットラーのNationalismは、オーストリア帝国を統治してゐるハプスブルグ家に対する反ハプスブルグのnationalismである。オーストリア帝国に対する肯定的な積極的なnationalismではない。逆に否定的な消極的なnationalismである。肯定・否定を問はず、自分の属する国家に対するnationalismを垂直方向のnationalismと呼ぶ。これに対して、

⑤その代はりに、ヒットラーは水平方向のnationalismを、”ドイツ的なるもの”をオーストリア人である自分は共有してゐるとして、主張するのです。
⑥そして、このnationalismをnational-socialismと名付ける。即ち、ヒットラーのnationalismは水平方向の複数の国家（states)横断的なnationalismであり、これがnational-socialismである。
⑦上の「B_ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係」の示す通り、国家（state）とは垂直方向にまとまつて統治されてゐる国であり、それぞれA,Bの列（カラム）で示したやうに、ドイツ共和国、オーストリア帝国と呼ばれる国家（state）である。即ち、
⑧ヒットラーの抱いたnational-socialismといふ考へは、これら国家を横断して呼ぶ名前である以上、国家（state）の上位に社会（society）を置くといふ統治構造である以上、この論理はそのままマルクス主義と同じである。
⑨ヒットラーは、反共産主義（マルクス主義）を唱へながら、反ユダヤ教である主張を除き、実は全くマルクス主義と同じ世の中を構想してゐるといふことです。さうして、
⑩当然のことながら、国家（state）の上に位置する”XX的なるもの”の社会（society）を根拠にして、政党（Partei：パルタイ）を国家（state）の上位に置いて、このパルタイ以下の世の中の全ての組織と人間を絶対的に支配することをヒットラーは考へてゐるといふことになり、これはそのままマルクス主義の政党たる共産党の論理と全く同じである。即ち、
⑪NAZISは、反ユダヤ教を除いては、共産党と同じ一党独裁の独裁制を主張する、最初の此のミュンヘン一揆の前からヒットラーに構想された政党である。
⑫勿論、ヒットラーが書いてゐるやうに、国家（state）、国家（nation）、patriotism（愛国主義）、socialism（社会主義）といふ言葉は当時混乱して使用されてゐて、ヒットラーは此の現象に不快感を表してゐます。しかし、ヒットラーは自分は此のやうにこれらの言葉を使ふといつて上述の論理をいひ、自分の其の立場を水平横断的なnational-socialism（国家社会主義）であると明言してゐます
⑬Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei（”NSDAP”）といふNAZISといふ俗称に対する元の正式名称の意味は、以上のことを踏まへた上で解析すれば、

（a）Nationalsozialistisch：ナツィオナール・ゾツィアリスティッシュ：国家社会主義の
（b）Deutsch：ドイッチュ：ドイツの、ドイツ人の
（c）Arbeiterpartei：アルバイター・パルタイ：労働者党

といふ三つの要素からなつてゐるわけですが、(a)が上記の意味である以上、これはドイツ人が他国の上位に社会（society）を置き、労働者の政党である我が党が一党独裁の政党として君臨して、この社会（society）以下の国家（state）と国家（nation）といふ両方の列（カラム）構成要素を全て政党（パルタイ）が独裁的に支配するといふ意志を鮮明にした政党名であることが判ります。
⑭それでは、nationと呼ばれる国家は何か、stateといふ国家とは何処が違ふのかといへば、備考欄に赤字でWebster Onlineの定義を引用したやうに、nationとは「共通する起源、伝統および言語を有し、そして一つのnation-stateを形成しまたは現実に構成する能力を有するpeople（国民、民族）である」ものをnationといふのでありますから、nationとは国民であ

り民族のことです。とすると、これは、ヒットラーの考へてゐるnationをsociety（社会）またはsocialism（社会主義）に従属させてnational-society（国家社会）またはnational-socialism（国家社会主義）と複数国家（states）を水平横断的に命名することは此れに矛盾したことであつて、命名矛盾、言葉の組み合はせ矛盾であるといふことです。この矛盾を無矛盾であると時間の中では見える虚構をつくつて、民主主義的な手続きを利用して、一党独裁政党の党首になつたといふことです。言葉の眼で見るとさうなる。

⑮Nation-stateならば問題はない。何故なら上記⑭のWebsterの定義の通りでありますから、国民国家足り得るのです。Stateといふ国家は、peopleが政治的に組織した体（body）、即ちpeopleの集合した体（てい又はたい）であるといふことです。Webster Onlineから当該の定義を引用します：

「5

a: a politically organized body of people usually occupying a definite territory［明確に定義された領土を普通に占有する国民・民族（people）］especially : one that is sovereign［特に其の体（たい）が主権者・元首・君主・国王である体（たい）］

b: the political organization of such a body of people［そのやうな国民・民族の体（たい）である政治的な組織］

c: a government or politically organized society having a particular character［特殊な性格を有する政府または政治的にそ組織された社会（society）］」

さうすると以上のことから、

⑯次の概念連鎖が成り立つ。

（a）垂直方向の概念連鎖：state（people、nation, nationalism、patriotism）

（b）水平方向の概念連鎖：NAZIS（Partei、state、social-nationalism、patriotism）

この二つを眺めると、後者にあつては前者(a)の（state, nationalism、patriotism）の三つの言葉の垂直方向の関係に後者(b)の（Partei, social-nationalism）といふ水平方向の組み合はせが原因で意味に歪みが生じて（Partei, social-nationalism）が（state, nationalism、patriotism）といふ言葉の組み合はせの普通の意味をドイツ国民（people）が他の国家・国民とこれらの言葉の水平方向の共有することを絶対的に禁止する命令を発することが納得せられる。この場合、

⑰NAZIS（Partei、state、social-nationalism、nationalism、patriotism）のNAZISを共産党（die Kommunistische Partei：ディ・コミュニスティッシェ・パルタイ）と呼び換へても、反ユダヤ教といふ要素を除けば同じである。

⑱ヒットラーの文章を読むと、当時のオーストリア帝国の首都ウィーンには東隣のスラブの国々からスラブ人が入つて来て、そのことに不快感を覚えてゐる。ここまで読んだところでは其の具体的な軋轢の事象は書いてゐないので不明ですが、それは間違ひなく政治・経済・文化の領域に及んでゐた筈です。政治ならばオーストリア帝国とハンガリー帝国の政治的意見の相違、

経済ならば、恐らくはウィーンといふ首都へのスラブ人の流入といふことはスラブが貧しくウィーンが相対的に豊かだつた、即ち自国にゐるよりもオーストリアの首都に来た方が金が儲かるといふことであり、文化的にはヒットラーが嫌つたやうな言語の、従ひ習俗や風俗の相違による食い違ひが、両親を失つて田舎から都会に画家になることを目指して出て来た若いヒットラーの直面した首都に満ちてゐた混乱であつたのです。事実、このころの記述を読むと、ヒットラーは職はなく、今の言葉でいへばアルバイト（臨時雇ひの労働者）、ドイツ語ではHilfsarbeiter（ヒルフス・アルバイター）即ち単純反復作業補助員として一日契約の其の日暮らしをしてゐたと書いてゐます。勿論スラヴ人の流入によつて首都の労働者の、従ひヒットラーの賃金も自国民であるのに安くなり、それを受け入れて働くことに甘んじなければならなかつたのでありませう。ですから尚更ハプスブルク家を憎んだかも知れない。

以上が「ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係」表から読み取ることのできる事項です。勿論、文化はこの表の中ではAとBの列（カラム）の行５にあるわけですが、上述の通り、国家の上位にあるNAZISという一党独裁政党の社会（society）によつて絶対的に支配されるわけですから、当然のことながらトーマス・マンが批判したやうに隠語（ジャルゴン）が蔓延（はびこ）る隠微な社会（society）の在り方を上から下へと強制することになるでせう。私語が公共のstateと其の下のnationに無理やり強制的に通用させられるといふ事です。この場合の強制とは、私の東ドイツでの経験によつても、また此の表の意味を読み解いても、いづれにせよ、一党独裁政党の密告者でありスパイである者を全国に、あなたの身近に放つといふ恐怖政治のことです。

これを現実の日本に応用すれば、漢字を共有してゐるからとか、箸を共有してゐるとか、何々の文化を共有してゐるとか、その他部分的な共有を一方的に（他方である私たちの文化的な質の相違を考慮することなく）此のやうな反対側の論理性を欠いて、上の表の中の語彙を使つていひつのり、垂直方向の理路整然たる方向を否定して、これを社会（society）をキーワードにし根拠にして水平方向に横に倒して複数の国家（nation-state）を横断させて通用させようといふことを声高に主張する者は、当の問題の全体を明らかにしない限り、共産主義者であるといふことです。State＞nation＞societyをsociety＞state＞nationに転倒させてこれらの最上位にParei（パルタイ）を置き、Partei＞society＞state＞nationに転倒させること、これが言葉の目で見た、マルクス主義政党である共産党のいふ革命の意味なのです。
NAZISMも同じです。

この場合の識別指標は、So What?だから何だ！といふ問ひです。この問ひは、物事の全体を明らかにする問ひですから（それは何か？）、全体に名前をつけることができないのであれば、共産主義者であるといふ判定をして間違ひありません。この場合、私が共産主義者といふ心は、その当人が善意からであれ、その人の作る文の根底には同じ論理が無意識の中に働いてゐるといふこと、まだ当人も自覚がないが、ただ部分だけを肯定して共通項にして垂直方向に異なるstate＞nationの関係をsocietyをキーワードに又梃子にして、このstate＞nationの関係をnation＞stateの関係にしようといふ論理が働いてゐるといふことです。この好例が『哲学の問題１０１』（もぐら通信第８４号以降連載）のマルクス主義者である著者の、哲学の対象としてゐる各種主題を論ずる論じ方であるのです。

上の表のヒットラーの論理はファシズムの、全体主義の、共産主義の、globalismの識別指標です。地上・ネット上のメディアを問はず、また対面での発言を問はず、記事の真贋と筆者の真贋と発言者の真贋を判断するために活用ください。

（3）「C_ヒットラーから学ぶべき教訓」
以上のことから、ヒットラーから学ぶべき私たちの教訓は次のやうになります。表を掲げてからそのあとに各項につき説明します。：https://www.scribd.com/document/391967267/b-ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

ヒットラーから学ぶべき教訓

	教訓	具体例	対処法
1	マルクス主義者の使ふ言葉を安易に使つてはならない。	寛容（←LGBT）、ME-TOO	（1）言葉の意味：その言葉の意味を問ふこと。辞書を引くこと。文字にして書き、概念を定義してみること。自分の頭で考へること。さうすると必ず、マルクス主義者の偏頗な言葉の使ひ方と意味、その根底にある偏頗な理屈が明らかになる。 （2）私事と政事（政治）の混同：即ち、項番２の『教訓』のセルにある理屈が、これらの『具体例』にある混乱の原因である。即ち、私事と政事（政治）を意図的に混同し、混同させる、異なる範疇のものを味噌も糞も一緒にして混乱を起こさせるといふ手口である。 （3）質と量の混同：格好の例：人間一人の命は地球よりも思い。即ち私事は質の問題であり、地球は量の問題であるが、常にどのやうな場合でも、意図的に質と量といふ異なる範疇の言葉を一緒くたにして同じだといひ、差異を認めようとはしないのである。 （4）マルクス主義の思考欠陥：（5）対処法：上記（3）がマルクス主義の致命的な弱点であり、思考欠陥である。且つ、唯物論もまた
2	社会といふ言葉だけを言ひ、国や国家といふ言葉を使はぬ者は、知ってか知らずか、共産主義者である。社会を国家の上位概念としてゐる。社会の上に共産党があると考へてゐる。共産党でなければ、これに代はる絶対命令者を無意識にでも意識的にでも願つてゐる。結局、一神教のtopologyでものを考へてゐる。	私たちの日常生活にある左記の例のすべて	ネット言論空間で繰り返し繰り返し飽きることなく宣伝（プロパガンダ）する。その他ネットメディアを駆使して此の事実を流布させる。Prager_University（略称"Prager_U"）のやうな外国の反マルクス主義勢力と協力して、日本主導で世界的な統一戦線を組むこと。
3	外国人が日本国籍を取得したからといって、日本の最高権力者にしてはならない。ヒットラーはドイツ人ではなく、オーストリア人である。上記のマトリクスの（A・B、5）は全体主義による文化的侵略を表してゐる。	幸いにして日本の国に此の例はないが、しかし、国会議員に外国人であつて日本国籍取得者のゐることが現実的な具体例である。	外国人であつて日本国の国籍を取得したものは日本を代表する最高権力者になれぬことを日本の法律の中に明文化すること。

上の表の対処法を以下に引き写し、補足説明を加へます：

①言葉の意味
その言葉の意味を問ふこと。辞書を引くこと。文字にして書き、概念を定義してみること。自分の頭で考へること。さうすると必ず、マルクス主義者の偏頗な恣意的な言葉の使ひ方と意味、その根底にある概念を恣意的に転倒させたために歪んだ理屈が明らかになります。マルクス主義といふ言葉を、共産主義、globalismと置き換へても良いのは、後述する通りです。

②私事と政事（政治）の混同
項番２の「教訓」のセルにある理屈が、これらの「具体例」にある混乱の原因である。即ち、私事と政事（政治）を意図的に混同し、混同させる、異なる範疇のものを味噌も糞も一緒にして混乱を起こさせるといふ手口である。

③質と量の混同
格好の例：人間一人の命は地球よりも思い。即ち私事はあなたの人生の質の問題であり、地球の重さは量の問題であるが、常にどのやうな場合でも、意図的に質と量といふ異なる範疇の言葉を一緒くたにして同じだといひ、差異を認めようとはしないのである。前者の命は測定不可能、後者の重さは測定可能。前者は質、後者は量です。政治は量で人間を測る、文化は人間を質で考へる。即ちヒットラーのNazismもマルクス主義の共産党も、政治は人間を量で計算するとは云へ、これを一党独裁の元に陰に陽に暴力を使つて二つの範疇を混同させて、常に政治を文化の上位に置かせることを強ひるといふ事です。

④マルクス主義の思考欠陥
上記③がマルクス主義の致命的な弱点であり、思考欠陥である。且つ、唯物論もまたマルクスの、従ひマルクス主義の思考欠陥である。③質と量の混同は唯物論の結果である。

⑤対処法
（a）地上波と紙媒体のマスメディアは全く日本語の文字と、あれほど日本の学校教育で嫌々ながらでも学んだ英語を読む能力に欠け、従ひまたそれらの文字を読む能力を欠くので全く頼りにならず、マス（mass）が量なら、質（quality）の場所をネット言論空間で創造し、繰り返し繰り返し飽きることなく白い宣伝（ホワイト・プロパガンダ）をする。これは教育・啓蒙活動です。
（b）その他ネットメディアを駆使して上記図表の示す事実を流布させる。ネットは汎神論的存在論の世界である。
（c）Prager_University（略称”Prager_U”）のやうな教育・啓蒙機関である外国の反マルクス主義・反globalismの旗幟鮮明な勢力と協力して、世界的な統一戦線を組む。：Why Isn't Communism as Hated as Nazism?：https://www.youtube.com/watch?v=nUGkKKAogDs

上のURLの動画からとつた次の動画のショットを見ますと、共産主義が主だつた大規模な殺戮の数だけでもNAZISを遥かに超えてゐる。何故世界の人はNAZISよりも共産主義が大量虐殺したことをより少なく悪であると評価してゐるのかといふ理由を６つ挙げてゐます。以下動画冒頭での虐殺した人数：

（１）中国共産党：７０００万人
（２）ソヴィエト連邦：２０００万人
（３）ウクライナ：５００万人
（４）これにカンボジアの被虐殺数が国民の比率として３人に１人が殺されたとしていはれてゐる。

この動画で５分ほど話をしてゐる有識者の方の共産主義批判は、私の此の論考の論旨と結論に一致してゐます。

(d)『スイスのアルプス貫通世界最長トンネル開通式典の異様:大地母神崇拝の復活とキリスト教(父権宗教)の衰退』（もぐら通信第７４号、４３ページ以降）にてお伝へした通りに、『Stimme und Gegenstimme』（『賛成と反対』：シュティンメ・ウント・ゲーゲンシュティンメ）といふネット上の速報新聞を立ち上げて、「諸国民(または諸民族)は、賛成と反対に対する権利(賛成・反対をいふ権利)がある。」といふ看板の元に、国内外を問はずに国民からの事実情報の通報を全て受け付けて、それを速報で無料でネット配信する団体と仕組みを創設する。勿論情報は英語に翻訳して世界共有とする。

（e）『スイスのアルプス貫通世界最長トンネル開通式典の異様:大地母神崇拝の復 活とキリスト教(父権宗教)の衰退』（もぐら通信第７４号、４９ページ以降）にてお伝へした通りに、表現の自由の問題に関し、スイスが実施していゐるやうな、「藝術の自由」（”Kunstfreiheit”：クンスト・フライハイト）を騙（かた）つた乱脈な一個人に対する暴力的なメディアを悪用した執拗悪質な攻撃に対し一般国民からの通報制度（例へば：www.kla.tv/7949）を設けて、司法の場で裁く仕組みをつくること。例に挙げたwww.kla.tv/7949の自社案内の第一行の謳ひ文句は、「Klagemauer TV entlarvt Verderben bringende Medienlügen und Lügenmedien! 」（https://www.kla.tv/index.php?a=showaboutus）（拙訳：「嘆きの壁TV」は、腐敗を運んで来るメディアの嘘と嘘つきメディアの正体を暴く！）

日本人は去勢された人間たちの集まりになつたのか？日本人の造語能力の劣化甚し。フェイク・ニュースなどといふ英語由来のカタカナをつかつて得々としてゐるうちはどうしやうもない。Fake Newsと何かを問ひ、自分で其の概念を辞書を引き引き定義すべきです。そんなニュースは報道ではなく、何しろ国民の歩くべき事実の道を報じないのであるから、腐つてゐて、どうでもえい、苦（に）がい、かくして腐えい苦ニュースである。冗句もまた苦し。

⑥日本国家の最高権力者に外国籍にあつたものの就任禁止
外国人は勿論いふまでもが、外国人であつて日本国の国籍を取得したものは日本を代表する最高権力者になれぬことを日本の法律の中に明文化すること。私の疑問は次の二つ。ヨーロッパの歴史には他にも同じ例がある筈。あなたに考へてもらひたいのは次の歴史的事実です。

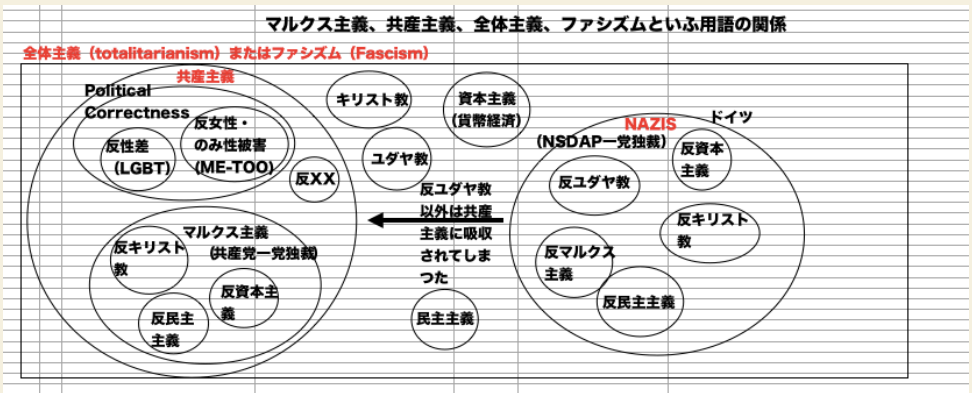
（a）何故、どうやつてナポレオンといふコルシカ島生まれの外国人が、フランス皇帝になることができたのか？
（b）何故、どうやつてヒットラーといふオーストリア人である外国人が、ドイツ共和国の一党独裁の総統になることができたのか？

⑦ファシズムの、全体主義の、共産主義の、globalismの国内での台頭を許さぬためにヴィザの発給を厳格にし、移民政策などは採用しないこと。第一次世界大戦後のドイツの巨額な賠償と経済の苦しさによる人心の不安定が、マルクス主義の浸透と相俟つて、極端な政策を主張するヒットラーを表舞台に登場させたと私は理解します。日本の今のデフレが継続すれば同じ条件が整ふ可能性が大いにあり得る。

しかし人間の集団を量といふ政治の視点でみたら、このやうな政治・経済ともに不安定な時には「大衆」は命令されたがつてゐるものです。それも絶対的な命令であればあるほど、盲目的に従ふことが素晴らしいことだと勘違ひをする。あなたが文化の領域に留まるならば、「大衆」の同調圧力に屈してはなりません。KYなどといふ「空気を読ん」ではならないといふことです。安部公房の読者ならば、安部公房全集全３０巻を読むに然（し）くはない、といふことです。安部公房の師匠石川淳をもまた読むべし。あるひは永井荷風を読むべし。谷崎潤一郎を読むべし。文学は閑不急の文字である。さてそれでどうなるか？政治の領域では一庶民として身を処し、判断をすることだ私は思ふが、あなたは如何。

これが、私が『我が闘争』を読み、上記の図解をして知つた「ヒットラーに学ぶ教訓」です。

（４）「D_マルクス主義、共産主義、全体主義、ファシズムといふ用語の関係」



Political Correctness：これはPolitical Correct-ism（政治的修正主義）である。即ちIdeologie（イデオロギー）である。イデオロギーであれば、マルクス主義の延長にある共産主義である。

（1）狭義の共産主義の定義：マルクス主義による共産党の一党独裁による共産主義のことである。
（2）広義の共産主義：マルクス主義と同じ否定論理（反XX）のみに基づくイデオロギー（自分たちの主義・主張を絶対正義とする一神教topology）の及ぶ限りのものすべてが広義の共産主義である。globalismと呼ばれる-ismは、広義の共産主義である。これが、政治的な共産主義（例：EU）、経済的な共産主義（例：金融資本主義）、文化的な共産主義（例：political correctness or political correctism（政治的な修正主義）である。

特に文化的な共産主義の代表であるpolitical correctnessが「政治的な修正主義」と訳すことができるやうに、共産主義の悪は、文化の上位に政治を置いて、後者が前者を絶対的に支配することにある。別途『政治と経済の内部から外部の自然まで』図と併せて見れば、此の政治的修正主義が、文化を破壊したら、あとは連鎖的に伝統、歴史、神話、自然を破壊する連鎖を次々と生み出すこと

この図のダウンロードのURLは：https://www.scribd.com/document/391967267/b-ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

上掲図と併せて既述の「１０.２　第二次世界大戦を三つの戦域に分ける」の節を参照ください。政治・経済・文化視点から見て、「D_マルクス主義、共産主義、全体主義、ファシズムといふ用語の関係」図の示すところが、ヨーロッパ戦域のみならず、地球規模での戦争であつた第二次世界大戦といふ視点でみると、この図の構成要素の多少の違ひはあれ、三つの戦域でこのやうなことが起きたといふことが理解されるでせう。そのうち特にヨーロッパ戦域に焦点を当てると上述のヒットラーの頭の中の如しです。

そして、そのあとの太平洋戦域とアジア戦域についての理解を深め、最後にこれらの戦域の関係を統合的に理解する。さうして、同時にこれを奇貨として、世界的な戦争の場合のモデルを製作する。このモデルが単数か複数になるかは製作を構想する必要があります。やはりここでも３といふ数字を挙げてをきませう［註３］。これは文明間のコミュニケーション・モデルといふことになります。即ち一神教topologyの文明圏と汎神論的存在論のtopologyの文明圏のコミュニケーションは一体どのやうに可能であるか？といふ問ひに答へることになります。

［註３］
「『カンガルー・ノート』論」（もぐら通信第１号）を参照ください。３といふ数字を詳述しました。

１０.２.１　２０世紀後半から２１世紀現在に至るヨーロッパの思想界の混乱

天才の死と云ふものは時代の終焉、即ち時代の転換点を意味してゐます。

美空ひばりと手塚治虫と云ふ二人の天才の死によつて、昭和の時代の終焉を象徴したのが、平成元年、西暦１９８９年でした。この同じ年に天安門事件（６月４日）とベルリンの壁（１１月９日）が崩壊し、米ソの冷戦が終はりましたが、かうして今平成の最後に立つて３０年を振り返れば、同時に同じ年に天安門事件によつて新たな第二次冷戦が１１月９日以前に既に始まつてゐたのです。

しかし、アメリカもヨーロッパも日本も、中国共産党の支配する此の国に莫大な投資をして来てゐて、このことに鈍感でした。やつと今、アメリカの大統領がトランプと云ふ人間に変はつて、アメリカと中国共産党の冷戦が始まつたところです。政治の領域の一次分類は敵か味方かであることを銘記して下さい。そして、経済の一次分類は損か得かです。文化の本質は言葉を正しく使ふことです。平成時代の３０年間は、日本人も世界中の人間も、経済を優先させて残りの二つの領域の一次分類を粗末にして来た３０年であつた。言葉は乱れ、政治と文化は危機に陥る。これが此の３０年であつたのではないでせうか。

ドイツ語の文学の天才トーマス・マンが没したのが１９５５年。この作家は自分の願ふ使命について文章に書いて、それは若い２０歳の頃の友人宛の手紙にも書いて伝へてゐるところですし、また後年のエッセイにも書いてをりますが、自分の作家としての人生について、前者では自分が時代との関係で「象徴的な存在」になることを願ひ、後者では１９世紀の幕を閉ぢるのが私の使命だと書いてゐます。トーマス・マンは天才ですから、即ち、１９５５年にやつと１９世紀が終焉したのです。これ以降に（既に１９世紀にあつて隠れてゐた）２０世紀が現実的な現象として顕著に表に出て来たと云ふことです。現実の数字で数へる時間単位の現実の歴史（即ち歴史年表）と人間の精神の歴史の間には遅延が生まれる。天才の唱へたことは大体７０年を経て、私たちの日常に降りて来て当たり前のものになります。トーマス・マンの没年から数へて７０年後は２０２５年。この年にまた精神の世界での歴史的な大地震が、従ひ大津波が人間を襲ふと思つてゐていいのです。勿論これは目処（めど）であり、数年の誤差を計算に入れながら現象の世界を観察することがあなたの大事です。ソヴィエト共産党による建国は１９２２年、７０年後は１９９２年。中国共産党の建国は１９４９年、７０年後は２０１９年、来年です。前者の共産党は７０年といふ周期通りに滅んだ。後者の共産党も同様になるものと思はれる。勿論これは人間の自然の周期であるのみならず、政治力学にもよります。

平成から次の年号に掛けて、今年の残りの時間から来年一年間に掛けて、『デンドロカカリヤ』のコモン君の認識によれば「一年前の体験とそっくり、意識の断層、高い壁がそそり立」ち、あなたはデンドロカカリヤと云ふ植物に変形する。安部公房の使ふ汎神論的存在論の記号を用ひれば、あなたは《デンドロカカリヤ》に変形する。変形と云ふ言葉に馴染みがなければ、あなたは《デンドロカカリヤ》に成る。

「一年前」とはあなたが今現に体験してゐる現実のことです。ですから、「既にして」（超越論的時間）あなたは「意識の断層」にゐるにも拘らず、地面はしつかりと牢固であると勘違いしてゐる、錯覚をしてゐる。「既にして」（超越論的時間）「一年後」は起きてしまつてゐると云ふのに。精神の歴史は「一年後」に歴史年表の上に現実となつて現れる。これを報道するのが安部公房の「明日の新聞」です。しかし、生きてゐる人間は其の全体を、今超越論的に知ることがなければ、実際に事件が起きてゐても其れが何かを知ることができない、従ひ言葉で言ふ事ができない。そして、その不可解なものが、あなたの現実となり、あなたの苦しみの原因となる。全ては原因であり結果である。

ここで、世界に関する二面一体、二態一様の次の超越論（汎神論的存在論）の原理を再度思ひ出して下さい。

（１）世界は差異である。差異とは時間にあつては遅延であり、空間にあつては隙間（非連続量）または歪み（連続量）です。
（２）価値は等価で遍在する。

これが、私たちの縄文時代以来変はらぬnetwork topology（ネットワーク・トポロジー）の原理、即ちDeep Japanの言挙げせぬ動態的な、宇宙の生成原理です。

言葉の眼で世界を眺めると、自然が価値の等価であることを求めてゐるので唯一絶対神Godによる絶対命令の一神教のtopologyではもはや耐え切れず、２０世紀後半から２１世紀の今に至るまでの間に、政治、経済、文化の領域でヨーロッパの思想界が混乱してゐると云ふことなのです。さうしてカトリック教会といふ組織は現に、教会組織での僧侶による少年への男色行為やアイルランドの修道院経営の福祉施設での幼児虐待による人殺しが周知されるところとなつて、その威勢は衰退してゐる。おまけにキリスト教徒を弾圧し虐待してゐる中国共産党と近時手を結ぶとは狂気の沙汰である。

政治と経済の領域にあつてはEUの創設が共産主義。文化にあつては性（sex）と性（gender）を巡つて近時日本にも騒擾を起こしてゐるやうに、さうしてこれはキリスト教の性の禁圧の歴史が原因です、日本語には性（gender）はありませんから日本には全く無関係な風潮なわけですが、これが何が原因かといふと、LGBTなどと云ふ記号化されて具体的な性（sex）を忘れた無機的な記号の混同が原因で起きてゐるといふことなのです。

生殖器視点の名前である性（sex）と文法学的な言語論理の性（gender）の混同が起きてゐる。キリスト教を否定したマルクス主義に原因する唯物論のために、体の性（sex）と文法学的な言語論理の性（gender）の違ひが識別できず、従ひ区別ができない。私たちの日本語には文法的な性（gender）はなく、また従つて性といへばsexの意味ですから、現実と虚構の論理を混同することはありません。

しかし、今の欧米白人種キリスト教徒は、現実と虚構の識別と区別ができない。現実と仮想現実の識別・区別ができない。と云ふ酷（ひど）い状態にヨーロッパがなつてゐる。いふまでもなく、政治、経済、文化の領域で他にもまだまだ、同じ原因による同質の混乱を挙げる事ができるでせう。

安部公房の『方舟さくら丸』（１９８４年）に拠つて２０世紀の後半から２１世紀の今に至るまでの文化と文明に関する特徴を『哲学の問題１０１（８）：寛容』（もぐら通信第９１号）の「4。安部公房の挙げた現代の3つの特徴」の章より引用して再掲します。（　）の中の言葉は私による短い解説です。：

（１）シミュレーションゲーム(現実と仮想現実の混同)
（２）現実と仮想現実の関係に存在する記号の混同（実は、言葉の意味を考へぬ無知・無能）
（３）閉所・トーチカ願望（他人攻撃願望：排除型・クルクルパー論理の外部否定型の理屈［註４］）

［註４］
『哲学の問題１０１（７）：自由』（もぐら通信第９０号）より「クルクルパー論理学」別名馬糞論理学を引用します：

20180908
岩田英哉
もぐら通信

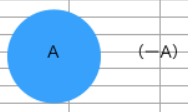
クルクルパー３否定型（否定の3タイプ）

これら３つの型の共通の思考欠陥は、全体が欠落してゐるといふことである。

１。排除（exclusion）型

Aについてそもそも考へることがない。Aを、否定するのではなく、Aについて考へることなく単に排除する根拠はこの排除といふあり方から言つて、論理でなければ感情的な理由であるといふ事になる。従ひ、論理性はない。何故なら全体がない（欠いてゐる）からである。
この型は、「３。それ自体絶対否定」型（クルクルパー・内部否定型）の丁度逆の型である。
Aではない、即ち「—A」を肯定しない（肯定する言葉がない）。Aではないといふだけの理由（排除の理由）で、—Aを否定する。
もつと卑属にわかりやすく、記憶しやすい名前でいへば、クルクルパー・外部否定型と呼ぶことができる。何故クルクルパーかといへば、これでは答へが出ないからである。またこれを、クルクルパー１型と呼ぶ事にします。

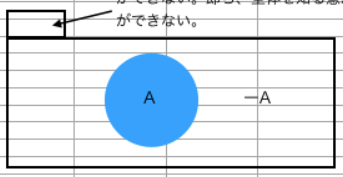
２。それ自体絶対否定（absolute negation of itself）型



—Aについてそもそも考へてゐない。これが（—A）の意味である。 Aだけを徹底的に否定する。A以外は眼中にない。否定の根拠はこの否定の仕方から言つて、ない。従ひ、感情的な理由であるといふ事になる。従ひ、論理性はない。何故なら全体がない（欠いてゐる）からである。
この型は、「１。排除」型（クルクルパー・外部否定型）の丁度逆の型である。
もつと卑属にわかりやすく、記憶しやすい名前でいへば、クルクルパー・内部否定型と呼ぶことができる。何故クルクルパーかといへば、これでは答へが出ないからである。またこれをクルクルパー２型と呼ぶ事にします。

３。それ以外否定（negation）型

この全体の名前はなんといふのか？この名前を自分で決めることである。しかし、優柔不断で決めることができない。即ち、全体を知る意志がないので、常にAまたは—Aといふ悪しき二項選択しか考へることができない。



Aについて考へて、Aを理解してゐる。否定は肯定がなければ成り立たない。即ち、Aと—Aは等価である。さうであれば均衡（バランス）が生まれるし、そもそも在るので、全体が生まれてゐる。これが本来の普通の意味の、論理学上の否定といふ意味です。答へが出ない場合には、私はこの型を「悪しき二項分類」と呼んでゐます。これは他の２型と同様に全体を欠いてゐるので、クルクルパー３型と名付ける事にします。
この「２。それ以外否定型（クルクルパー・二項分類型）」をもう少し敷衍すれば、正しい論理学上の集合論（ベン図）で思考論理の場合を説明して説明することができるわけですが、ここでは説明を省略します。『言語とは何か』（もぐら通信第３９号）にて説明をしましたので、これをご覧ください。あるいは『言語とは何かⅡ言語起源論』（もぐら通信第７７号）も併せて参考になさると言語の本質を理解することができるでせう。

ダウンロードは次のURLへ：https://www.scribd.com/document/388947963/クルクルパ-ー３否定型-否定の3タイプ-b

さて、『言葉の眼（１２）：スイスのアルプス貫通世界最長トンネル開通式典の異様 ~大地母神崇拝の復活とキリスト教(父権宗教)の衰退~ 』（もぐら通信第７４号）より引用しますので、ヨーロッパの思想界の混乱を再度思ひ出して下さい。右か左かとか、右翼左翼の区別はもはやトーマス・マンの没した１９５５年で役に立たなくなつてゐたものを、次に１９８９年のベルリンの壁の崩壊で此の区分の役立たぬことに遅くとも気づくべきところを、やつと２１世紀の２０１８年に米中の間で第二次冷戦が始まつて、人間は此れに気づいた。日本人の「大衆」（mass：マス）を除いては。日本人とは地球上のすべての猿の先祖なのであらう。マス・メディアの報道を見ると、日本人は猿だといつてゐるやうに見える。上野動物園の猿たちが嗤ふだらう。しかし言葉の常で、さういつてゐる恐らくはマス・メディアが猿に違ひない。猿にジャーナリストはゐない。何故なら猿は、人間ではなく動物であるが故に、嘘をつかないから。とすると、嘘をつく猿といふのがジャーナリストといふ昨今の異常繁殖してゐる猿なのであらう。

「1 ヴァルター・ベンヤミン:共産主義、globalism、フランクフルト学派(https://ja.wikipedia.org/wiki/ヴァルター・ ベンヤミン;https://en.wikipedia.org/wiki/Walter_Benjamin)
2 レオ・シュトラウス:超越論、反マルクス主義、反ナチズム(https://ja.wikipedia.org/wiki/レオ・シュトラウス; https://en.wikipedia.org/wiki/Leo_Strauss)
3 ユルゲン・ハーバーマース:共産主義、globalism、フランクフルト学派(https://ja.wikipedia.org/wiki/ユルゲン・ ハーバーマス;https://en.wikipedia.org/wiki/Jürgen_Habermas#Habermas_versus_postmodernists。 https://plato.stanford.edu/entries/habermas/。https://www.britannica.com/biography/Jurgen-Habermas)
4 ジャック・デリダ:超越論(https://ja.wikipedia.org/wiki/ジャック・デリダ。https://en.wikipedia.org/wiki/ Jacques_Derrida)
5 ハンナ・アーレント:反ナチズム、反全体主義(もしアーレントが全体主義にマルクス主義と国際金融資本の globalismを含めたのであれば、これらにも反対したことになる;https://ja.wikipedia.org/wiki/ハンナ・アーレント; https://en.wikipedia.org/wiki/Hannah_Arendt)
6 スーザン・ブックーモルス(スーザン・バック=モース):反マルクス主義、反globalism、反フランクフルト学派; https://ja.wikipedia.org/wiki/スーザン・バック=モース;https://en.wikipedia.org/wiki/Susan_Buck-Morss)
7 ジオルジオ・アガンベン:超越論(https://ja.wikipedia.org/wiki/ジョルジョ・アガンベン;https:// en.wikipedia.org/wiki/Giorgio_Agamben;http://1000ya.isis.ne.jp/1324.html)
8 ジェーヌ・グズマン:反共産主義(https://en.wikipedia.org/wiki/Jaime_Guzmán#Political_thought;https:// en.wikipedia.org/wiki/Jorge_Alessandri)
9 アントーニオ・ネグリ:共産主義。Globalism(https://ja.wikipedia.org/wiki/アントニオ・ネグリ;https:// en.wikipedia.org/wiki/Antonio_Negri)
10 サルヴォージュ・ツィツェック:共産主義、Globalism(https://ja.wikipedia.org/wiki/スラヴォイ・ジジェク; https://en.wikipedia.org/wiki/Slavoj_Žižek)
11 アヴィタール・ロネル:超越論(https://en.wikipedia.org/wiki/Avital_Ronell)

（略）

以上のやうに見てまいりますと、今のヨーロッパの政治と宗教と思想の世界は次のやうなマトリ クスになつてをり、このセルのいづれか又はどれをも此の世界のヨーロッパの人間たちは、言葉は悪いが、このチェスか将棋か碁盤の目の上かで、右往左往してゐることになります。(ヨーロッパの知的劣化については最後に述べます。)これを見ても、もはや日本語でいふ戦後70年の右翼 左翼といふ幼稚な言葉遊びを赦して来た寛大なる日本語の言論空間は「既にして」「いつの間にか」 (超越論的時間)「どこからともなく」(超越論的空間）日本の外部で消滅しー現実はいつも今 遅延して現れます、時間も空間も差異であり、従ひ世界は差異だからですー、フランス革命の政治構造は崩壊してゐることが、従ひ自由・平等・博愛といふ近代民主主義と資本主義のglobalismの 観念も崩壊してゐることが、ヨーロッパの臍であるスイスの政治と宗教と思想の様子をもとに考 察しますと、よく解ります。言葉の眼で観た日本

の政治と宗教と思想の様子をもとに考 察しますと、よく解ります。言葉の眼で観た日本の今日の混迷の外部が、これです。次の図表1を ご覧ください。ダウンロードのURLは:https://ja.scribd.com/document/369971714/キリスト教-共産主義-Globalism-超越論の関係

2018/1/2. 24
岩田英雄/もぐら通信

言語の再帰性の視点から見た：

キリスト教＊共産主義＊globalism＊ナチズム＊超越論の関係

キリスト教と言語の再帰性

	キリスト教	反キリスト教	非キリスト教	哲学１	哲学２
言語の再帰性の絶対的肯定	ー	悪魔主義	超越論	汎神論	汎神論的存在論
言語の再帰性の絶対的否定	キリスト教	共産主義	カルト宗教	唯物論	？

キリスト教と政治・哲学思想（A）

	キリスト教	反キリスト教	非キリスト教	反共産主義	神話学
ナチズム	○	○	○	○	古代のゲルマン神話の神々の復活
共産主義	ー	○	○	ー	
Globalism	○	○	○	ー	
超越論	ー	○	○	○	

ユダヤ教と政治・哲学思想（B）

	ユダヤ教	反ユダヤ教	非ユダヤ教	反共産主義	神話学
ナチズム	ー	○	○	○	古代のゲルマン神話の神々の復活
共産主義	ー	○	○	ー	
Globalism	○	○	○	ー	
超越論	ー	○	○	○	
キリスト教	ー	○	○	○	

上記２つの表（A）（B）の相違のあるセルには黄色で着色してある。また、このマトリクスの列・行の項目同士の関係は、次の通りである。

反ユダヤ教（ナチズム、キリスト教）

面白いことは、政治的な理由からであるにせよ、ナチズムが（キリスト教、反キリスト教）で○となることである。

ナチズム［（反キリスト教、非キリスト教、反共産主義）、キリスト教）］
キリスト教（反ユダヤ教、非ユダヤ教、反共産主義）
超越論［（反キリスト教、非キリスト教、反共産主義）、（反ユダヤ教、非ユダヤ教、反共産主義）］

さて、以上既述のところに従ひ、また此れに基づいて、第二次世界大戦を惹き起こしたヒットラーの著した『Mein Kampf（マイン・カンプ』（邦題『我が闘争』）を読んでみて、この人間の頭のなかが一体どうなつてゐるのかを、ヒットラー本人のドイツ語の言葉から読み解いたところを此の文脈で図解して説明します。

言語原理に基づく此の同じ大きな変化、即ち時代の転換について、このヨーロッパ地域で何がどのやうに起こつたかを、ヒットラーに例をとつて考察します。

１０.３　ヒットラーの頭の中を図解する

最初に図を掲げてから説明をします。ダウンロードのURLは：https://www.scribd.com/document/391967267/b-ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

ヒットラーの『Mein Kampf』（邦訳題『我が闘争』を読んで掲題のことを以下のマトリクスにまとめた。

	A	B	C	備考
0	国家１ State	国家２ State	国家３ State	
1	民主制	帝政	一党独裁制	一党独裁といふことに於いてNAZISと共産党（マルクス主義）は同じである。
2	ドイツ共和国	オーストリア帝国	ドイツ国	オーストリア＝ハンガリー帝国
3	民主主義による政治制度	ハプスブルク家による支配	ヒットラーのNationalism	ヒットラーは、反ハプスブルク家である。
4	ドイツ国民	オーストリア国民	ドイツ・オーストリア国民	~~: a people having a common origin, tradition, and language and capable of forming or actually constituting a nation-state~~ The diverse *nationalities* of the Austro-Hungarian Empire desired independence.（Webster Online）
5	"ドイツ的なるもの"		Nationalism / National-Socialism	
6	Patriotism1 Nation	Patriotism2 Nation	NAZIS Nation	Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei（"NSDAP"）
7	(Nationalism)	(Nationalism)	NAZIS	

何故この図を示すかと云ふ目的は、歴史を解釈し理解することは一筋縄では行かないと云ふことを知つてもらひたいからです。結局は、政治・経済・文化の三つの領域を横断し往来しながら、全体としての均衡（バランス）をとりながら歴史を理解すると云ふことです。歴史の一事件に一つだけの原因は、ない。何故ならば、この図を描きならが私の知つたことは、歴史とは多層的な歴史であると云ふこと、歴史は複雑であり、多層的に重畳的に層をなし、互いに重なりあつてゐて、一元的な歴史の理解は間違ひであると云ふことです。歴史は目に見えないが、しかし地球の地層と同じく、プレートが重層して、時間の中を絶えず動いてをり、様々な力の関係の中に浮遊しながら動いてゐると云ふことです。

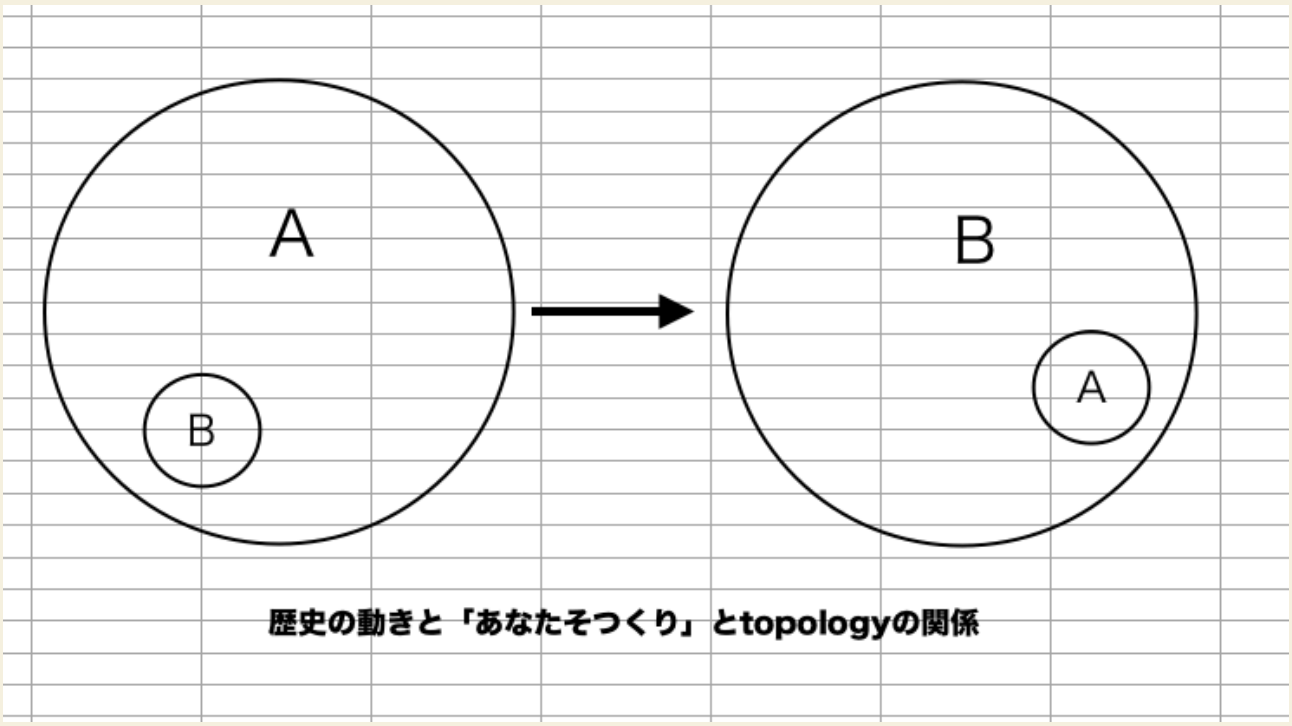
世界は差異であり、価値は等価で遍在するのですから、世界の底は抜けてゐるのです。底の抜けた無の上に、絶えず仮の約束事を決めて、それを破つたり守つたりして、人間は生きてゐる。

そして、歴史的な事象、即ち時間の中に事件としての現象が現れた場合には、それは既に原因としてあることの、遅延による現れであるといふこと、結果は常に遅延して現れるといふこと、また何かの原因だと見えることが、実は契機に過ぎず、原因はまた別に複数あるのだと考へてみることが大切です。これが、一元的にまた一意的な独断に落ちずに、均衡（バランス）よく全体を俯瞰するためのものの考へ方です。安部公房は、複眼の思考といひました。

即ち、ヘーゲルは間違つてゐた。従ひマルクスも間違つてゐた。歴史に法則はない。地震学者に地震の予知が不可能であるのと同様です。私たちは未来に何が起きるかを知ることがで

きない。『第四間氷期』（１９５８年）の世界です。この小説の結末があのやうであるのは、安部公房といふ作者が超越論で作品を書いてゐるからです。しかしもし法則があるとしたら、そして法則である以上は、言語の観点から見て時間を捨象して、言語原理（logos：ロゴス）の一形態であるtopologyで考へる（数学の位相幾何学）、または言語原理のもう一つの形態である汎神論的存在論で考へる（哲学の存在論、即ち超越論）、あるいは言語機能論で考へる（文法学・論理学・修辞学）、これが一番分かり易いと私は思ふ。

言語の観点から歴史が時代から時代へとどのやうに内部と外部を自然に等価交換するか、そして等価交換によつてどのやうに次の時代の新しい余剰即ち富を産み出し、両方の其々相反する時代の位相の隙間にあつて転換点を迎へるかを再度『安部公房の札幌文学批判』（もぐら通信第６２号）より引用しますので、確認をしてをきたい。



歴史の動きと「あなたそつくり」とtopologyの関係：もぐら通信第６２号：『安部公房の北海道文学への批判』より引用して上図の説明とします：

「特殊性の中にほうがんされない普遍性はない。同時に、普遍性につらぬかれない特殊は存在しない」とは、内部と外部を交換し、その境界域の両義性に身を没して自己を生かすtopologyの考へ方です。これは、単なる言葉の意味と位相幾何学的な問題だけなのではなく、歴史が其のやうに展開し、人間に働きかけるものだからです。歴史の根本的な変化は、言語（logos）の観点からみると、いつも次のやうに動きます。安部公房は当然このロゴスの働きを知つてゐたのです。宇宙は単純にできてゐる。小学生の安部公房の知つてゐた「奉天の窓」です。Aをあなただと思つて見ませう。すると、→は、次の次元へのあなたの失踪を意味するといふことになります。Bをあなただと思つてみませう、「あなたそつくり」の、しかし、異次元での、また別の人生がある。といふことになります。あなたは何処にゐるのか？

さて、ミュンヘン一揆の後刑務所に入つて起稿した『我が闘争』に書いてあるヒットラーの頭の中の構図の話です。再掲しますのでこの図をご覧ください。

ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

ヒットラーの『Mein Kampf』（邦訳題『我が闘争』を読んで掲題のことを以下のマトリクスにまとめた。

	A	B	C	備考
0	国家1 State	国家2 State	国家3 State	
1	民主制	帝政	一党独裁制	一党独裁といふことに於いてNAZISと共産党（マルクス主義）は同じである。
2	ドイツ共和国	オーストリア帝国	ドイツ国	オーストリア＝ハンガリー帝国
3	民主主義による政治制度	ハプスブルク家による支配	ヒットラーのNationalism	ヒットラーは、反ハプスブルク家である。
4	ドイツ国民	オーストリア国民	ドイツ・オーストリア国民	: a people having a common origin, tradition, and language and capable of forming or actually constituting a nation-state
5	"ドイツ的なるもの"		Nationalism / National-Socialism	The diverse *nationalities* of the Austro-Hungarian Empire desired independence.（Webster Online）
6	Patriotism1 Nation	Patriotism2 Nation	NAZIS Nation	Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei（"NSDAP"）
7	(Nationalism)	(Nationalism)	NAZIS	

ダウンロードは：：https://www.scribd.com/document/391967267/b-ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係

以下、この表からわかることを箇条書きに列挙します。

①Political Correctness
これはPolitical Correct-ism（政治的修正主義）である。即ちIdeologie（イデオロギー）です。イデオロギーであれば、マルクス主義の延長にある共産主義であり、globalismです。

②共産主義の定義
ここで共産主義の定義をしてをきませう：

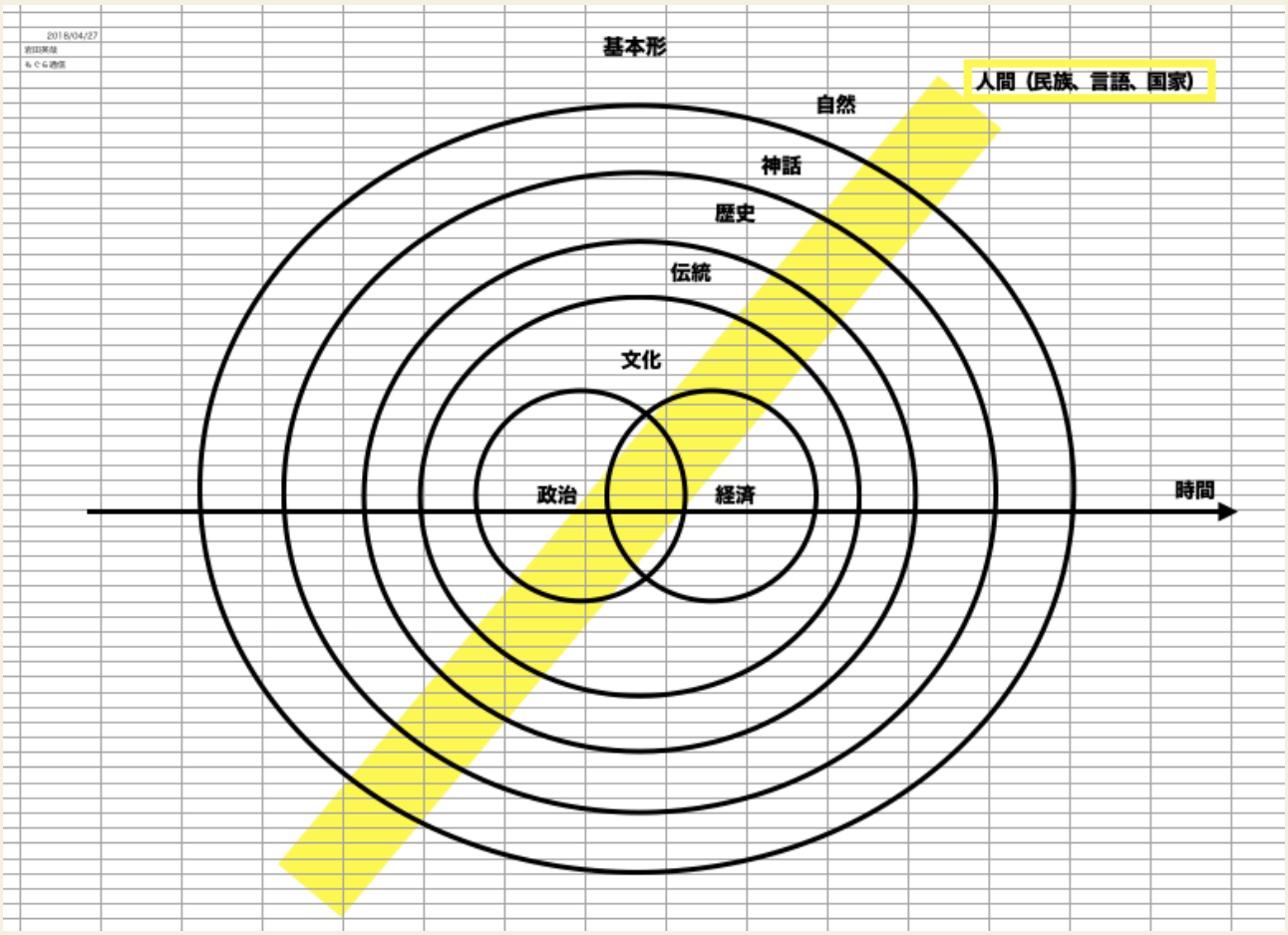
（１）狭義の共産主義の定義
狭義の共産主義とは、マルクス主義による共産党の一党独裁による政治のことである。

（２）広義の共産主義
広義の共産主義とは、マルクス主義と同じ否定和の論理（反XX）のみに基づくイデオロギー（自分たちの主義・主張を絶対正義とする一神教topology）の及ぶ限りのものすべての政治的意見や主張が広義の共産主義である。

私はこれをクルクルパー論理学と呼んで、三つの型に分類しました。上記［註４］を参照ください。

③Globalismと呼ばれる-ismは、広義の共産主義である。これが、（経済の統合が名目であらうと実現したら実際には）政治的な共産主義（例：EU）、経済的な共産主義（例：金融資本主義）、文化的な共産主義（例：political correctness or political correct-ism（政治的な修正主義）、LGBT、#ME-TOO）といふ別名で登場してゐるマルクス主義の姿を変へた共産主義である。

特に文化的な共産主義の代表であるpolitical correctnessが「政治的な修正主義」と訳すことができるやうに、これはpolitical correct-ismです。共産主義の悪は、文化の上位に政治を置いて、後者が前者を絶対的に支配することにあります。上掲「B_ヒットラーの頭の中の国家と文化と全体主義の関係」に用語の整理をした通りです。別途「政治と経済の内部から外部の自然まで」図と併せて見れば、此の政治的修正主義が、文化を破壊したら、あとは連鎖的に伝統、歴史、神話、自然を破壊する連鎖を次々と生み出すことがお判りでせう。



さて以上の考察を踏まへた上で、第二次世界大戦で太平洋戦域とアジア戦域を抱へて戦つた日本の昭和１７年９月および１０月に文藝誌『文學界』に掲載された当時の有識者の座談について批評します。これで、明治維新以来の日本近代の１５０年を、先の戦争終結後の７０有余年の幕を閉ぢて、２０世紀の文明間戦争の血で血を洗ふ劇を終はりにしたい。さうして、まだ隠れてゐて眼に見えない次の１００年と２００年のシナリオ（scinario）を構想したい。

勿論、私は『１９８４』ならぬ『２０８４』を書くつもりはないが、しかしやはり後者を念頭に置いて最悪の場合を思ひ描くことに努めたい。何故なら、シナリオとは最善の場合と最悪の場合の両極端を思ひ描くことだからです。私はこれを『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』といふゲーテの長編小説で学びました。ヴィルヘルム・マイスターといふ青年は演劇の道を求める演劇青年であるのです。文化の領域でシナリオを書くことを政治と経済の領

域では戦略を立てるといつてゐる。同じ概念が別の領域では別の名前で呼ばれる。言語機能論で考へるといふ事が大事です。安部公房がさうしたやうに。安部公房２２歳の『詩人』といふ詩の「小さな庭」（詩集『没我の地平』全集第１巻、１５６ページ）は生前最後の小説『カンガルー・ノート』（１９９１年）第６章と第７章の満願駐車場である。

１０.４　座談会『近代の超克』（文芸誌『文学界』（１９４２年（昭和１７年）９月及び１０月号））を読む

日本の国と日本人にとつて明治維新以来の１５０年といふ近代と呼ばれる時代は一体何であつたのかを、先の戦争中の文化の領域の専門家たちの座談をまとめた『近代の超克』といふ本を読んで、この問ひに、２１世紀の西暦２０１８年、平成３０年と云ふ平成といふ年号の最後の年の今、答へてみませう。

この座談会に出席した人々は次の通りです：

（１）河上徹太郎（文藝批評家）：司会者
（２）小林秀雄（文藝批評家）
（３）亀井勝一郎（文藝批評家）
（４）中村光夫（文藝批評家）
（５）林房雄（小説家、文藝批評家）
（６）三好達治（詩人）
（７）西谷啓治（哲学者）
（８）下村寅太郎（哲学者）
（９）吉満義彦（神学者）
（１０）鈴木成高（西洋史学者）
（１１）諸井三郎（作曲家）
（１２）菊池正士（物理学者）
（１３）津村秀夫（朝日新聞記者、映画評論家）

１０.４.１　『近代の超克』といふ本の部立て

『近代の超克』といふ本は、次の二つの章からなつてゐます。

（１）論文篇
（２）座談篇

この座談会の特徴は、政治と経済の専門家は入つてゐないこと、文化の領域の専門家たちだけでの座談であるといふことです。

まづ後者の座談篇を読みました。そして、言語といふ観点から此の座談を読めば、やはり問題の急所は、後で引用する小林秀雄の発言に尽きる。これは、今でも恐らくは安部公房の読者であるあなたの悩みを言い当ててゐるのではないでせうか。小林秀雄と哲学者の西谷啓治とのやりとりを追つて引用します。

これを読むと、近代と此れを如何に超克するかと云ふ此の問題の急所を巡つて議論されてゐる問題は、次の問題です。

A：欧米の一神教（父権宗教）と大陸文明の問題
キリスト教（宗教）、スコラ哲学（神学）、哲学、科学、liberal arts［註５］、文明、文物（文化）、道徳、近代国家（欧州、米国）

［註５］
Liberal arts（リベラル・アーツ）とは、ヨーロッパの古典的な自由七科と総称される文法学、修辞学、論理学の３学、算術、幾何学、天文学、音楽の４科からなる。これらの上に哲学がある。

B:：日本の神道（汎神・多神の道）と日本列島文明の問題
神道（宗教か？）、哲学といふ学とは何か？、科学、liberal arts、日本列島文明、日本の文物（文化）、道徳、近代国家（日本の国）

この差異を一体どのやうに、これら構成要素も含めて、考へ、問題を解決するかといふ議論であることがわかる。さうして、そもそも何が問題かといへば、

（a）Aといふ問題の理解が問題であり、即ちこれらは一体何かといふ問題、これが近代の問題であり、同時に、
（b）文明の階層、即ち世界的な国際の階層で、我が国の問題であるBの問題を如何に理解し、解決するかといふ問題である。

さうして、この二つに加へて、

C：私といふ人間の生き方の問題
私、人間、社会、国家、生き方、ものの考へ方（思考方法）、道徳、実践といふ個人を巡る問題、即ち、私といふ人間も含めて、人間は如何に生きるべきかといふ問題があり、

D：AからCの問題が未解決であるといふ問題
以上AからCの問題も含めて、いづれも個人と国家の階層と其の間にある色々な階層にあつていづれの問題も未解決のままに、さうして此の未解決であるといふことが其のまま問題でもあり、未解決のままに、次の問題が起きてゐる、即ち、

E：文明間の対立と衝突といふ問題（戦争と平和の問題）
文明間の対立が起きてゐる。即ち欧米の侵略的・暴力的な文明による植民地主義に如何に対抗して、日本列島文明とここに生きる私たち日本人の生活を、自分自身である私の生活を含

めて、守るべきかといふ問題、この問題は一体何であり、これをどう解決すべきか、即ち戦争と平和のこと、特に既に起こつてしまつてゐる前者に如何に日本人として身を処するか。この場合の文明とは次の二つである。其れは、

（A）ヨーロッパの文明
（B）アメリカの文明

といふ地域と国の文明であるといふことが喫緊の、１９４１年（昭和１６年）１２月８日に真珠湾攻撃が行はれた以上、既に差し迫つた問答無用の問題として議論せられてゐる。

さうして、この問題は戦争の勝ち負けの問題ではなく、即ち戦争によつては問題が一向に解決はされずに相変はらず二十一世紀の今も引き続いてをり、未解決のままである。未解決であるとは、主体と客体を入れ替へれば、これは日本の立場からの問題のみならず、相変はらずヨーロッパの問題であり、アメリカの問題であり、これら三者以外の諸国民の、諸民族の、諸言語の問題である。即ち、２１世紀の今から観れば、

F：２０世紀の二度の戦争によつても、ヨーロッパ文明の近代の問題は解決しなかつたといふことである。といふどころか、返へつて益々上記の問題は先鋭化し激しくなり、globalismとして大きな問題となりつづけてゐる。その最大の問題が、次の三つの問題である：

（a）欧米の植民地主義［註６］の強制による各国・各民族の政治体制の破壊（政治の問題）
（b）各国・各民族の/中での貧富の格差の拡大（経済の問題）
（c）各国・各民族の固有の文化の破壊（文化の問題）

［註６］
安部公房による発言は次の通りである。『安部公房文学の毒について～安部公房の読者のための解毒剤～』（もぐら通信第５５号）より引用します。

「二十世紀の文学論とは異なり、二十一世紀の文学の世界に政治を持ち込むことは控へたい。たとへヨーロッパの白人種にとつては大航海の５００年であつたでせうが、他方それ以外の地域の有色人種と民族にとつては、日本民族も含めて、大虐殺の５００年であり、安部公房の言葉を借りれば、次のやうな大虐殺の５００年です。さて、この歴史上の事実を思ひ出した上で、私たちは、どのやうな二十一世紀の文学を創造するのか。安部公房の言葉に耳を傾けませう。

「本当に話したいのは、国際情勢よりも、むしろ一般的な権力のメカニズムについてなんだ。けっきょく、そうした植民地主義の展開は、どうもヨーロッパのルネッサンスと照応し合っているような気がして仕方がない。ルネッサンスから産業革命へといくプロセスの中で、次第に近代国家に向けて権力による統合が進められた。ヨーロッパの中でも、分割や支配がブルドーザーみたいに駆けぬけた。王権から国家権力への移行だね。同時に生産効率が加速度的に向上する。王権と国権では、馬と機関車くらい効率がの差があるからね。海外からの収奪にも拍車がかかる。自分の国の中では民権をすすめながら、国外で奴隷の再生 生産をこころみる。」『錨なき方舟の時代』全集第２７巻、１５８ページ下段～１５９ページ上段）

「この前もテレビで大航海時代なんでロマンチックな特集番組をやっていたけど、要するにあれは略奪農耕なみの乱暴な植民地収奪じゃないか。血も凍るほどの第一期の植民地時代、皆殺し政策だからね、やるほうはテレビゲームはだしの面白さだろうけど、やられる側はロマンチックどころの話じゃないよ。」（『錨なき方舟の時代』全集第２７巻、１５９ページ上段）

「けっきょく世界は植民地支配国と、被支配国の二つに分けられる。（略）ところがなぜか日本は植民地化されなかった。地政学的には当然侵略の対象になってしかるべきアジアの一角にありながら、なぜか支配をまぬかれた。偶然か必然かはさておいて、おそらくアジアでは唯一の植民地化されなかった国だろう。だからもし日本の特殊性を言うなら、文化だとか風土だとか伝統なんかではなく、きわどいところで植民地化をまぬかれたという点……［註A］
―――要するに偶然の結果だということですか。
安部　必然が意識された偶然だとすれば、やはり偶然と言ってもいいでしょう。要するにどこの国でも、植民地化の運命さえまぬかれていたら、日本と同じようなコースをたどれたかもしれないということが言いたかった。この問題に対する日本人の鈍感さはまさに西洋人なみだ。だから日本のテレビがポルトガルの大航海時代を祝う式典を中継して、ひどくロマンチックな解説をつけて、西と東の文化の交流の記念だとかなんとか一緒になって手をたたいてみせたりする。文化の交流どころか、一つ間違ったら植民地化の先兵になりかねない連中だったんだ。裸の子供のところにライオンが入ってくるようなものさ。
　そして運よく食用にならずにすんだ日本という子供は、遅ればせながらローロッパ式の近代化をとげ、遅ればせながら植民地支配の仲間入りをしてしまう。ところが先輩たちにさんざんうまい汁を吸われてしまった後だったから、戦火による略奪というひどく不器用な手段にたよるしかなかった。
　いわゆる発展途上国に見るべき文学がないのも、けっきょくは植民地収奪の結果だと思う。発展途上国にも文学があり、その民族のためのすぐれた文学が生まれていると主張する人もいるけど、ぼくはそう思わない。すくなくとも世界文学、あるいは現代文学という基準では、文学と言うにたる文学はない。
　逆説的に言えば、だから現代文学は駄目なんだとも言える。西欧的な方法をよりどころにしているから駄目なのではなく、植民地主義の土台にきずかれたものだから駄目なんだ。反植民地主義的な思想にもとづく作品でさえ、植民地経済を基礎にしていた国からしか生まれ得ない。メフィストフェレスなしにファウストがありえないようなものさ。（『錨なき方舟の時代』全集第２７巻、１５９ページ下段～１６０ページ上段）
（傍線筆者）
［註A］
アジアの中で、欧米白人種（キリスト教徒）諸国の植民地化を免れて、国家としての独立を維持したのは、日本国の他には、タイ王国だけです。アフリカ大陸についてはいふまでもありません。」

なるほど、二十世紀に私が十代の半ばから二十代の初めに読んだ文藝評論その他の文学的な文章によく目にした、それも名のある評論家たちの文章に見られた「近代的自我」といふ言葉の意味が、今この歳になつて此処で振り返れば、よく解るのである。即ち、

近代的自我とは、

（１）上記A, B, C, D, Eの５つの問題の渦中（と敢へて隠喩を使はう）にゐる、そんな私のことであり、
（２）この渦、即ち日本人である私（自分自身）にA, B, C, D, Eの問題の全体も（従ひ）個別の部分も其の相互関係もぼんやりとしてゐてよく解らず、明解に一言でいふことができずにゐる、そんな私のことであり、しかも自分自身といふ私は毎日生きて行かねばならないといふ私であり、
（３）このやうな近代といふ歴史の時間の此の時代（二十世紀と二十一世紀）に生きてゐる私であつて、それも其れ以前の世紀から歴史が連綿と続いてゐて今現在此処にゐる私であつて、
（３）この私とは何か、この私が人間であるならば、このやうな人間とは何か（人間一般論）といふ問ひに答へる/たい我であり、
（４）この問ひに答へる/たい我（人間個別論）であり、この個別論の問ひに対しては、私とは何かといふ生きてゐる自分自身に対する此の個別論の問ひの対象となる我であり、この問ひは、そのまま、
（５）日本とは何か、日本の国とは何かといふ問ひ（日本一般論）に直結して、この問ひに同時に答へることであり、

従ひ、上記（１）乃至（５）を前提にし、これらの問題を解決することができなければ、あるいは解決できれば、

（６）近代的自我とは何かといふ問ひに答へることができる

といふことである。

この（６）に至つても、立てるべき問ひは、古代ギリシャのソクラテスに倣つて、単純である。それは次の二つです。

(a) 近代とは何か
(b) 自我とは何か

この二つの問ひに答へることができたならば、近代的自我とは何かといふ問ひに答へることができる。

哲学といふ、諸学（liberal arts）の上に立つ論理（logos）と人間に関するヨーロッパの学問の近世・近代の歴史と（時間を捨象したら其れは何かといふ）それら物事の本質については、既に『安部公房とチョムスキー（１）』（もぐら通信第７３号）にて、ともに言語の持つ個別言語によらぬ普遍的な性質、即ち言語の再帰性といふ観点から整理整頓した通りです。この場合、私たち人類の有する無意識下の哲学は、もし哲学と此れを呼ぶならば、個別言語を

問はず、次の二つの二面一体、二態一様の原理からなつてゐるのでした。

（１）世界は差異である（認識論）
（２）価値は等価で遍在してゐる（存在論）

これは、自然との関係で人間の/に関する/による時代を超えた哲学でありますから、近代的自我であらうと、このやうに実は認識し、存在してゐるといふことになります。かくいふ私もさうであり、かく読むあなたもさうである。このやうに実はものを見（時間の中で）または観（時間とは無関係に時間の外で）、そしてこのやうに私たちは在る（存在する）。これは古今東西を問はない。

さうして、この二つの原理は、ヨーロッパの近代の哲学史の中では、スコラ哲学を脱した１７世紀のデカルトとライプニッツに起源を有し、１８世紀のカントーショーペンハウアーに始まる超越論の系譜に継承されて今日に至つてゐるといふことも『安部公房とチョムスキー（１）』（もぐら通信第７３号）と『安部公房とチョムスキー（４）』（もぐら通信第７６号）の「５。チョムスキーの統辞理論とバロックの言語学」にてお話しした通りです。ヨーロッパの近代国家がカントーヘーゲル以降の共産主義の系譜にあることが、今日に至るまでの地球上の政治的・経済的混乱と極端な貧富の差を生み出してゐる原因であるといふ事もまた、そこでお話しした通りです。

さて、さうして、この二つの原理の根底に更にあるのは、私たちの古代からの汎神的・多神的な世界観、即ち大地母神崇拝の心であることは「『カンガルー・ノート』論（２）」（もぐら通信第６７号）の「６。安部公房文学と大地母神崇拝～神話論の視点からみた安部公房文学～」にて詳細に論じたところです。

これを、島嶼（とうしょ）文明の一つである私たち日本列島文明にあつては、（明治以降には近代国家編成の必要性のために）神道、それ以前の神道は古神道、あるいは単に道（みち）と呼んでゐる。本来は言挙げせぬ私たちの生きる道である。

ヨーロッパの哲学者が言語の本質である再帰性に立ちかへつて、これを絶対的に肯定する大地母神崇拝の心を思ひださう、キリスト教といふ言語の再帰性を絶対的に否定する（文字通りに）不自然・非自然・非寛容な父権宗教から、この心を自分たちの手に取り戻さうといふ運動が、１７世紀のデカルトとライプニッツに始まり、１８世紀から更に旗幟鮮明になるカントーショーペンハウアーに始まるドイツ超越論の系譜でありました。ヨーロッパ人の至つた超越論は、実はこのやうに、（白人種から見れば）私たち有色人種の大地母神崇拝、即ち汎神論的存在論を求める道であつたのです。この系譜は、近代ヨーロッパ人による近代ヨーロッパの克服の努力であるといふことができます。即ち、近代ヨーロッパとは、ヨーロッパの人間たちが如何にキリスト教といふ父権宗教から脱するかといふ道であつた。と、一言でいふことができます。そのために哲学が生まれ、哲学から科学が生まれた。

この座談の中で誰かがヨーロッパの人間が「近代の超克」と言つてゐるといふ発言がありましたが、しかし、同じ「近代の超克」といつても彼我の違ひはこれほどに大きく正反対であるのです。即ち、私たちはヨーロッパ「近代の超克」をすることは不要である。座談中後述して引用するやうに、小林秀雄曰く「日本の近代性の克服なんぞわけはない。」といふのであれば、そしてさうである以上、もはや欧米文明の立場に立つて日本文明を観、反対に日本文明に立つて欧米文明を観るといふことは、この『安部公房とチョムスキー』論を論じることによつてtopologicalな等価交換が終はり、これによつて生じる余剰たる富の上に次の時代、次の紀元のシナリオを思ひ描くことが、かうして、出来るといふ順序になります。

私たちは汎神論的存在論から出発して、言語や民族や人種の違ひを超えて超越論に至り、これを理解することができるし、できてゐる。これが縄文紀元以来の私たちの当たり前の日常である自然道・古神道・神道の世界、即ち八百万の神々の世界である。しかし、欧米白人種キリスト教徒にはこれが難しい。これが難しいのは、既述の通り、キリスト教を離れると無宗教といふことになり、無宗教から虚無主義（ニヒリズム）に堕ちてしまつて、生きる根拠を喪失して苦しむ、あるいは辛うじて踏みとどまり生きることに耐え得ても、超越論から汎神論的存在論へと辿り着くことがなかなか、欧米の日常生活の中でこの違ひの河を渡り、即ち父権宗教（キリスト教）から母権宗教（大地母神崇拝）への、一神教topologyから大地母神崇拝のtopologyへと引かれてゐる一線の此の溝に橋を掛けて超えることは難しいといふことなのです。

勿論、以上のことは言語の観点からの近代史ですから、これ以外にも政治学と経済学の観点からの近代史もまた論ぜられ、二十一世紀の今日、整理整頓されて全体が一層よく解ることになりませう。また、これに加へて文化・学といふべきか、文の学、即ち広義の文学あるいは人文科学の観点からの近代史が加はれば、歴史の全体を俯瞰するのに完璧を期することができます。これには学際的な協力が欠かせません。

『近代の超克』といふ座談の話者が素晴らしいのは、自分の求めた専門の領域に応じて、上記A乃至Eの問題につき、この最上位の階層に於いても議論を互ひに通じてゐることのみならず、下位の階層に於いても風俗や流行（例へば映画（２５５ページ）［註７］やジャズ（２５６ページ））、発明（「ラジオやトオキイ」（２６０ページ））に至るまでの議論が座談といふ形で相互の異分野同士の交流と理解と意見の対立が、何の議論の紛糾なく、しかも戦時下にあつて、何ら時勢・時局に阿（おも）ねることなく、礼儀正しく、なされてゐるといふことです。

［註７］
津村秀夫のこの発言は、『何故日本文学は衰退したか』（もぐら通信第７９号）掲載の考察に転載した映画の上映数に、戦前と戦後に大きな差異のないことによつても裏付けられてゐる。

１０.４.２　小林秀雄の発言から此の座談の急所を読む

前節「１０.３.１　『近代の超克』といふ本の部立て」の冒頭に言及した問題の急所について、座談の途中、話が西洋の近代文学と日本人である私（自分）といふ人間の成熟との関係で、若い時分には前者が魅力的に見え、「批判や解釈や分析が面白かった」のに対して歳をとつて人間が成熟するにつれて日本の古典が親しいものになり、「理屈なんかどうでもつくといふ事が腹にはいつて、みな詰まらなくなつた。さうすると、今度は文学とか思想といふやうなものを頭では考へないで、段々肉体で感ずるやうになつて来る。（略）絶対的な命といふものは一つであつて、それに触れることが一番大事なことである。さういふ風なものに触れるのだ。肉体で触れるのだ。頭で理解するのではない。（略）古典には頭がよくなければ理解が出来ない様なものは書かれて居ない。青年の知識慾批評慾を満足させる様なものは何も書かれてゐない。唯僕等が成熟して行かなければ思想、観念、理論とか、批判とか、解釈とか、さういふものの珍しさといふものを卒業して来ないと、どうしてもそこに出て来ない美がある。だから、古典といふものをどんなに広告しようと現代の青年を直ぐ其処に連れて行く事は不可能ですよ。国文学者などが時世に乗つていくら喚いてみた処で駄目な事です。」といふ話になつたところで、西谷啓治が若い時分の同じ経験を語つて小林秀雄の考へに同意した後で、小林秀雄が此の急所を突いて次のやうに発言してゐます。（傍線引用者）

「小林　青年時代、観念といふものを信じて、それに燃えて居る時には観念は生々しい。あなたの仰しやることは能く分かる、その通りだと思ふ。併し、西洋の文学に飛びついたと言つても、それはみな西洋の近代の詩や小説に飛びついたので、ギリシャ悲劇に飛びついたわけではない。だから要するに近代性の克服とは西洋近代性の克服が問題だ。日本の近代性の克服なんぞわけはない。話は少し変りますが、例へばあなたの論文でも、吉満君の論文でも非常にむつかしい。極端にいふと、日本人の言葉としての肉感を持つて居ない。国語で物を書かねばならんと云ふ宿命に対して、哲学者達は実に無関心であるといふ風に僕等には感じられるのです。如何に誠実に、如何に論理的に表現しても、言葉が伝統的な日本の言葉である以上、文章のスタイルの中に、日本人でなければ出て来ない味ひが現はれて来なければならんと思ふ。さういふ風な事を文学者は職業上常に心懸け居る。其れが文学のリアリティといふものに関係して人を動かしたり、或ひは動かさなかつたりする。その中に思想が含まれる。その点で哲学者は非常に呑気である。さういふことを征服しないと、僕は日本の哲学は本当に日本の哲学として再生しないだらうと思ふのですが、その点はどうお考へになりますか。

西谷　その点は吾々の方でも問題になつて居るので、人からも始終言はれることです。また吾々も今のやうな状態で決していゝとは思つて居ないので、第一に言葉が非常にむづかしい。時には専門の者の間でも分からないやうな言葉を使つてゐる【A】、これは非常によくないことだ。さういふことは認めて居る。所が吾々は大体西洋の哲学を勉強して来たので、吾々が現在やつて居るやうな哲学といふものは、東洋には先づなかつた【B】といつてよいと思ふ。私が先刻スペンサーなんかが持て囃されたといふことを問題にしたのは、そこに西洋の学問がもつてゐるやうな、学としての特殊性【C】があつて、その特殊性のために、あんな浅薄なものが仏教のやうな深い哲理を押しのけて人を捉へた理由があるのぢやないかと思ふの

ですが、それは問題としても、兎に角吾々は、さういふう流れが西洋から取り入れられたその流れの中に居る。そこで哲学をやつて居る者は、さういふ西洋から受け継がれた流れのなかで、従来の日本の言葉だけでもつて思想を言ひ現はすのは非常にむつかしい【D】。無理にやつてやれないことはないが、返つてわからなくなるので、自然と日本語で新しく言葉を作つて言ひ現はして行かうといふことになる。一般の日本人に分かり易いやうな言葉で書くといつても、実はさういふことをする暇がない。正直にいへば、寧ろ西洋の思想家を相手にして居るといふやうな気持【E】で、西洋人の考へて居るものよりももつと先へ行きたい、人の分からせる分からせないといふことよりも、向かふの人が行き詰まつまつた所を突破つて行く【F】、さういふ気持ちが先に立つのです。今のところ結局さういふことで押して行くより仕方がないと思ふ。その中に哲学が本当に日本の地についてくれば、そこに違つたものが自然と出て来る【G】のぢやないか。（略）　」

このやりとりを読みますと、小林秀雄の言つてゐる、日本語を使ふ日本人の哲学者の問題、即ち日本人の日本語によつて書かれる哲学論文は書き手の生活上の肉感がないので非常に解りにくい、思想といふものも言葉で書かれるのであるから、このリアリティ（現実感）を欠いては哲学といふ学は日本には根を降ろすことはない、もつと短くいへば、日本語の伝統と哲学用語の関係は一体どうなつてゐるのだ、日本語の伝統的な意味と語法と新しい翻訳語である哲学用語の関係はどうなつてゐるのだ、といふ発言に対して、西谷啓治の応答は次の通りです。上にAからGまで印をつけた所を以下にまとめます。

（1）第一に言葉が非常にむづかしい。時には専門の者の間でも分からないやうな言葉を使つてゐる【A】
（2）吾々は大体西洋の哲学を勉強して来たので、吾々が現在やつて居るやうな哲学といふものは、東洋には先づなかつた【B】
（3）西洋の学問がもつてゐるやうな、学としての特殊性【C】
（4）従来の日本の言葉だけでもつて思想を言ひ現はすのは非常にむつかしい【D】
（5）西洋の思想家を相手にして居るといふやうな気持【E】
（6）人の分からせる分からせないといふことよりも、向かふの人が行き詰まつまつた所を突破つて行く【F】
（7）その中に哲学が本当に日本の地についてくれば、そこに違つたものが自然と出て来る【G】

かうやつて日本の哲学者の言葉を引き写してわかることは、小林秀雄の言つてゐる人間の成熟といふことがすつかり抜け落ちてゐるといふことです。上の【A】から【G】を更にまとめていふと次のやうになります。

【A】西洋哲学の用語が非常に難しい。
【B】西洋哲学は東洋にはなかつた。
【C】西洋の学問の特殊性

【D】西洋哲学の思想を伝統的な日本語で表現することは難しい。
【E】日本の哲学者は西洋の思想家と格闘するので精一杯だ。
【F】日本の庶民に伝へるやうに易しく伝へる余裕がない。むしろ西洋の哲学者の難所・急所を突いて（これが上記の「西洋の思想家と格闘する」の意味でせう）其の思想体系の不備を論破することに汲々としてゐるのが現実である。併し、
【G】このやうな努力を毎日積み重ねれば必ず日本の風土に哲学は根を降ろす日が来る筈である。さうして、日本の哲学が生まれるに違ひない。

と、このやうなまとめになるでせう。

【A】から【C】は、諸処既述の通り、キリスト教のtopologyから逃れるために哲学が生まれたといふ事情（１７世紀）、そしてカントが登場して（１８世紀）、ここから共産主義と超越論の系譜の分岐が西洋哲学史上始まつたといふ事情（１８、１９、２０世紀）のことをいつてゐます。中世スコラ哲学の用語と唯一絶対神の存在証明理論（三基準同時不定立［註８］）は、カントーヘーゲルーマルクスに継承されたのに対して、超越論の系譜では、神学用語への言及は極端に減り、ショーペンハウアーの哲学がさうであるやうに、体系的な森羅万象の説明の中の一つの部分として統合されて克服されたといふこと［註９］。さうして同時に、私たちが考慮に入れなければならないのは、ヨーロッパ白人種キリスト教徒がキリスト教といふ一神教を離れると、無宗教になり、虚無主義（ニヒリズム）に堕ちるといふことです。

［註８］
三基準同時不定立とは、キリスト教のスコラ哲学者が唱へた唯一絶対神Godの存在証明のための証明基準の一式のことです。「哲学の問題101 (3) ：何が在るのか? 」（もぐら通信第８６号）より引用します：

「[註5]
スコラ哲学の唯一絶対神存在証明三基準について、八木雄二著『神を哲学した中世ーヨーロッパ精神の源流ー』より以下の箇所を引用します。良書です。

「中世の議論をより深く理解してもらうために、もう少しギリシャ哲学の本質について述べておきたい。(略)こ うした哲学用語を学ぶことは、いわば子供が自転車に乗る練習をするときに補助輪をつけるようなもので、それに頼っていると、むしろいつまでたっても自転車に乗れるようにならない。補助輪を捨てて、自転車の両輪だけで乗る練習をする必要がある。

では、哲学において、その両輪に当たるものは何かと言えば、それは「より大とより小」、「全体と部分」、「一と多」という三つの対である。この三対を使いこなすことができるようになれば、哲学はむずかしくない。(略) じつのところ普遍論争は「全体と部分」及び「一と多」の論であり、後に説明するアンセルムスの神の存在証明には、「より大とより小」の論理が使われている。また神と被造物の関係は、「一と多」の関係なのである。むずかしい言い方をすれば、たしかにこれらの対は「超越論」的に用いられる。超越論的に用いられて、じつは形而上学を可能にする。(略)基本をみて見よう。そのためには、三つの対同士をぶつける。(略) なんだか三すくみのようで頭が混乱するかもしれないが、ようするに三つの対はうまく整合しない。「多」は「一」 と比べて「より大」であるにもかかわらず、「多」は「部分」と一致するのだから「全体」たる「一」と比べて「よ り小」でもある。

ここに紹介した三つの対は、プラトンが『パルメニデス』で示した哲学分析の道具である。哲学するためにはこの道具を使いこなす必要がある。」(同書「ギリシャ哲学という道具」より)

［註９］
この事実は、『安部公房とチョムスキー（９）』（もぐら通信第８２号）の「8。スコラ哲学は21世紀にも生きてゐる」の中の「2。近代哲学に於けるスコラ哲学・神学関係用語頻出回数」で証明した通りです。

【D】は西洋哲学の概念を如何に日本語に移植するかといふ翻訳の問題。
【E】と【F】は、以上【A】から【D】の理由から、とても普通の日本人に分かりやすく伝へる余裕がないといふこと。
【G】は、しかし、このやうに必死で努力してゐるのだから、必ず報はれる筈だといふ根拠のない信念。

西谷啓治さんといふ方の発言は、このやうな理解をすることができます。この方の発言に、私は反論してみませう。

【A】から【C】：西谷さんには申し訳ないが、存在も現存在も巷（ちまた）の熊さん八つあんの使ふ日常語である。英語でもドイツ語でも英和辞典や独和辞典を開いてみれば、人間は具体的な概念を（安部公房の用語を使へば）「問題上昇」［註１０］させて抽象的な概念に至らしめることができる。身近な具体的なものを抽象的な概念に変形することができる。外国語の一語の概念は、日本語の三つの言葉に対応するので（逆もまた真なり）、三つの言葉をつかつて変換することができる［註１１］。それはこの翻訳によつて１００％の意味の移植はできないかも知れないが、核心の意義（sense：内包）と意味（meaning：外延）は大体伝へることができる。併し、さういひながら、その苦心と苦労は理解してゐます。ですから【A】から【C】の発言はもつともなのです。しかし、そこを創意工夫で、それこそ「突破」するのが専門家ではないのか。

【E】と【F】は、小林秀雄のいふ、日本の哲学者が日本語の哲学徒として日常の生活の中で成熟することによつて解決のつく問題ではないか。お釈迦様なら言葉は方便のためにつかふとおつしやる所です。

【G】は、怠惰である。世の中には真剣に努力しても報はれないことはたくさんある。もし哲学の専門家であるならば、さうはならぬやうに方法論（理論）を考へ、方法を編み出して応用（実践）するのが哲学者ではないのだらうか。さうしたら、その論理的な思考の努力は後世の国民の財産になり、遺産になると私は信ずる。言語が日本語ではない以上、その体系をそのまま翻訳語で日本語に訳しても、日本人のものにはならない。日本語の世界に翻訳語の体系など翻訳者が余程の心血を注がぬ限りは有り得ない。これはお互ひに異言語間ではさうである。

典型的な良い例を挙げれば、日本の国が国家主権を失つた期間に国際法違反にも拘らずGHQの起草し、日本国民に強制した英文原文の日本国憲法を読み、その翻訳憲法たる現行憲法の日本語を見れば、これは実例として明らかである。これは良い悪しき例である。それに比べれば明治憲法は日本人が自分の言葉で起草したので、読んで見ると肉感を持つて日本語で体系化した優れた憲法であることが判ります。日本人が日本語で読んでわかるといふことです。翻訳ではないといふことに此れ位の致命的な差異があるのです。

自分の、それこそ小林秀雄のいふ通り、西谷さん、あなたが肉感を通じて一つの概念について日本語を発するのでない限り、日本語の世界に西洋哲学が根付くことはないのです。そのためには、あなた自身が成熟しなければならない。さて、成熟とは何か、そしてそのための技術を何だと呼び、これら二つを考へて（方法論）、応用する（実践論）のが、さうして、これを考へて日々努力するのが日本語の世界の哲学徒の務めではないのか。

［註１０］
問題上昇といふ安部公房用語については、１８歳の論文『問題下降に拠る肯定の批判』（全集第１巻、１２ページ上段）を参照ください。

［註１１］
「『カンガルー・ノート』論（１７）：５.７　再度３といふ数：３とは何か」（もぐら通信第８４号）をご覧ください。

しかし、当時の時代は戦争の時代である。一個の人間が成熟するには長い時間を必要とする。成熟に至る時間の長さも人それぞれである。何故なら、人間の人生は量ではなく、質であるからだ。上記にまとめた座談の問ひの一つ「如何に日本人として身を処するか」とは、戦時であれば、生きることの可能性よりも死ぬことの可能性をより意義の大きいものとして考へ、成城高校時代の安部公房がさう自問自答したやうに「人間如何に死ぬべきか」といふ問ひを立てることになる。これは安部公房と同じ時期に成城高等学校の教授職にあつた、三島由紀夫の発見者、蓮田善明が成城高校の校友会誌『城』（昭和１６年８月５日発行）に寄稿した「純粋技術への決意」（第３７号）の中にも書かれてゐる問ひでもあります。即ち、先の戦争中には大多数の人たちが、大人であれ少年であれ、同じ問ひを立てたのです。この蓮田善明の論文を読むと、当時戦時下にあつて、文化の領域の有知識人の間で、この問ひが盛んに論ぜられてゐたことが察せられます。高校生の安部公房も此れらの論を読んだことでせう。とあればまた、一歳年下の三島由紀夫もまた。

さて、この座談会開催の主旨は、司会の河上徹太郎の結びの言葉、即ち「「近代の超克」結語」によれば次の通りです：

「我々の会議は、ともあれこれ［註１２］と方向が違つてゐる。大東亜戦開始のやゝ以前から、新しき日本精神の秩序に関するスローガンが、国民の大部分の斉唱（ユニゾン）で歌はれてゐた。此の斉唱の陰に、すべての精神の努力や能力が押し隠されようとしてゐる。危機は表面的には去り、すべては観念上の名目論で片づけられようとしてゐる。我々が起つたのは、此の安易な無気力を打破するためである。それは所謂「いひたいことがいへない」のに反抗してではない。所謂「いひたことがいへない」といふのは、感傷的な自己告白に過ぎない。我々は「如何に」現代の日本人であるかが語りたかつたのである。」
（『近代の超克』、１６７ページ）

［註１２］
「これ」とは、河上徹太郎曰く、この会議の「十年許り前、国際聯盟の知的協力委員会で開催された、ヴァレリイを議長とした数次の会議であ」る。「そこには、既に矛盾を暴露し初めたヴェルサイユ条約の、応急彌縫策としての知識人の動員が見られてゐる。この目的のために巧妙に案出された議題は、「欧羅巴人は如何にして可能なるか」といふ命題である。一流の知性人が、その知性の限りを尽くして、知性から肉体を剥奪するに努力してゐる。そして議事進行中努めて政治的発言を戒めてゐることは、結果として全体の趣旨を著しく政治的効果の上で強めるのに成功してゐる。知的礼節に装はれ、一見豊かだけど決定的な声部を骨抜きにされた華麗な諧音のうちに、全員の合唱が虚ろに響いてゐる。だから彼等の絶望的な希望は、現在の欧州政局の実情が示してゐる通りである。」
（『近代の超克』、１６６ページ）

この河上徹太郎の引用を通じて私の言ひたいことは、子供達、少年達、青年達は、この戦時といふ時代に直面して、即ち死に直面して、急激に成熟することを強ひられた。といふことである。これが、子供達、少年達、青年達にとつて、敗戦後、どれほどの苦しみを齎（もたら）したことか。自分の人生で、遅く来るべきものが、早く来すぎたのである。しかし、人間の成熟といふことを巡つて考へると、平時に生きることが幸せなのか（さう、確かに幸せであらう、戦時に比べれば）、戦時に生きることが幸せなのか（さう、確かに幸せであらう、否でも応でも成熟を強ひられるから）、どちらが幸せなのか、私には解らない。

あなたは自分自身の、人間としての成熟といふことを考へたことがあるだらうか？そのためには一体どう生きることを考へたら良いのだらうか？

私の体重がまだ７８キロだつた頃、この問ひに対する答へを得るための問ひは次の問ひでした：

自分の命と引き換へにしてでも私が知りたいものは一体何か？

この問ひに答へて名前を挙げたものが、あなたの一生の天職であり（たとへそんな職業が世

になからうとも）、あなたの使命であり、あなたの人生の目的です。

子曰く、朝（あした）に道を聞かば、夕べに死すとも可なり。

ここまで叙述を進めて来て、私のおもふところは、先の戦争にも拘らず、Deep Japanの高天原の存在の三階層も大八島の八百万の神々も、全く無傷だといふことです。

先の終戦後７０有余年の間、Deep Japanは文字通りに、恰も私たちの深層意識の深いところで眠り続けてゐるかの如くに見えてゐる。そして、天（あめ）の御柱で高天原と接続してゐる大八島にすまふ八百万の神々、即ち国津神は、それぞれの国で私たちの無意識の深層から現れて可愛らしい縫いぐるみの姿をして、クマモンやら何々モンと呼ばれて現実の時間の中に、安部公房の用語を使へば、存在たる未分化の実存として立ち現れてゐる。ポケモン（ポケット・モンスター）といふ、これも可愛らしい小型怪獣に至つては、世界中の国々に汎神論的に出現してゐる。

これについては『安部公房とチョムスキー（８）：7. 一神教と大地母神崇拝をtoplogyで読み解く 』（もぐら通信８１号）で詳細に論じましたので、お読みください。この論考をお読みくださつたといふことを前提にして、次の一言をあなたにお伝へして、この章を終へたい。

”もうそろそろ、デンドロカカリヤといふ化けの皮を脱いでは如何か、コモン君、次の存在へと脱皮するために。”［註１３］

［註１３］
コモン君とは、いふまでもなく『デンドロカカリヤ』の主人公の名前。

この論述の最後に『一神教と大地母神崇拝の相違による様々な領域での違ひ』と題した二つのものの実に正反対の性格を示した比較表を示します。ダウンロードのURLは：https://www.scribd.com/document/391971839/一神教と大地母神崇拝の相違による様々な領域で-の違ひ

（以下このページは余白）

もぐら通信

20181010
岩田英哉
もぐら通信

	Network Topology	宗教	言語	哲学	論理学	時間との関係
1	一神教のtopology	一神教	言語の再帰性の絶対否定	観念論/空理空論：カントーヘーゲルーマルクスーフランクフルト学派ーglobalismの共産主義の系譜	否定論理和/否定の足し算/ヘーゲルの"弁証法"	時間の中での個別の物事の否定と瑣末な差異の強調と実現。新しい文物を生み出さず、逆に破壊する。二項対立の促進。
2	八百万の神々のtopology	大地母神崇拝	言語の再帰性を絶対肯定	超越論/汎神論的存在論：カントーショーペンハウアーーニーチェーハイデッガーーデリダ/ドゥルーズ/安部公房/チョムスキー/ハラルド・ヴァインリッヒ等々の系譜	論理積/安部公房の「新象徴主義哲学」（『詩と詩人（意識と無意識）』）/二項対立の否定による超越	時間の外での二項対立の統合。新しい文物を生み出す。

時間との関係	政治	経済	文化	国家形態	
時間の中での個別の物事の否定と瑣末な差異の強調と実現。新しい文物を生み出さず、逆に破壊する。二項対立の促進。	共産主義	共産党一党独裁による計画経済	歴史と伝統の切断と歴史の捏造	共産党による一党独裁＋植民地主義（徹底的な富の収奪と文化破壊）	Ide激し宗教するヒリ無主
時間の外での二項対立の統合。新しい文物を生み出す。	超越論による自然政治学	超越論による自然経済学	歴史と伝統の連続性を大切にする	各民族が神話に有する超越論によつて異なる	左記由か

宗教による差別	人種差別	貧富の差	性による差別	備考
Ideologie（観念論/空理空論）による激しい差別がある。Ideologieは擬似宗教（カルト）であり、キリスト教に対する反発と離縁→無宗教→虚無主義（ニヒリズム）から生まれたニヒリズム（虚無主義）である。	人種差別が激しい。虐殺を平気で行ふ	共産党による富の収奪により貧富の差は拡大する	これはキリスト教の教義によつて禁圧され、また抑圧されてゐる。LGBTはキリスト教に対する反発と離縁→無宗教→虚無主義（ニヒリズム）から生まれた此の文化圏独特の病理である。	唯一絶対神の外部に自然のあることを人々は知らない。
左記の政治・経済・文化と国家形態の理由から宗教による差別はない。	左記の国家形態の理由から人種差別はない。各民族、各国民の自律性を大切にする。	超越論であるので経済形態に再帰函数を入れるので貧富の差異は限りなくなくなる。	高天原・国生み神話topologyから性的差別は全くなく、LGBTは最初に考へられ、従ひ受容されてゐる。	自然の中に神々と人間が生きてゐることを人々は知つてゐる。即ち、自然は自然のままに再帰的に自然の内部と外部を交換する。これが天変地変である。

あなたが文明論の視点から地球上の人間を政治・経済・文化の領域に亘つて俯瞰する場合には、安部公房の好きなtopology（位相幾何学）を共有する縄文紀元以来のDeep Japanに立つて世界といふ

世の中を眺めてみて、一神教と、大地母神崇拝または一神教（キリスト教）の生み出した哲学の超越論、即ち私たちの汎神論的存在論に基づいてものを考へ、個別の判断をなさると混乱と混沌は分類されて収まります。まあ、「方舟さくら丸」といふ大船に乗つた気分で試してみて下さい。あるひは逆に「箱男」といふ小舟に乗つても結構です。何故ならば、比率といふ論理を用ふれば、大も小もtopologicalには同じことだからです。大でもなく小でもない第三の道をお進みください。
キリスト教の中世スコラ哲学の唯一絶対神Godの存在証明である三基準同時不定立 ［註８］は、

（１）より大とより小
（２）全体と部分
（３）一と多数

といふものであり、これら三つは同時には並び立たないといふ理屈ですので、かうしてtopologicalに此の三つを眺めると、大は小であり、かくして全体は部分で部分は全体でありますし、更に一は多数と等価であるし、多数は１と等価であれば、スコラ哲学の論理は全くtopologyによつて論破され、世界を位相の等価交換の動態的な連続と観れば、この三つの基準が無意味だといふことの証明をすることが最初からできてゐます。デカルトは『方法叙説』で自分は比率で考へると言つてゐます。比率で考へるとはtopologyの一種です。比率を用ひれば上の三つの基準は成り立たない。かくして、デカルトはスコラ哲学を超越して、１８世紀のカントに道を拓いたといふわけです。それ故に同じ１７世紀をフランスの隣のドイツで生きて『モナド論』といふ汎神論的存在論を著したライプニッツとともに、私は近代ヨーロッパのtopologyの歴史に、哲学の領域でデカルトを入れ、ライプニッツを入れるのです。さう、二人は哲学者であるのみならず、数学者でもありました。前者は代数幾何学の、後者はイギリスのニュートンとともに微積分の創始者です。

これがキリスト教の神学とその後のカントーヘーゲルの共産主義の系譜の論理と、カントーショーペンハウアーの超越論（汎神論的存在論）の系譜の際立つた、決定的な相違です。

何故なら唯物論であるからして、物質的な大小しか、常に全体は部分を含むとしかなく、即ち安部公房のいふ「特殊の中の普遍」を考へることができず（これで共産主義者が何故超越論を理解できないかがお判りでせう）、一と多数は常に唯物論者には量でありますから、またそれ故に共産主義者は、言語と民族を問はず、常に政治的である自分自身の原因を知ることなく（何故なら政治とは人間を量で考へるから）、従ひ誠にあはれなることに、これ以上には考へることができないので、超越論の安部公房を理解することができないのです。言ひ換へれば、

キリスト教の神学者たちは、スコラ哲学者を含めて、時間とは何かといふ問ひに正面から答へることができなかつたといふことです。それには１８世紀カントから分岐する超越論者たちの登場を待たねばならなかつた。カントーショーペンハウアーーニーチェーハイデッガー……安部公房

改めて２１世紀にどちらを私たちが選択するかは自明です。唯物論か超越論か。唯物論か汎神論的存在論か。GlobalismかDeep Japanか。Napaj（ナパージュ）になるかJipang（ジパング）になるか。

１１．言語の観点から第二次世界大戦後の日本を総括する

（続く）

哲学の問題１０１
（９）
性（sex）

岩田英哉

休載御免。次号を待たれたし。

リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
（３５）
第２部Ｘ
～安部公房をより深く理解するために～

岩田英哉

X

ALLES Erworbene bedroht die Maschine, solange
sie sich erdreistet, im Geist, statt im Gehorchen, zu sein.
Daß nicht der herrlichen Hand schöneres Zögern mehr prange,
zu dem entschlossenern Bau schneidet sie steifer den Stein.

Nirgends bleibt sie zurück, daß wir ihr ein Mal entrönnen
und sie in stiller Fabrik ölend sich selber gehört.
Sie ist das Leben, — sie meint es am besten zu können,
die mit dem gleichen Entschluß ordnet und schafft und zerstört.

Aber noch ist uns das Dasein verzaubert; an hundert
Stellen ist es noch Ursprung. Ein Spielen von reinen
Kräften, die keiner berührt, der nicht kniet und bewundert.

Worte gehen noch zart am Unsäglichen aus...
Und die Musik, immer neu, aus den bebendsten Steinen,
baut im unbrauchbaren Raum ihr vergöttlichtes Haus.

【散文訳】

すべての苦労して手に入れたものを、機械は脅（おびや）かす、
命令に従順に従うことの中にいないで、精神の中にいようとする限り。
素晴らしい、主人のように堂々たる手も、（機械に比べれば）より美しく躊躇して、
もっと見事に光輝やくことはないということ、より断固たる構築のために
機械は、より堅く（頑固に）、石を切るのだ。

機械は、どこにあっても、遅れたり、留まったり、引っ込んでいるということがないので
わたしたちは、一度は（一度だけだ）機械から逃れようとするし、また機械は静かな工場

の中で、油をさしながら、自分自身に帰属している。
機械は、生である。同じ決心を以って秩序を整え、そして創造し、そして破壊する機械は、最善の形で生を可能ならしめるように考える。

しかし、わたしたちにとっては、今ここにこうしてあるということが魔法にかけられていることなのだ。百もの場所で、これは、まだ源泉である。跪（ひざまづ）き、驚くことのない者は触れることのない純粋な諸力の遊びだ。

言葉は、まだ柔らかく、言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく…
そして、音楽は、いつも新しく、最も激しく震える（複数の）石の中から
実用を離れた空間の中で、その神聖な、荘厳された家を建築するのだ。

【解釈と鑑賞】

リルケの生きた時代は、現代の技術的な製品が生まれた時代なので、それらを一言で表わして機械といっているのだと理解することができる。映画、自動車、電車、電信電話等々。

第1連で、機械が人間の命令に従うだけではなく、精神の領域を侵食しているといっている。これは何を具体的に言っているのか。上に挙げた商品は、確かに見えない場所のものを見せてくれ（映画）、時間と空間と人間の距離をより一層近いものにし（電信電話）、同様に行きたいところへ速く行けるようにする（自動車、電車）ということでは、精神の出る幕の数を少なくしていると言える。こうして使っているインターネットなどというものは、時間と空間的な距離をゼロに果てしなく近づけたので、機械の最たるものということになります。結局、時間と距離をゼロにするということは、便利になったということで、そのすべてをいうことができるのでしょうか。一度手に入れた利便性を人間は手放すことができません。

リルケのいうGeist、ガイスト、精神とは何でしょうか。次にみるように、芸術的な創造に欠くことのできない人間の遊びの空間を創造し、その中で純粋、神聖な構築物、すなわち作品を生み出す、人間の本源的な力のことをいっているということになります。

さて、第1連ではまた、手がものを創造するときの迷う美しさに対比して、機械の仕事の冷酷さ、決然たる様子を対比させている。機械が切る目的語である石は、他のソネットの中では、沈黙の縁語であり、それはどこか死をも連想させ、静かな創造を思わせる物であるが、機械はそのような石であれ、有無を言わせずに切るのだ。

第2連では、機械の遠慮のなさと、機械が生そのものであることが歌われている。

しかし、これに対して、第3連では、わたしたち人間にとっては、今ここにこうしてあること、これをドイツ語では一言、das Dasein、ダス・ダーザインといい、生硬な哲学用語では現存在などと訳していますが、これが人間にとっては大切なことだと言っている。それは、魔法にかけられた状態であって、諸力の働き、湧き出る源泉であるという。それは、遊び、遊戯なのだ。

第4連では、言語と音楽が歌われている。遊びの最たるものということなのでしょう。同じ石からつくる建物ではあっても、機械がつくる建物と、これら芸術のつくる建物とでは、このように違うということを言っているのだと思います。面白いことは、言語は、言語で言い得ぬことを頼りに外へと出て行くことであり、音楽は、全く実用を離れた空間で、神聖な家を建築すると歌われていることです。これらは、全くその通りではないでしょうか。

神聖な家とは、第1部ソネットIおよびIIIに歌われているTempel、テンペル、寺院のことです。ここでは、二つに分かれている人間のこころが、ひとつになるのでした。そのような治癒の空間、全体を取り戻す空間が寺院なのでした。音楽はそのような構造物を建立する。言語もまた。

【安部公房の読者のためのコメント】

第一連に精神といふ言葉が出て来ます。この言葉を使はなければ、精神といふ言葉の意味（正確には概念）が次の世代に伝らない。あるひは親から子に伝らない。精神が失はれてしまふ。

今の日本の読者が安部公房の文学にこんなに惹かれてゐるのに、安部公房の理解が難しいと感じてゐるとすると、これが大きな原因の一つではないかと私は思ひます。

これを私は先の戦争のせいにするつもりはない。何故なら、平時にあつても、新しいものを創造するには精神を、即ち精神といふ言葉を必要とするからです。

最後の連である、

「言葉は、まだ柔らかく、言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく…
そして、音楽は、いつも新しく、最も激しく震える（複数の）石の中から
実用を離れた空間の中で、その神聖な、荘厳された家を建築するのだ。」

ここに歌つてゐる言語と音楽に関するリルケの言葉は全く其の通りだ私には思はれますが、如何か。

「言葉は、まだ柔らかく、言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく…」とは、そのまま安部公房の言語機能論になつてゐます。何故ならば、言葉が「言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく」とは、外へ出てゆくことが言葉に表すことだからです。言葉にならぬものを言葉で表す以外には、言葉を使ふ人間にはない。といふ、この一見自己撞着の事態が、人間の生活である。勿論、毎日の日常では与へられた言葉を習慣的に使ふことができれば、一人前に通用するといふことになる。たとへ、その言葉が惰性で口にし文字にする言葉であり、常套句であつても。

リルケが詩にして歌つたたことを、安部公房は次のやうに言つてゐます。『安部公房文学の毒について〜安部公房の読者のための解毒剤〜』（もぐら通信第５５号）より幾つかを引用します：

「――　散文が儀式化なしに対抗できる理由はなんでしょうか。
　安部　儀式化そのものが強力な言語機能なんだよ。言語に対する有効な解毒剤はやはり言語以外にはありえない。そういう言語を散文精神と命名したまでのことさ。でもこの規定は、今後批評の基準として利用できそうだね。けっきょくテレビ攻撃より、散文精神の確立のほうが、僕らにとっては急務だろう。」（『破滅と再生２』全集第２８巻、２６６ページ）

「まったく奇妙な動物さ、人間ってやつは、遺伝子から這い出して、とうとう遺伝子が遺伝子自身を認識してしまったんだよ。「言語」によって遺伝子が遺伝子自身を認識してしまったんだよ。
　だから「言語」とは何かを考えるにしても、言語で考えるしかない。言語の限界という表現でさえ言語表現の枠を出られない。井戸の中を見おろすように、言語で言語の中を覗き込んでいるのが人間なんだな。
――　つまり認識の限界、すなわち言語の限界だということですね。
　安部　限界というより、構造と考えるべきだろうな。（略）」（『破滅と再生２』全集第２８巻、２５４ページ）

この言語観（言語機能論といひます）で建てられた「神聖な、荘厳された家」が、安部公房の小説です。『没落の書』に次のやうにあります（全集第１巻、１４１ページ上段）。結論を先に言へば、安部公房の小説はモデル（模型）なのです。それ故に後年にも、「小説は無限の情報を盛る器」だといふ発言になつて同じことが繰り返し言はれてゐる（全集第28巻、49ページ.）。傍線引用者。

「やがて昇り来る新世紀は、（結論を先に云つて終えば）天才即ち宇宙的詩人の世紀に他ならぬ。彼らは生きるであろう。――何故か――安心したまえ。私はその問題の解決をこばみはしない。私は唯一の解決者たる宿命を拒みはしない。私は自分が他愛の義務を、自分の詩魂の内に感ずる事を人々の為に祝福する。私は総てを展開しよう。だが常に注意し

給え。解決は言葉の最後にのみ与えられるものではない。君達は画き出す人でなければならない。私は単に暗示者だ。絵具と構図は君達にまかせる。私はモデルを象徴しよう。それは先ず、以下書き述べる概念の古塔だ。すぐれた頭脳の所有者である君達は、次の象徴詩で総てを理解するであろうけれども、尚も論理的解決を望む特殊の人々の為に、別に私自身でも一つ絵を書き上げて見よう。（註）それも恐らく新世紀の存在論として、重要な思想的価値を有する事になるであろうけれども、今此処では述べたくも無いし、又其の必要も認めない。私はむしろ此の古塔の詩の方を愛する。

（註）存在論的現象批判、並びにその構造。」
（『没落の書』全集第１巻、１４１ページ上段）

この後に「概念の古塔」の詩が書かれてゐます。これは散文詩です。一読される事をお薦めします。「問題下降」が書いてあります［註１］。

この引用に書いてゐることは、次の用語から既に明らかであるやうに、安部公房の哲学は「新象徴哲学」であり、これは存在論であり、この存在論は価値論であり、また此のやうに書かれた小説の読者とは「論理的解決を望む特殊の人々」であり（これは「特殊の中の普遍」をいふ安部公房のtopologyの論理です［註２］）、さうして安部公房の小説はモデル（模型）であること、小説はモデルとしての「小説は無限の情報を盛る器」であること。最後のモデルとしての小説については、何故なら「君達は画き出す人でなければならない」からです。「論理的解決を望む特殊の人々」としての読者は、存在論としてある価値の体系として書かれた小説を自由に読んで良いこと。これが読者に期待したことであり、安部公房の願ふ読者像なのです。確かに安部公房の読者は理屈つぽい。このことについては、あなたに異議はないと思ふ。

「言葉は、まだ柔らかく、言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく…」

リルケは此の一行を書くに際して、一体どこにゐるものか。「私は自分が他愛の義務を、自分の詩魂の内に感ずる事を人々の為に祝福する」安部公房は一体どこにゐるものか。

お考へ下さい。

［註１］
『問題下降に依る肯定の批判』をお読み下さい。１８歳の安部公房の論理が生涯の論理であることがわかります。その最初の姿が此の論文にあります。（全集第１巻、１１ページ）

［註２］
特殊の中の普遍については次の三つのエッセイがある。

（１）安部公房の札幌文学への批判（もぐら通信第６２号）
（２）周辺思考：第２１巻、３３６ページ
（３）独創と普遍：第２２巻、２２９ページ

「また、安部公房は後年１９８５年、６１歳になつても首尾一貫して『子午線上の綱渡り』と題したコリーヌ・プレのインタビューで次のように、同じ文学観を日本文学と世界文学に関する自分自身の位置として語っています。（全集第２８巻、１０４～１０５ページ）。

「――　安部さんは処女作『終りし道の標べに』から、すでに日本の伝統を拒絶しているように見えます。日本、もしくは世界文学の流れのなかで、自作をどのように位置づけているのですか？
　安部　その返事も誰か他人に任せましょう。僕も解答をぜひ聞かせてほしい。ただ言えることは、僕は日本語でしか考えることが出来ないということ。日本のなかで、日本語で考え、日本語で書いている。しかし日本以外にも読者がいるということは、現代が地域性を超えて、同時代化しているせいではないか。その点、言語の特殊性と普遍性についてのチョムスキーの考え方に同意せざるを得ません。すべての個別文法の底に、遺伝子レベルの深さで地下水のように普遍文法が流れているという考え方です。僕が拒絶したのは日本の伝統ではなく、あらゆる地域主義的な思想の現象に対してなのです。」（全集第２８巻、１０４～１０５ページ）。」

連載物・単発物次回以降予定一覧

（１）安部淺吉のエッセイ
（２）もぐら感覚２３：概念の古塔と問題下降
（３）存在の中での師、石川淳
（４）安部公房と成城高等学校（連載第８回）：成城高等学校の教授たち
（５）存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第５回）：安部公房の汎神論的存在論
（６）安部公房文学サーカス論
（７）リルケの『形象詩集』を読む（連載第１５回）：『殉教の女たち』
（８）奉天の窓から日本の文化を眺める（６）：折り紙
（９）言葉の眼１２
（１０）安部公房の読者のための村上春樹論（下）
（１１）安部公房と寺山修司を論ずるための素描（４）
（１２）安部公房の作品論（作品別の論考）
（１３）安部公房のエッセイを読む（１）
（１４）安部公房の生け花論
（１５）奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
（１６）安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
（１７）安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
（１８）バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
（１９）詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～
（２０）安部公房の詩を読む
（２１）「問題下降」論と新象徴主義哲学
（２２）安部公房の書簡を読む
（２３）安部公房の食卓
（２４）安部公房の存在の部屋とライプニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
（２５）安部公房の女性の読者のための超越論
（２６）安部公房全集未収録作品（２）
（２７）安部公房と本居宣長の言語機能論
（２８）安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
（２９）安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
（３０）安部公房と古代の神々：伊弉冊伊弉諾の神と大国主命

（３１）安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
（３２）リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
（３３）言語の再帰性とは何か〜安部公房をよりよく理解するために〜
（３４）安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
（３５）安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
（３６）安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
（３７）『さまざまな父』論〜何故父は「さまざま」なのか〜
（３８）『箱男』論 II：『箱男』をtopologyで解読する
（３９）安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
（４０）語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエィター』
（４１）安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
（４２）安部公房の超越論
（４３）安部公房とバロック哲学
①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
②安部公房とライプニッツ：汎神論的存在論
③安部公房とジャック・デリダ：郵便的（postal）意思疎通と差異
④安部公房とジル・ドゥルーズ：襞といふ差異
⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
（４４）安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人（strangers in the night）
（４５）安部公房とバロック文学
（４６）安部公房の記号論：《　》〈　〉（　）〔　〕「　」『　』「……」
（４７）安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（１）
（４８）安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（２）
（４９）『密会』論
（５０）安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
（５１）『方舟さくら丸』論
（５２）『カンガルー・ノート』論
（５３）『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
（５４）言語とは何か II
（５５）エピチャム語文法（初級篇）
（５６）エピチャム語文法（中級篇）
（５７）エピチャム語文法（上級篇）
（５８）二十一世紀のバロック論

（５９）安部公房全集全３０巻読み方ガイドブック
（６０）安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
（６１）安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
（６２）安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
（６３）安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
（６４）詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観
（６５）安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
（６６）『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
（６７）言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
（６８）言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
（６９）言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
（７０）Topologyで神道を読む（１）：祓詞と祝詞と結界のtopology
（７１）Topologyで神道を読む（２）：結び・畳み・包みのtopology

［シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観］
（７１）超越論と神道（１）：言語と言霊
（７２）超越論と神道（２）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
（７３）超越論と神道（３）：topologyと産霊（むすひ）または結び
（７４）超越論と神道（４）：ニュートラルと御祓ひ（をはらひ）
（７５）超越論と神道（５）：呪文と祓ひ・鎮魂
（７６）超越論と神道（６）：存在（ザイン）と御成り
（７７）超越論と神道（７）：案内人と審神者（さには）
（７８）超越論と神道（８）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
（７９）超越論と神道（９）：中臣神道の祓詞（はらひことば）をtopologyで読み解く：古神道の世界観

（８０）三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
（８１）安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
（８２）『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
（８３）バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
（８４）安部公房とチョムスキー
（８５）三島由紀夫のドイツ文学講座
（８６）安部公房のドイツ文学講座
（８７）三島由紀夫のドイツ哲学講座
（８８）安部公房のドイツ哲学講座
（８９）火星人特派員日本見聞録
（９０）超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く

●テープレコーダーを持てー第１回PLAYBOYドキュメント・ファイル大賞選評：安部公房の講評と採点表：１９８０年代の日本に未だ記録芸術が生きてゐたといふことは驚きでした。選者の言葉には熱気があります。バブル経済の熱気もあるでせうが、しかし、やはり選者の顔ぶれがいい。●荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む（１０）：化石の書庫：この詩もまた超越論。安部公房とは論理が正反対の超越論でありますが。これも人それぞれです。私に化石の書庫に生き生きと眠る書物は何か？と自問自答すると、思ひつかない。私に書庫はなく、誰も知らぬ言語によつて誰にも読むことのできぬ異体の文字で書かれた古今東西の書物の収蔵された夜の図書館あるのみ。この図書館の鍵はどこにあるか。言語の本質にあるのみ。これは火中の栗である。身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ。●『第四間氷期』論：山野浩一：このかたは著名なSF文学の評論家ですが、やはり大したものだと思ひました。超越論といふ言葉を使つてゐませんので、その分文章が長くなつてゐますが、しかし安部公房の文学の本質を見事に言ひ当ててゐます。その長い論旨について行くのも、従ひ、また良いものでした。●『周辺飛行』論（５）：３。『周辺飛行』について（２）：ところで君は―周辺飛行２：安部公房のいふ周辺飛行の意味が段々とよく解ります。此処でまた猫様がお出になるとは。この背後には天使と悪魔論が隠れてゐて、初期から晩年まで続いてゐる、これが安部公房の物語の水脈であり鉱脈の一つなのです。贋宝石屋と云ひ手品師と云ひ贋魚と云ひ、本当に安部公房は箱が好きであるなあ。●安部公房とチョムスキー（１１）：さて、これで近代ヨーロッパから２０世紀の戦争へと入りました。ヒットラーの頭の中を図解することができてよかつた。こんな複雑な世の中は日本にはありません。まあ、それがわかつただけでもよし。ヒットラーに学ぶ教訓も得ることできた。小林秀雄の発言から結局は、あなたの人間としての成熟が問はれてゐることが、これも判つたことが成果です。さあ、この酷い世の中で如何にそれは可能でありませうか。お考へください。●哲学の問題１０１（９）：性（sex）：休載御免●リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（３６）：第２部Ｘ：”すべての苦労して手に入れたものを、機械は脅（おびや）かす、”：「言葉は、まだ柔らかく、言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく…」あなたの言葉や如何に。現存在でありながらこれを維持することの難しさよ。安部公房を読まれたい。そして絶望の毎日を。

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

差出人：
贋安部公房
〒182-0003東京都調布市若葉町「閉ざされた無限」

次号の予告
１。『周辺飛行』論（６）
２。荒巻義雄詩集『骸骨半島』を読む（１１）
３。安部公房とチョムスキー（１１）
４。哲学の問題１０１（９）：性（sex）
５。リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（３７）
６。Mole Hole Letter（１３）：超越論（６）：日本人は漢字を如何に二つの仮名にtopologyで変形したか

【本誌の主な献呈送付先】

本誌の趣旨を広く各界にご理解いただくために、 安部公房縁りの方、有識者の方などに僭越ながら 本誌をお届けしました。ご高覧いただけるとありがたく存じます。（順不同）

安部ねり様、近藤一弥様、池田龍雄様、ドナルド・キーン様、中田耕治様、宮西忠正様（新潮社）、北川幹雄様、冨澤祥郎様（新潮社）、三浦雅士様、加藤弘一様、平野啓一郎様、巽孝之様、鳥羽耕史様、友田義行様、内藤由直様、番場寛様、田中裕之様、中野和典様、坂堅太様、ヤマザキマリ様、小島秀夫様、頭木弘樹様、 高旗浩志様、島田雅彦様、円城塔様、藤沢美由紀様（毎日新聞社）、赤田康和様（朝日新聞社）、富田武子様（岩波書店）、待田晋哉様（読売新聞社）

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館 、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

１．もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
２．もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
３．もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
４．編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

【もぐら通信第９１号訂正箇所】

なし

訂正の場合には、Googleドライブには訂正後の最新版を差し替へて置いてをきます。